
リリカルキュアライダー学園！

キュアノア

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

リリカルキュアライダー学園！

【Nコード】

N2551T

【作者名】

キュアノア

【あらすじ】

M78星雲 光の国、そこには学校があつた。入学するのは平成ライダーとプリキュアと時空管理局と海賊がいた。注意！キャラ崩壊がありますので苦手な方はご了承下さい。

紹介

ここは学校。そこには入学生がいた。

M78星雲 光の国、ウルトラ高等学校

なのは「フェイトちゃん！はやてちゃん！一緒のクラスになったね！」

フェイト「うん。」

はやて「またもや一緒のクラスになって嬉しいな。」

つぼみ「えりか、いつき、ゆりさん！一緒のクラスになりましたね！」

えりか「一緒のクラスか。」

いつき「また一緒にやるなんて嬉しいよ。」

ゆり「・・・」

フィリップ「やあ翔太郎、アキちゃん、照井竜、一緒にクラスになるとは光栄だね。」

照井「ああ。」

亜樹子（フッフ♪竜君とクラス・・・）

翔太郎「何ニヤニヤしてんだ亜樹子？」

スバル「二人ともラブラブだね。」

ティアナ「スバル。」

エリオ「キャロ、一緒に頑張ろう。」

キャロ「うん。」

ラブ「ちょっと、作者はフレッシュプリキュアのこと知らないけど私達を出して大丈夫なの？」

美希「でも作者はYOU TUBEかDVDか映画で見たから大丈夫だと思うよ。」

祈里「今年のアニマックスの夏でフレッシュプリキュアが放送するから。」

せつな「少し知と思うよ、多分。」

士「海東と夏みかんは一緒にクラスだが、ユウスケは別クラスか。」

夏海「そうですね、ユウスケが別クラスなのは残念でしたね。」

海東（あんなクウガがいなくてよかった。）

シグナム「うゝむ、あの泥棒、何を企んでるんだ？」

ヴィータ「放つとけよシグナム。何やらされるか分からないぞ？」

シャル「そうだね。油断は禁物よ。」

のぞみ「よし頑張るぞー！」

りん「コラコラ、はしゃがない。」

うらら「一緒のクラスになるなんて嬉しいですね。」

こまち「そうだね。」

かれん「羊羹に物を入れるのは駄目だからね。」

くるみ「はあゝ、何で管理局とライダーがいるの？」

渡「あの人、僕達に嫌われてますね。」

良太郎「放つとけば？あんな紫。」

総司「おばあちゃんが言っていた。」

ヒビキ「それは分かった。」

咲「大丈夫かな？私達を出して。」

舞「大丈夫だよ。作者はDVDや映画で見たから。」

一真「作者は俺達の活躍見てたから大丈夫だな。」

乾「だが分からないぞ。」

真司「作者は少し見た記憶があるから。」

翔「そこまで出られるか分からないよ。」

雄介「大丈夫。」

なぎさ「まあ、少しは作者見てたから大丈夫だと思う。」

ほのか「そうだね。」

ひかり「うん。」

キンコンカーンコン！

するとゾフィー先生がやって来た。

ゾフィー「私がこのクラスの担当を務めるゾフィーだ。早速だが、自己紹介と行こうか。君。」

なのは「高町なのはです。」

ゾフィー「ああ。君は不幸の・・・」

なのは「それはガタツクさんのキャラである私です！この小説では私は不幸じゃありません！」

ゾフィー「すまなかった。」

フェイト「フェイト・T・ハラOWNです。デスタロツサ」

はやて「私は八神はやてです。」

つぼみ「花咲つぼみです。」

えりか「来海えりか。」

ゾフィー「君だけチビか。」

えりか「むゝ！」

いつき「明堂院いつきです。」

ゆり「月影ゆりよ。」

ゾフィー「最年長プリキュアが可愛い♪」

ゆり「あの先生、ふざけないで下さい。」

ゾフィー「すまん。調子に乗ってしまった。」

翔太郎「俺はハードボイルド探偵、左翔太郎だ。」

ゾフィー「お前はハーフボイルドだろ。」

翔太郎「ガーン！」

フィリップ「僕はフィリップです。」

ゾフィー「君は園・・・」

フィリップ「フィリップです。」

ゾフィー「君は園・・・」

フィリップ「フィリップです。」

ゾフィー「まあいい。」

亜樹子「私は照井亜樹子です！」

ゾフィー「なぜ名字が照井なんだ？」

亜樹子「私、竜君と結婚してるの。」

ゾフィー「そうか。」

照井「俺は照井竜だ。」

ゾフィー「君は確か、サイアクXでしか活躍しなかった・・・」

照井「それはガタツクさんが書いた『ダブルクライン』のキャラク

ターである俺だ！俺は仮面ライダー RETURNS 仮面ライダーアクセルで『ダブルクライン』の変わりに俺は大活躍したんだぞ！」

ゾフィー「そうかそうか。」

スバル「スバル・ナカジマです。」

ティアナ「ティアナ・ランスターです。」

エリオ「エリオ・モンディアルです。」

キャロ「キャロ・ル・ルシエです。」

ゾフィー「君達二人は結婚してるのか？」

エリオ「先生！／／／」

キャロ「ふざけたこと言わないで下さい！／／／」

ゾフィー「ごめんごめん。」

ラブ「桃園ラブです。」

美希「蒼乃美希です。」

祈里「山吹祈里です。よろしく願いします。」

せつな「東せつなです。」

ゾフィー「君はウルトラマンタロウに変身する・・・」

せつな「それは東光太郎さんです。先生、いつからボケになったのですか？」

ゾフィー「ボケてなどおらん。」

士「門矢士だ。一応言っておくが、俺はガタツクさんのキャラである俺じゃないからな、覚えておけ。」

夏海「光夏海です。」

海東「海東大樹です。よろしく。」

ゾフィー「泥棒が此処に来ていいのか？」

海東「酷い。」

シグナム「私はシグナムだ。」

ヴィータ「あたしはヴィータだ。」

シャマル「私はシャマルです。」

ゾフィー「シャマルは美人だが、二人はまだ美人ではないな。」

ヴィータ「それ言うことか？」

シグナム「ふざけるのもいい加減にしろ。」

ゾフィー「待て待て待て！分かったから。な？」

のぞみ「夢原のぞみです。」

ゾフィー「天然ボケとドジな女の子だな。」

のぞみ「酷い。」

りん「夏木りんです。」

うすら「春日野うすらです。」

こまち「秋元こまちです。」

ゾフィー「お前の料理が地獄か？」

こまち「地獄・・・」

かれん「こまちにそんなこと言わないで下さい。私は水無月かれんよ。」

くるみ「私は美々野くるみよ。」

ゾフィー「ウサギの人形に変身する奴か？」

くるみ「ウサギで悪かったですね。」

渡「紅渡です。」

良太郎「野上良太郎です。」

ゾフィー「今年の劇場版に出なかったよな。」

良太郎「それは酷い。」

総司「俺は天の道を行き、全てを司る男、天道総司。」

ゾフィー「言うと思ったぞ。」

ヒビキ「ヒビキです。よろしく、シュツ！」

ゾフィー「おっさんがいておかしいだろ。」

ヒビキ「それ酷くない？」

咲「日向咲です。」

舞「美翔舞です。」

一真「剣崎一真です。」

ゾフィー「お前確かジョーカーになったはずじゃ・・・」

一真「それはブレイド本編の話だ！俺は始の対決でジョーカーにならないようになってんだぞ！」

全員「そうなの！？」

一真「皆、酷くない？」

なぎさ「私は美墨なぎさ。」

ほのか「雪城ほのかです。」

ひかり「九条ひかりです。」

巧「乾巧だ。」

真司「城戸真司です。」

ゾフィー「あれ？お前は確か死んだんじゃ・・・」

真司「それ龍騎本編の話でしょ！それにタイムベントで俺は死なないようにモンスターを倒したんですよ！」

全員「そうなの！？」

真司「皆、酷い。」

翔一「津上翔一です。」

雄介「五代雄介です。」

ゾフィー「これで自己紹介は・・・「ちょっと待った。」ん？」

そこに三人の男性と二人の女性が現れた。

ゾフィー「誰だ？」

????「俺はマーベラスだ。」

「???」「俺はジョー。」

「???」「あたしはルカ。」

「???」「僕はハカセ。」

「???」「私はアイムと申します。」

ゾフィー「というわけで自己紹介は終わりだ。」

映司「ちよつと！俺とアंकがまだなんですよ！」

アंक「そうだぞ。」

響「私と奏もだよ！」

奏「危うく終わる所だった。」

ゾフィー「はい。自己紹介終わり。」

アंक「無視すんな！」

つばみ「転校しようかな？」

今日の日直（前書き）

今回は短いです。

今日の日直

ゾフィー「さて、自己紹介が終わったな。今日の日直は？」

全員「ん？」

ゾフィー「日直だぞ日直。」

のぞみ「シグナムさんじゃない？」

シグナム「一真じゃないのか？」

一真「マーベラスじゃない？」

マーベラス「一真じゃねえか？」

一真「シグナムさんじゃない？」

シグナム「のぞみじゃないのか？」

のぞみ「そうです。」

ドン！

のぞみ以外の全員はこけた。

のぞみ「私が当番なの。」

りん「のぞみ、何で最初から言わないのよー！」

くるみ「体が痛い。」

海東「何てことをしてくれるんだい!？」

つばみ「うるせえ、泥棒。」

海東「スイマセンデシタ。」

ゾフィー「さあ今すぐ始め。」

のぞみ「はい。」

ゾフィー「ほらすぐ始め。」

のぞみ「はい。」

りん「のぞみ、やるのよ。」

のぞみ「何をやるの?」

せつな「号令だよ号令。」

のぞみ「ああ、い、号令?」

フェイト「起立。」

のぞみ「起立!」

全員は立ったが、何故か全員は立ったままである。

かれん「次があるでしょ、次。」

のぞみ「次？」

巧「礼だよ礼。」

のぞみ「礼！」

全員は礼したが、礼したままである。

なぎさ「苦しい。」

のぞみ「次は何？」

ゾフィー「なおれだ。」

のぞみ「なおれ！」

全員は体を起こす。

ゾフィー「次は皆を座らせるんだ。」

のぞみ「お座り。」

ゾフィー以外の全員はお座りをし、ゾフィーはずっこける。

のぞみ「ふん！」

ゾフィー「お座りなどあるかバカ野郎！着席だぞ！」

士「着席か。」

なのは「楽しい♪」

全員（何処がなの？）

ゾフィー「座る。日直のやり方分かったな？」

のぞみ「はい。」

ゾフィー「すぐ始め。」

のぞみ「はい。起立礼着席！」

のぞみのスピードが早過ぎて全員はのぞみの後についていけなかった。

照井「おい！今の早いだろ！」

のぞみ「え？」

うらら「のぞみさん、早過ぎますよ。ゆっくりやって下さい。」

ゾフィー「やり直し。」

のぞみ「はい、起立！」

全員は立った。

全員「・・・」

のぞみ「礼！」

全員は礼をした。

全員「・・・」

のぞみ「ハア、着席！」

のぞみ以外の全員はずっこけた。

ラブ「もうのぞみ！」

のぞみ「だってゆっくりやってって言ったから。」

夏海「ゆっくりし過ぎます！」

ゾフィー「まあいい。授業に入る。」

ゆり「転校しようかな？」

今日の口直（後書き）

アイデアお待ちしております。

バースネタ連発と新たなゴーカイオー！（笑）（前書き）

今回はガタツクさんのアイデアです。

バースネタ連発と新たなゴーカイオー！（笑）

休み時間

士「休み時間か。」

夏海「授業は厳しいです。」

海東「士、夏メロン、部活決まったかい？」

士「部活？」

夏海「まだ決まってませんね。」

海東「それだったらファッション部に入ったらどうだい？結構おもしろいよ？」

士「ファッション部？バーカ、俺は入るつもりはねえよ。」

夏海「私もです。」

海東「そんなに冷たく言わない。早くファッション部に・・・ん？」

士「海東、後ろ。（汗）」

夏海「逃げて下さい大樹さん！（汗）」

海東「え？」↑後ろに振り向くと・・・

ブロッサム「へえ、えりかと一緒にファッション部に入っただの
すか。」↑黒いオーラ

海東「いや、あの、それは・・・アハハ。（汗）」

ブロッサム「『O H A N A S H I 』です」

カポン！

ドリルアーム！

ブロッサム「フフフ」↑ドリル回しながら。

海東「嫌だー！死にたくない！」↑引つ張りながら。

士& amp ;夏海「・・・」

なのは「アハハ、何かつぼみちゃんおもしろそう」

フェイト（何処が？）

はやて「やっぱり止められない。」

ゆり（花咲つぼみ、恐るべし。）

照井「走ってばかりじゃつまらん。」

フィリップ「ん？どういうことだい？」

翔太郎「走るのがつまらないのか？」

照井「ああ。」

亜樹子「どうするの？竜君。明日陸上大会だよ？」

照井「心配はいらないぞ所長。俺にはこれがある。」

カポーン！

キャタピアレッグ！

照井「これがあるから心配ない。」↑足にキャタピアレッグが付いてる。

亜樹子「ああー！それだったら優勝出来るね竜君！」

翔太郎「いやいや！これどう見ても駄目だろ！」

亜樹子「何でやねん！」↑スリッパ

翔太郎「タツ！」

照井「これが走っても、息抜きも出来る。」

フィリップ「成る程。」

ティアナ（これの何処が息抜き？）

スバル「ハア、空を飛びたいな。」

エリオ「でもスバルさんはロードがあるからいいんじゃないですか？」

スバル「ロードだとつまないもん。だって飽きちゃったし。」

キャロ「酷い。」

スバル「でもこれがあるから大丈夫。」

カポン！

カッターウィング！

スバル「これで空飛べるんだし！」↑空を飛んでる。

ヴィータ（駄目だこいつ。全然駄目だ。）

海東「嫌だー！死にたくない！」↑撒いた。

ブロッサム「待って下さいよ海東さん」

カポン！

クレーンアーム！

ブロッサム「そーれ！」↑海東に向けて。

海東「誰か助けてくれー！」↑引きずりながら。

なのは「おもしろいおもしろーい」

巧（だから何処がだ！？）

マーベラス「おい、新しいゴーカイオーをやるぞ。」

ジョー「新しいゴーカイオー？」

ルカ「それは何？」

マーベラス「フツ、これだ！」

ゴーカイオーを見ると何とシルエットの服であった！

ハカセ「何これ？」

マーベラス「名付けてハートキャッチゴーカイオーだ！」

アイム「マーベラスさん、さようなら。」↑マーベラスから離れる。

ジョー&ルカ&ハカセ「「・・・」」↑同じく。

マーベラス「おい、おい！」

ブロッサム「へえ、勝手なことしてくれますよね。」

マーベラス「え？」

カポン！

シヨベルアーム！

ブロッサム「死ねー！」↑シヨベルアームで殴る。

マーベラス「うわあああああ！」↑血を吐きながら。

夏海「土君。大樹さんどうなったのでしょうか？」

士「さあ？」

ブロッサム「え〜り〜か〜。」

えりか「ギクツ！」

ブロッサム「少し頭・・・冷やそうか？」

マリン「逃げるが勝ち！」↑変身。

ブロッサム「逃がしませんよ？」

カポン！

ブレストキャノン！

セルバースト！

ブロッサム「バイバイ♪」↑マリンに向けて。

マリン「うわあああああ！」↑死

奏「つぼみ、やめて。」

響「ていうかつぼみ、やめる気無いし。」

ゆり「・・・（激怒）」

カポン！

クレーンアーム！ ドリルアーム！ ショベルアーム！
レッグ！ カッターウイング！ ブレストキャノン！
キャタピア

ムーンライト・デイ「ブロッサムいい加減に・・・」

ブロッサム「お前がいい加減にしろや！」

ムーンライト・デイ（ええええええええええええ！？）

キンコンカーンコン！

ゾフィー「はい、休み時間終わり。授業に入るぞ。」

全員「はい！」

海東「・・・」↑ボロボロ。

えりか「・・・」↑同じく。

マーベラス「・・・」↑血をまだ吐いている。

つぼみ「♪」↑顔ら笑っているが、目は笑っていない。

ゆり「・・・」↑かなり落ち込んでいる。

渡「転校しようかな？」

バースネタ連発と新たなゴーカイオー！（笑）（後書き）

ラブ「つぼみ恐。」

せつな「もはや誰にも止められない。」

セブン「うゝむ。」

ラブ「あ、セブンさん。」

セブン「あ、ラブちゃんにせつなちゃんか。」

せつな「どうかしたのですか？」

セブン「いや、息子が心配で・・・」

ゼロ「全然心配しなかったじゃねえか。（激怒）」

セブン「いや、これはその・・・」

ゼロ「うるせえーくそ親父！」

セブン「ギヤアアアアア！」

ラブ&mp・せつな（セブンさん、ドンマイ。）

交通安全を守ることが大事です

フィリップ「ゾフィー先生はどうしたんだい？」

翔太郎「風邪引いて休みだつて。」

フィリップ「そうか、先生は風邪引いて休みなんだ。」

せつな「っていうかウルトラマンって風邪引くの!？」

海東「ある意味あり得ない。先生がいないとあの死神ブロッサムを止めることは出来ないぞ。」

ブロッサム「誰が死神じゃ。」↑ドリル回しながら。

海東「うわああああ!」

亜樹子「可哀想だねあの人。」

照井「ああ。」

映司「アंक、アंक、何処に行ったんだろう?」

???「カラー!何信号無視してるんだー!」

映司「え?あ、すみません!」

???「信号が赤の時は、止まるということを忘れたのか?」

映司「すいません。本当にすいません。」

士「火野、誰だこいつ？」

映司「士、実はその俺にも分からなくて・・・」

マーベラス「はあ。」

士「どうした？」

マーベラス「またあいつかよ。」

士「またあいつって会ったことあるのか？」

マーベラス「ああ、あいつは激走戦隊カーレンジャーのレッドレーサーだよ。」

全員「何!？」

恭介「俺は陣内恭介、よろしく!」

奏「王子先輩。」

恭介「君、どうしたのだい？」

奏「誰？」

恭介「君、誰か恋をしてるのかい？」

奏「実は・・・」

恭介「だったら勇気を出して、恋をするんだ！」

奏「勇気？」

恭介「例えばこんな風だ。アイ・ラブ・ユー。やって見る！」

奏「アイ・ラブ・ユー。ああー！何て良い言葉なの♪アイ・ラブ・ユー♪」

響「何やってんじゃー！」

恭介「あ。」

響「ん？」↑信号が赤になってるということに気付いた。

恭介「コラー！」

響「ごめんなさいー！」

奏「アイ・ラブ・ユー♪」

マーベラス「もうあの芝居はごめんだ。」

ジョー「結局、あれは何の意味だったんだ？」

ルカ「ホントだよ全く。」

ハカセ「でも皆にカッコいいって言われたのが嬉しかったけど。」

アイム「そうでしたね。」

奏「アイ・ラブ・ユー」

えりか「いつまでやってんの？」

海東「ただいま。」↑服がボロボロ。

えりか「あ、お帰りデイエンド。」

海東「正直魔王クウガより、死神ブロッサムはやり過ぎだ。」

ブロッサム「誰が死神ですか？」↑ドリル回しながら。

海東「イヤアアアア！」

えりか「頑張つてね、海東ちゃん。」

奏「アイ・ラブ・ユー」

アクア「赤信号、目立ち過ぎよ。」

ルージュ「うるさい。黄色はどうするの？」

レモネード「私に聞かれても、知りませんよ。」

ドリーム「青信号は渡るなんてズルいよ！」

アクア「ピンクは黙りなさい！特に緑よりは・・・」

ミント「それはどういう意味？」

アクア「貴方がウザいからよ。」

ミント「何ですってー！」

ルージュ「やめろ！仲良くなる時はあれをやるんだ！」

ドリーム「あれね。」

ドリーム&ルージュ&レモネード&ミント&アクア「「「戦う交通安全・・・」」」

恭介「駄目駄目！もつと気合いを入れる！」

ドリーム&ルージュ&レモネード&ミント&アクア「「「戦う交通安全！激走戦隊！カレンジャー！」」」

恭介「よし！」

咲「カッコいい！」

なぎさ「めちゃくちゃいいよ！」

恭介「よし。皆で、せーの・・・」

全員「戦う交通安全！激走戦隊！カレンジャー！」

せつな「もう何が何だか分からなくなってきた。皆も交通違反にな

らないように気を付けましょう。」

奏「アイ・ラブ・ユー」

同じ声だと、やっぱムカつくよね（前書き）

今回はカオスです。

同じ声だと、やっぱりムカつくよね

井坂「変なのキター！」

響「・・・」

響はネット版仮面ライダー FOREVER Atozで爆笑2
6連発を見ていた。

奏「響、どうしたの？」

響「・・・つく。」

奏「え？」

響「井坂の声ってホントにムカつく。（激怒）」

奏「どうして？」

響「さあね。（激怒）」

ほのか「取り敢えず落ち着きましょう。」

アंक「えゝゝゝじ。ほのかの声を聞いてたら何でムカつくんだ？」

映司「さあ？」

なぎさ「何でアंक、ほのかと敵対してんの？」

のぞみ「さあ？」

団「今日の響は音楽には奏でてないね。」

照井「・・・」

照井はスイートプリキュアを見ていた。

翔太郎「照井？」

フィリップ「どうしたんだい？照井竜。」

照井「何故だ？」

翔太郎＆amp・フィリップ「？」

照井「何故北条響の父親を聞いてたら何故かあいつを倒したくなる。」

アクセル！

翔太郎「照井！？」

アクセル「振り切って来る。」

フィリップ「頑張ってね。」

翔太郎「行くなー！」

メビウス「どうにかしないのですか？」

ヒカリ「どうかしろって言われてもな〜・・・」

ブルーム「何でヒカリの声ってムカつくの? (激怒)」

イーグレット「ヒカリの声ってホントにムカつく。 (激怒)」

ひかり「何してんのー!？」

えりか「ホントにシャーリーの声はムカつく。 (激怒)」

いつき「何処が？」

なのは「幸せ〜」

マーベラス「何だがよく分かんねえが、あの子の声聞きたくねえ。」

ジョー&ルカ&ハカセ「『同感。』」

アイム「？」

士「おい、何だこれ？」

夏海「何か皆さん、同じ声だとムカついてるのですよ。」

士「そんなに気にしていいのか？」

ブロッサム「皆さん、いい加減にして下さいよ。」

全員「ギクッ!」

ブロッサム「そんなに気にするのなら、夢の中でも見て下さい」

全員「ギヤアアアアア！」

フェイト「あゝあ。」

ブロッサム「ウフフ」

海東「あの死神ブロッサムはもう止められない。皆に報告する。あの死神ブロッサムには近寄らないでくれ。じゃないと、酷い目に会うから……ってイヤー！やめてくれー！」↑ブロッサムに海東の服を引っ張りながら。

ゆり「やめんかー！」

嵐を呼ぶ栄光の学園！（前書き）

あの幼稚園5年生の少年が登場します。

嵐を呼ぶ栄光の学園！

ゾフィー「実はこの学校に見学する少年が来るそうだ。」

ラブ「誰なんですか？」

ゾフィー「それはお授業が終わってからの楽しみだよー！」

なぎさ「うざっ。」

つぼみ「殺しましょうか？」 ↑腕にタクトを持ちながら

ゆり「何言ってるんのアホ！」 ↑ハリセン

つぼみ「痛っ。」

なのは「つぼみちゃんはおもしろいっ！」

フェイト「なのは、元に戻ってよ。」

はやて「これの何処が幸せや？」

良太郎「何か・・・」

咲「不吉な予感がする。」

舞「私も。」

渡「何が？」

良太郎「いや、見学する少年だよ。何か嫌な予感がするんだ。」

渡「？」

ウルトラの父「失礼する。」

ゾフィー「あ、校長先生と教頭先生。」

ウルトラの母「もう来たそうよ。」

ゾフィー「そうですか。」

マーベラス「それって誰なんだ？」

えりか「早く教えてよ。」

ゾフィー「分かった。見学する少年、カモーン！」

全員（何今の？）

???「おお、此処がウルトラ学校か。」

ウルトラの父「今日はこの学校を見学しに来た野原しんのすけだ。」

しんのすけ「オラ、野原しんのすけ！幼稚園の5年生だぞ！ん？」

良太郎「しんちゃん！」

しんのすけ「おお、これはこれは良太郎君ではありませんか。」

咲「しんちゃん、お久し振り。」

しんのすけ「おお、咲お姉さんと舞お姉さん！」

舞「お久し振り！一緒にダンスしたこと覚えてる？」

しんのすけ「ああ、確か、ガンバライドdeダンスだったような・
・」

咲「ガンバランス！」

舞「それカードゲームだから。」

全員（知ってんの？というか何時から知り合い？）

渡「しんちゃん、お久し振り。」

しんのすけ「誰？」

渡「渡だよ渡。」

しんのすけ「渡君、お久し振りだぞ。」

渡「覚えてたんだ、よかった。」

しんのすけ「それにしても、綺麗なお姉さんがいっぱいだぞー！」

全員「え？」

しんのすけ「お姉さん、デートしてくれない？」

スバル「デートって・・・」

ティアナ「ホントにこの幼稚園なの？」

ヴィータ「おい、見学するんじゃないのかよ？」

しんのすけ「オラはお子ちゃまには興味ないぞ。」

ヴィータ「んだとテメー！」

シグナム「落ち着け。」

しんのすけ「オラ、仮面ライダーに変身出来るんだぞ。」

士「仮面ライダーに？」

フィリップ「それは本当かい？」

しんのすけ「まあ見てて。」

そこに豚みたいな奴が現れた。

せつな「何この豚!？」

しんのすけ「おおーブリブリザエモン！」

全員（何それ？）

しんのすけ「変っ身！」

するとしんのすけの姿が、仮面ライダーの姿に変身した。その名は、仮面ライダーしん王である。

しん王「オラ、参上！」

翔太郎「何じゃこりゃー!?!」

ひかり「ホントに仮面ライダーになった。」

奏「・・・」

響「奏？」

奏「・・・しい。」

響「？」

奏「新しい仮面ライダーが登場するとは、実に素晴らしい！」

響「は!?!」

奏「新しい仮面ライダーのハッピーバースデー!」↑奏特製ケーキをいつの間にか作っていた。

しん王「おおー!」↑目がキラキラと輝いている。

奏「これで新しい仮面ライダー、しん王が地球のために戦つ、これこそ実に素晴らしい!」

アंक「チツ、あいつ鴻上になりやがって。」

映司「アंक、気にしない方がいいぞ。」

つぼみ「・・・」

いつき「つぼみ？」

つぼみ「クレヨンしんちゃんって下品過ぎるんだけど。」

しん王「ん？」

ブロッサム「クレヨンしんちゃんなんて、ぶっ潰してやる。」↑変身してタクトを持ちながら。

しん王「あ、先生！何とかして下さい！」

ブロッサム「ん？何だよ、誰もいな・・・！／＼／」

後ろに振り向くが、誰もいない。ブロッサムはしん王の所に振り向くと、何時の間にかブロッサムの胸を触っていた。

全員「！？」

しん王「隙ありだぞ。」

ブロッサム「テメエ！／＼／」

しん王「ほい！」

今度はブロッサムのスカートをめくった。

ブロッサム「！／／／」

全員「！？」

しん王「残念でしたね、つばみお姉さん。」

ブロッサム「ぶっ殺す！／／／」↑顔や耳が赤くなってる

咲「どうすんの？」

舞「放つときましょ。」

良太郎「だよね。」

真司「転校しようかな？」

嵐を呼ぶ栄光の学園！（後書き）

言い忘れておきましたが、ウルトラの父は校長でウルトラの母は教頭です。

22世紀からやって来たタヌキ？いやネコ？

ブロッサム「あのガキ、何処に行った？」↑前回のことでまだ恨んでいる

咲「しんちゃん此処にいないよ。もう諦めたら？」

ブロッサム「誰が諦めるか！あのガキ、ホントに許さねえ！見つけたらボコボコにしてやる！」

士「おいおい、どんだけキャラ崩壊してんだよ？」

海東（もう死神ブロッサムを見るのはもう嫌だ。）

のぞみ「あのさ、今日この学校に見学する人が来るんだって。」

全員「また！？」

のぞみ「そう、また。」

ブロッサム「あのガキか！」

のぞみ「残念だけど、しんちゃんじゃないよ。」

ブロッサム「チッ。」↑舌打ち

フィリップ（何故舌打ちなんだ？）

なのは「キャラ崩壊っておもしろい」

巧（だから何処がだ！）

エリオ「なのはさんってあんなキャラでしたっけ？」

キャラ「さあ？」

????「あの……」

ヴィータ「ん？」

シャル「どうしたの？僕。」

????「此処って、ウルトラ高等学校ですか？」

こまち「そうだけど……」

????「ほら見る！俺の言ってた通りだ！」

????「でも迷子になってたじゃないか！」

????「何だと？もういつペン言ってみろ！」

????「やめてー！」

????「二人とも喧嘩はやめて！皆に迷惑かけるでしょ！」

????「そうだぞ！」

????「仕方ねえ。」

「???「まあいつか。」

雄介「君達、名前は？」

「???「僕は野比のび太です！」

えりか「のび太、変な名前。」

のび太「変な名前とは何だ！」

「???「落ち着いてのび太さん。私は源しずかです。」

「???「俺は剛田武！又はジャイアン、よろしく！」

ルカ「凄い名前。」

マーベラス「ジャイアンか。おもしれえな。」

「???「僕は骨川スネ夫です。」

なぎさ「ハア。」

ひかり「なぎささん、どうしたのですか？」

なぎさ「何かスネ夫という声を聞いてたらムカつくんだけど。」

ジャイアン「それと俺は歌が得いなんだ！」

えりか「歌が得いか。なら聞かせてよ。」

のび太「駄目！」

かれん「え？」

ジャイアン「フウ……」

スネ夫「皆耳を防いでー！」

全員「うん。」↑耳を防ぐ

ジャイアン「おゝれはジャイアン！」

翔太郎「うるせえ！」

亜樹子「どんだけでかいの!？」

アंक「おい！あのデブを何とかしろ！」

しずか「何とかしてとは言われても……」

シグナム「何とかしないと、耳がちぎれる……」

ハカセ「もう……駄目。」

ヴィータ「やめろこの下手くそ！」

ジャイアン「おい、今何て言った？」

ヴィータ「な、何だよ？」

ジャイアン「もういつぺん言ってみる！」

ヴィータ「うわあー！」

なのは「ジャイアン君の歌最高♪」

響（アカン。あのエースオブエースはアカン過ぎる。）

Blossam「・・・」↑黒いオーラ

ジャイアン「ん？」

Blossam「歌うなら余所でやれ。じゃないとこっちは迷惑なんだよ。」

???「スモールライトー！」↑ Blossamに向けて発射

Blossam「ん？」↑ Blossamの体が縮んでいく。

ゆり「あれ？」

Blossam「おい、何だこれは!？」↑めっちゃ小っちゃくなった

???「ふう〜、間に合った。」

えりか「何このタヌキ？」

???「タヌキじゃない！僕は22世紀からやって来たネコ型ロボットだ！」

のぞみ「ドラえもん、遅いよ。」

「ドラえもん「いやゝごめんねのぞみちゃん。遅くなっちゃって・・・」

りん「知り合い？」

うらら「さあ？」

くるみ「のぞみ何時から知り合ったの？」

のぞみ「ドラえもん、今日は何について見学するの？」

ドラえもん「今日は勉強について見学しに来たんだ！」

のぞみ「そうなんだ！」

のび太「のぞみさん、学校どうですか？」

のぞみ「まあおもしろいかな？」

しずか「そうですか。」

ジャイアン「頑張つてな！」

スネ夫「僕達も応援してるよ！」

のぞみ「ありがとうみんな。」

ラブ「じゃあ皆で遊びをやるぞー！」

全員「おー！」

映司「ちょっと、授業はどつすんの？」

ブロッサム「おーい！私を元に戻せー！」
↑小さいままである

今回のお話と英語の勉強（前書き）

途中からは8時だよ！全員集合の雰囲気になります。

今回のお話と英語の勉強

マーベラス「・・・」

士「ん？マーベラスどうした？」

マーベラス「門矢。」

士「いつもの四人組が来てねえがどうした？」

マーベラス「浚われた。」

士「何？」

マーベラス「浚われたんだよ、パスコに・・・」

響「パスコ？」

マーベラス「ああ。」

つぼみ「でもさ、赤き海賊団のリーダーがアカレッドなのは驚いたぜ。」

いつき「おいおいどんだけキャラ変わってんの！？つか何時の間に元に戻ったの！？」

つぼみ「そうだな。あの青いタヌキの道具を奪って私は元に戻ったのさ。」

ゆり「まさかあのドラえもんを・・・」

翔一「でも火野君のプトティラコンボを制御することが出来たのって凄かったね。」

映司「いや、それほどでも・・・」

奏「紫コンボに耐えるとは実に素晴らしい!」

えりか「それに次のオーズは伊達がー!」

アंक「あの伊達がまさかな・・・」

えりか「許せない!あの医者である仮面ライダーバースが裏切るなんて許せん!」

ほのか「ガメルとメズールが復活なんて私は凄く嬉しい!」

なぎさ「ほのか?」

一真「というかさ、此处学校じゃなくなつて来たんだけど・・・」

巧「確かに・・・」

せつな「皆すっかりやろうよ!つぼみがすっかりやらないとこっちが・・・」

つぼみ「何か私に用か?」

せつな「すいませんでした。」

美希「というかこの小説完璧じゃない。」

祈里「この小説の扱いが酷過ぎる。」

はやて「先生がおらへんし他のウルトラマン達はどつなつとるんや？」

なのは「パオーン」

フェイト（何故に象？）

タロウ「何をしている？」

総司「いや、今日のお話をしてるんだ。」

タロウ「そうか。」

くるみ「というかあんた誰？」

タロウ「私か？私は英語の授業を担当するウルトラマンタロウだ。」

マーベラス「英語の先生が何の用だ？」

タロウ「もう授業が始まってるんだが・・・」

のぞみ「え？もうこんな時間！？」

フィリップ「知らなかったのかい？今回のお話をしたらこんな時間になるのは当たり前じゃないか。」

亜樹子「フィリップ君だけ分かったのかい！」

夏海「それを言っして下さい！」

フィリップ「ごめんね。」

タロウ「よし、英語で・・・象を何という？手を挙げる。」

全員「はい！」

タロウ「九条君。」

ひかり「はい。」

タロウ「英語で象は何という？」

ひかり「エレファント。」

タロウ「はいよく出来ました。」

ひかり「ありがとうございます。」

なぎさ「凄いじゃん。」

タロウ「じゃあ英語で・・・犬は何という？手を挙げて。」

全員「はい！」

タロウ「エリオ君。」

エリオ「はい。」

タロウ「英語で犬は何という？」

エリオ「ドッグ。」

タロウ「いいな、はいもう一度。」

エリオ「ドッグ。」

タロウ「はいよく出来ました。」

キャロ「エリオ君凄い。」

エリオ「ありがとうキャロ。」

タロウ「じゃあ英語で・・・猫は何という？手を挙げて。」

全員「はい！」

タロウ「フィリップ君。」

フィリップ「はい。」

タロウ「猫は？」

フィリップ「飼ってます。」

ドーン！↑フィリップ以外の全員はずっこける

タロウ「ちょっと待て、今そういう勉強してるのか？」

フィリップ「え？」

のぞみ「飼ったとかそういう答えじゃないのよ！」

タロウ「お前は言うな。いいか？これは英語の時間だ。飼ったとかそういう答えはない！分かったな？」

フィリップ「はい。」

タロウ「英語で猫はキャット。」

のぞみ「へえ。」

タロウ「へえ〜じゃないよ！猫はキャット！」

全員「キャット！」

タロウ「次は英語で・・・生徒を何という？手を挙げて。」

全員「はい！」

タロウ「一真君。」

一真「はい。」

タロウ「生徒は？」

一真「スチューデント。」

タロウ「はいよく出来ました。」

一真「ウェー！」

フェイト（何故にオンドウル語？）

タロウ「英語で・・・先生を何という？手を挙げて。」

全員「はい！」

タロウ「夢原君。」

のぞみ「はい。」

タロウ「先生は？」

のぞみ「嫌いです。」

ドーン！↑のぞみ以外の全員はずっこける

りん「何言ってるの？」

タロウ「酷いなホントに。先生は？」

のぞみ「おふざけ。」

タロウ「先生は？」

のぞみ「調子に乗ってる。」

タロウ「おい、それゾフィー先生のことか？」

のぞみ「うん。」

タロウ「いいか？ゾフィー先生はな、ふざける所はあるが、真面目な所もある。ゾフィー先生に悪口を言うな。分かったな？」

のぞみ「はい。」

タロウ「それと先生はティーチャー。」

のぞみ「ティーチャー。」

タロウ「ティーチャー。」

のぞみ「ティーチャー。」

タロウ「ティー・・・」

のぞみ「ティー・・・」

タロウ「ティー・・・」

のぞみ「ティー・・・」

タロウ「アイ。」

のぞみ「アイ。」

タロウ「マイ。」

のぞみ「マイ。」

タロウ「ミィ。」

のぞみ「はい？」

タロウ「アイマイミィ。」

のぞみ「アイマイアイ。」

タロウ「ユーユアユー。」

のぞみ「ユーヨーヤー。」

タロウ「懐かしいなおい！この野郎・・・」

うらら「何の話ですか？」

のぞみ「途中何なのか分かんなくて・・・」

タロウ「次は体の英語。英語で手を何という？手を挙げて。」

全員「はい！」

タロウ「夏海君。」

夏海「はい。」

タロウ「手は何という？」

夏海「ハンド。」

タロウ「よく出来たな。」

士「流石は夏みかんだな。」

夏海「それほどでもありません。」

タロウ「というわけで授業終わりだ。」

全員「早っ！」

タロウ「充分遊びたまえ。」

つぼみ「何か気に入らねえな。パスコという奴。」

マーベラス「だろ？」

つぼみ「そして伊達も気に入らん。」

えりか「だろ？伊達なんか気に入らん。」

響「次回のスイートプリキュアでは私のママが私の家に暮らします
！」

奏「これこそクロス！素晴らしい！」

渡「転校しようかな？」

番外編：人気投票

映司「第1回リリカルキュアライダー学園・・・」

響「人気投票！」

マーベラス「人気投票、おもしろえじゃねえか！」

奏「私達が出演しているリリカルキュアライダー学園のキャラクターに投票して下さい！ウルトラマンは・・・まあ入れてもOKです。」

アंक「但し、一票入れるのは許すが、二票や三票で一気に入れるのは駄目だぞ。」

ジョー「結果発表にはカオス過ぎることもあるが・・・」

ルカ「それは気にしない。」

ハカセ「えーっと、締切は6月12日となります。」

アイム「沢山の応募・・・」

全員「待つてまーす！（待つてろよ！）」

キュアライトニングの能力紹介

えりか「あのさ、聞きたいことがあるんだけど・・・」

フェイト「何？」

えりか「ハトプリSTRIKERSに登場したオリジナルプリキュア、キュアライトニングのことが気になるんだけど。」

フェイト「あー、キュアライトニングのことね。ではキュアライトニングの能力を説明しよう。」

キュアライトニング

デスタロッサ

フェイト・T・ハラOWNが変身するプリキュア。カラーはオレンジ。フェイトのデバイス、バルデッシュを使うことが可能である。ソニックよりもスピードが速くて、一発でメモリブレイクをする事が出来る。

えりか「一発で!?!」

フェイト「うん。」

えりか「凄っ。」

フェイト「まだ説明は終わってないよ。次は必殺技の能力よ。」

プリキュア・ライトニングスマッシャー

キュアライトニングの必殺技。バルディッシュの力を溜めて、敵を切り裂く。掛け声は『雷よ誘え!』である。最後は『ハートキャッチ』の掛け声で決める。

えりか「これってあたし達と同じ掛け声だね。」

フェイト「でしょ?」

えりか「台詞は?」

フェイト「そうね。台詞は・・・『派手に行くよ!』はどいつ?」

えりか「それゴージャァー!」

フェイト「だよね。」

えりか「台詞は何すんの?」

フェイト「考え中。」

えりか「台詞は・・・うん。」

フェイト「決まった。」

えりか「早っ! まいっか。フェイトの台詞は?」

フェイト「私の胸がビリビリと輝き、そして貴方を倒す!」

えりか「うん。この台詞はちょっと・・・」

フェイト「微妙？」

えりか「うん。」

フェイト「そっか。」

えりか「台詞を考えるのは誰だって難しいんだよ。」

フェイト「だよね。」

えりか「台詞はもうちょっと考えようね。」

フェイト「もう考えたんだけど・・・」

えりか「早っ！」

フェイト「言ってるいい？」

えりか「どうぞ。」

フェイト「貴方の悔しさを私が癒す！」

えりか「いいんじゃない？その台詞。」

フェイト「いいの？」

えりか「うん！この台詞で決まりだよ！」

フェイト「よし！」

えりか「以上！」

フェイト「キュアライトニングの・・・」

フェイト&えりか「「能力紹介でしたー！」」

今回の話と算数の勉強

ジヨー「ただいまこの学園に戻って来ました。」

なぎさ「あ、お帰り。」

ルカ「酷い目に合った。」

ハカセ「もうこりこりだ。」

アイム「新しいレンジャーキーを手に入りましたね。」

響「ママ。」

夏海「どうしたのですか？」

奏「響のママ、またフランスに行っちゃったんだ。響は響のお父さんと一緒に暮らしてます。」

夏海「そうですか。」

照井「何故か北条の父親の声が聞いてたら、何かあいつを倒したくなる。」

響「照井さん、私のパパを殺さないで。」

キンコーンカーンコーン！

ヒカリ「俺が算数の担当するウルトラマンヒカリだ。よろしく。」

咲「ム力つく。」

舞「うん、ウルトラマンヒカリの声を聞いてたら何でム力つくの？」

響「さあ？」

ヒカリ「問題を出すぜ。ベイビー！」

全員「は？」

咲「やっぱム力つく！（激怒）」

舞「ええ、殺したくなっちゃう！」

響「だからやめて！」

ヒカリ「すまん。調子に乗ってしまった。それじゃ授業を始める。
リングが五つありました。その内二つ食べた。果たして残ったリン
ゴは？手を挙げて。」

全員「はい！」

ヒカリ「来海君。」

えりか「はい。」

ヒカリ「残ったリングは？」

えりか「次の日食べた。」

ドーン！↑えりか以外の全員は転ける。

えりか「一日じゃ食べきれないの。だから次の食べ・・・うぐっ！」
↑のぞみにパンチされる。

ヒカリ「そんな勉強じゃないだろ！今は算数の時間だ！」

のぞみ「今は英語の時間だよ！」

ヒカリ「算数だバカ！英語じゃない！」

士「何言ってるんだ？」

ヒカリ「手を挙げて。」

全員「はい！」

ヒカリ「夢原君、残ったリンゴは？」

のぞみ「ジュースにした！」

ドーン！↑のぞみ以外の全員は転ける。

のぞみ「食べきれないからジュースにすれば早いからゴックン。」

ヒカリ「バーカ。そんな答えがあるか。手を挙げて。」

全員「はい！」

ヒカリ「美墨君。」

なぎさ「はい。」

ヒカリ「残ったリンゴを二つ食べたんだ。どうなった？」

なぎさ「歯茎から血が出た。」

ドーン！↑なぎさ以外の全員は転ける。

なぎさ「ドロドロドロドロ出た。」

ヒカリ「ちゃんと問題の話聞いてる。手を挙げて。」

全員「はい！」

ヒカリ「夢原君。」

のぞみ「はい。」

ヒカリ「いいか？ちゃんと話を聞けよ。残ったリンゴを二つ食ったよ。」

のぞみ「誰が？」

ヒカリ「誰がつて誰でもいいだろ？」

のぞみ「誰食べたか分かんないもん。」

ヒカリ「じゃあ夢原君が食べた。」

のぞみ「私食えないもん。」

ヒカリ「じゃあ先生が食べた。」

のぞみ「いつなの？何処で？」

ヒカリ「関係ない。」

のぞみ「先生、私が言いたいことって、5 - 2でしょ？」

ヒカリ「分かってるじゃん。」

のぞみ「5 - 2でしょそれ？」

ヒカリ「じゃあ夢原君、5 - 2は？」

のぞみ「分かりません。」

ドーン！↑のぞみ以外の全員は転ける。

亜樹子「え〜？」

せつな「ちよつとのぞみ。」

ヒカリ「だったら偉そうに言うな！バーカ！」

のぞみ「む〜。」

ヒカリ「それじゃ授業は終わりだ。ゆっくり遊べ。」

夏海「転校しようかな？」

今回の話と算数の勉強（後書き）

今回は二人の作者のコラボです。

コラボとダイスオー

マーベラス「おい。」

つぼみ「何？」

マーベラス「今日はゲストが来るそうだぞ。」

えりか「ゲスト？」

いつき「誰だろう？」

ゆり「というか周りは何故かクウガからキバまでのライダーとスイートの二人となのはとフェイトしかいないの？」

雄介「いや、分かんない。」

翔一「皆さん、何か忙しいって言ってましたけど・・・」

真司「何だろう？」

巧「先生はいねえのかよ？」

一真「先生は全員出張だ。」

ヒビキ「全員出張か。」

響「てか全員出張ってどういことー!？」

総司「おばあちゃんは言っていた。寂し過ぎる時は遊べばいい。」

良太郎「でも、遊ぶもん何にもないよ。」

渡「暇過ぎる。」

奏「素晴らしい！ハッピーウェディング！」

フェイト「奏はもう・・・」

なのは「鴻上さんとこに入った方がいいんじゃない？」

ゼロ「だな。」

全員「ん？」

ゼロ「ん？」

・・・

ゼロ「よお。」

全員「う、ウルトラマンゼロ！」

ジョー「何の用だ？」

ゼロ「ゲストを連れて来た。ゲストは・・・この方達だ！」

嵩月「こんにちわ。」

オトヤ「どうも。」

アインハルト「初めまして。」

後藤「俺がバースだ。」

ゼロ「ゲストは・・・ガタツクさんが今書いてる小説、『仮面ライダー×仮面ライダー×仮面ライダー 超スピンオフ!!』のキャラクター、嵩月奏と登オトヤとアインハルト・ストラトス、そして後藤だ!」

つぼみ「嵩月さん!」

嵩月「つぼみさん!お久しぶりです!」

つぼみ「久しぶりです!」

えりか「嵩月さんがいたら何時の間にか・・・」

いつき「普通になってる。」

後藤「俺がバースだ。」

ゼロ「まだ他にゲストがいるぜ。来い!」

終「どうも。」

楓「こんにちわ。」

真谷「よお。」

ゼロ「今ユートピアさんが書いてる『IS>インフィニット・スト
ラトス 黒き牙と永遠の月』のキャラクター、終と楓と『仮面ラ
イダーオメガ』のキャラクター、真谷だ！」

えりか「久しぶりです。」

終「久しぶり。」

楓「サインを！」

真谷「またプリキュアのサインかよ。」

ゼロ「好きな所で遊んでくれ。此処はぶっ壊してもいいぞ。」

響「いやいや駄目でしょ！」

いつき「オトヤ君、お久しぶり。ファイル11以来だね！」

オトヤ「お久しぶりです。いつき・・・さん。」

アインハルト「オトヤ君、知り合い？」

オトヤ「うん。アインはいつきさん達と出会っのは初めてだよね？」

アインハルト「はい。」

いつき「初めまして。」

アインハルト「初めまして。（かっこいい。）／／／」↑いつきが

女ということは知らない。

オトヤ「アイン。いつきさんはね・・・」

後藤「俺がバースだ。」

奏「貴方の名前って奏なんですか？」

嵩月「そうだけど、貴方は？」

奏「初めまして、南野奏です。」

嵩月「私と同じ名前ですね。」

奏「はい。南野さんでいいです。」

嵩月「じゃあ私のことは嵩月さんで。」

えりか「二人とも。ポケモンバトルよかったよ。」

終「それほどでもねえよ。」

楓「私、ポケモン好きになっちゃいました♪」

後藤「俺がバースだ。」

えりか「そうそう。ダイスオーDXでもやろうよ!」

なのは「ダイスオーDXで!私カードゲーム大好き!」

後藤「俺がバスだ。」

えりか「ルールは簡単！先に体力が0になった方が勝ちだよ！」

後藤「俺がバスだ。」

えりか「メンバーは5人！好きな戦隊を選んでね！」

後藤「俺がバスだ。」

えりか「男性ばつかでも女性ばつかでもOK！」

後藤「だがバスは伊達さんだ！」

えりか「優勝したら豪華なプレゼントが・・・」

後藤「伊達さあああああああん！」

えりか「あゝいちいちバスバスうるさい！帰れ！」

カポーン！

バス（後藤）「だったら俺と勝負するか？ダイスオーで。」

えりか「やってやるよ！」

雄介「俺はいいです。」

翔「俺は遠慮しておきます。」

真司「俺も。」

巧「俺はやるぜ。」

一真「やるの!？」

ヒビキ「俺はやめとく。」

総司「俺もだ。」

良太郎「僕はやめとく。」

渡「僕はやめときます。」

つぼみ「私はやります。」

いつき「僕はやるよ。」

ゆり「私も。」

響「私は・・・やろうかな？」

奏「私はやります。」

嵩月「私やります!」

オトヤ「僕はやる。アインは？」

アインハルト「私は遠慮します。」

オトヤ「そうか。」

終「俺はやるぜ。」

楓「私も！」

真谷「俺はやめとくぜ。」

なのは「私やる！」

フェイト「私はやろっかな？」

マーベラス「俺はやるぜ。」

ジョー「俺はそういうのは興味ない。」

ルカ「あたしも。」

ハカセ「僕も。」

アイム「私もです。」

マーベラス「皆がやらねえのなら俺もやめとく。」

全員（ええええええええ！?）

えりか「じゃあやるっしゅ！」

いつき「でも、誰が司会とと審査と実況やるの?。」

ゼロ「それだったらもう決まってるぜ。」

響「早っ！」

ゼロ「司会はミラーナイト、審査はグレンファイアーと実況はジャンボットだ。」

ミラーナイト「やあ、私は鏡の星の戦士、ミラーナイトだ。」

良太郎&p・つぼみ&p・えりか&p・いつき&p・ゆり（何かミラーナイトの声がムカつく。）

グレンファイアー「俺は炎の戦士、グレンファイアーだ。」

ジャンボット「私は鋼鉄の武人、ジャンボットだ。よろしく。」

良太郎（ジャンボットの声がかムカつく。）

ゼロ「あ、すまんが三人とも。司会や審査や実況はいるから帰っていいぞ。」

ミラーナイト&p・グレンファイアー&p・ジャンボット
「「「おい！」「」」

なのは「バイバイ♪」

嵩月「つぼみさん。この世界のなのはさんって・・・」

つぼみ「いつも、あんなキャラなんです。」

第一試合 響VS奏

響「何で私と奏と対決しなくちゃいけないの？」

奏「私だってホントは響と戦いたくないもん。」

響「あ、そ。だったらいいけど。」

奏「ちよつと響！そんな言い方ないでしょ！」

響「やるか？」

奏「やってやるよ。貴方みたいなバカをね。」

響「私が選んだ戦隊は・・・」

ゴセイジャー「天装戦隊、ゴセイジャー！」

えりか「ゴセイジャーだ。」

奏「私の戦隊は・・・」

シンケンジャー「侍戦隊、シンケンジャー！」

奏「シンケンジャーだよ。」

響「シンケンジャーか。おもしろい。」

ゼロ「んじゃバトル開始だ！」

此処からは長いので、省略します。

響「イエーイ！私の勝ちー！」

奏「許せない。」

響「ん？」

奏「絶対に許さないよ響。あんただけはぶっ殺してやる。」

響「上等だよ。やってやろっじゃん。」↑手にはテンソウダーとカード。

奏「やる気？」↑手にはシヨドオフォン。

えりか「あの二人は放つといて・・・次！」

第2試合 巧VS楓

巧「俺の戦隊は・・・」

ゴーオンジャー「炎神戦隊、ゴーオンジャー！」

一真「何故ゴーオンジャー!？」

巧「だって俺はゴーオンジャーに出ていたからな。」

真司「それは分かるけど・・・」

楓「あゝ、いいですか？」

ゼロ「構わんぜ。」

楓「私の戦隊は・・・」

ハリケンジャー「忍風戦隊、ハリケンジャー！」

楓「ハリケンジャーとゴウライジャーです。」

雄介「凄いね。」

巧「行くぞ！」

楓「はい！」

省略します。

巧「俺の勝ちだ。」

楓「・・・」

終「おい、勝つてどうする？」

巧「は？」

柊「よくも楓を倒したわね。」↑黒いオーラ。

巧（やべっ！）

柊「乾巧。」

ファイズA「逃げるが勝ち！」↑変身して逃走。

柊「待ちなさい！」↑追う。

全員「・・・」

第3試合 オトヤVSいつき

オトヤ（まさか、僕がいつきさんと戦うなんて・・・）

いつき「ん？オトヤ君。どうしたの？」

オトヤ「いえ・・・」

アインハルト「オトヤ君！いつきさん！頑張つて！」

オトヤ「（アインが応援してるんだ。僕が頑張らないと・・・）僕の戦隊は・・・」

ガオレンジャー「百獣戦隊、ガオレンジャー！」

いつき「ガオレンジャーか。なら僕の戦隊は・・・」

デカレンジャー「特捜戦隊、デカレンジャー！」

いつき「デカレンジャーだよ」

渡「おもしろくなって来ましたね。」

いつき「行くよオトヤ君！」

オトヤ（いつきさん、ホントに可愛い。僕、どうしたらいいの？僕はアインにするかいつきさんにするか、僕、迷う・・・ちやう。）
↑顔が真っ赤になりながら気絶。

いつき「オトヤ君！どうしたの！？」

アインハルト「オトヤ君！しっかりして！」

えりか「はい。オトヤノックアウト。よって勝者はいつき。」

いつき「オトヤ君・・・」

第4試合　ゆりVS終

ゆり「私と終君が勝負だね。」

終「ああ。」

ゆり「勝つのは私よ。私が使う戦隊は・・・」

マジレンジャー「魔法戦隊、マジレンジャー！」

終「マジレンジャーか。だったら俺は・・・」

カーレンジャー「激走戦隊、カーレンジャー！」

終「カーレンジャーだ！」

ゆり「勝負よ。」

省略します。

終「負けた。」

ゆり「甘かったようね。」

翔一「流石ゆりちゃん！凄いね！」

ゆり「ありがとう、翔一さん。」

第5試合 つぼみVS嵩月

つぼみ「私が嵩月さんと勝負！？」

嵩月「私が、つぼみさんと戦うなんて・・・」

いつき「頑張ってつぼみ。僕は応援してるよ。」

ライトニング「そうだよ。嵩月さんも頑張って。」

嵩月「はい。っていうか貴方誰？」

つぼみ「フェイトさんです。」

嵩月「え！フェイトさん！？何ですかその格好！？」

ライトニング「この姿はね、母さんがくれたライトニングパフュームで私はプリキュアになったの。名前はキュアライトニング。」

嵩月「凄いですね！」

つぼみ「嵩月さん！やりましょう！」

嵩月「はい！」

つぼみ「私が使う戦隊は・・・」

サンバルカン「太陽戦隊、サン・・・バルカン！」

つぼみ「サンバルカンです。そして後の二人はゴーオンウィングスです！」

嵩月「私が使う戦隊は・・・」

メガレンジャー「電磁戦隊、メガレンジャー！」

嵩月「メガレンジャーです。」

えりか「頑張れつぼみー！」

楓「頑張ってください！嵩月さん！」

つぼみ「行きます！」

嵩月「うん！」

省略です。

つぼみ「凄いですね嵩月さん！」

嵩月「いえ、つぼみさんも凄かったですよ。」

つぼみ「いや、それほどでも・・・」

ゆり「で、勝負は？」

つぼみ& a m p・嵩月「引き分け。」

ドーン！↑つぼみ、嵩月以外の全員は転ける。

ヒビキ「ダイスオーに引き分けあるの!？」

総司「あり得ないな。」

第5試合　なのはVSフェイト

なのは「わーい！私とフェイトちゃんの勝負だ♪」

フェイト「なのは。元に戻ってよ。」

楓「なのはさんのキャラが・・・」

終「寒過ぎる。」

嵩月「これの何処が幸せなんですか？」

つぼみ「さあ？」

なのは「私が使う戦隊は・・・」

ゴーカイジャー「海賊戦隊、ゴーカイジャー！」

ルカ「ちょっと！何で私達ゴーカイジャーなの！？」

なのは「だって私、ゴーカイジャーに出てるんだもん♪」

ジヨー「言われてみると・・・」

ハカセ「確かに。」

アイム「そんな気がします。」

フェイト「私の戦隊は・・・」

ゴーゴーフアイブ「救急戦隊、ゴーゴーフアイブ！」

なのは「フェイトちゃんはゴーゴーフアイブか。行くよ！」

フェイト「なのは、勝つのは私だからね！」

省略します。

フェイト「よし！私の勝ち！」

なのは「わーい！私負けちゃった♪」

ドーン！↑なのは以外の全員は転ける。

良太郎「負けたのが楽しいの？」

アインハルト（この世界のなのはさんが痛々し過ぎる。）

えりか「最後はあたしと後藤ちゃんがバトルよ！」

後藤「おもしろい、勝つのは俺だ！」

最終試合 えりかVS後藤

真谷「何故こんな勝負なんだよ？」

楓「さあ？」

えりか「あたしが使う戦隊は・・・」

ゴレンジャー「秘密戦隊、ゴレンジャー！」

後藤「ゴレンジャーか。なら俺はこれだ！」

デンジマン「電子戦隊、デンジマン！」

えりか「デンジマンね。勝負！」

つばみ「レディー、ゴー！」

省略。

後藤「なかなかやるな。」

えりか「そっちこそ。」

真司「結果はどうなったの？」

えりか「引き分けだよ。」

後藤「流石に疲れたな。」

数分後

嵩月「とても楽しかったです。ありがとうございました。」

つぼみ「また遊びに来て下さい。」

アインハルト「最後に記念写真はとうですか？」

オトヤ「いいねそれ！」

いつき「復活した！？」

楓「プリキュアのサイン貰っちゃった！」

終「よかったな。」

真谷（ダイスオーをやらなかった方が正解だった。）

響「奏、仲良くしようよ。」

奏「うん。」

巧「酷い目に合った。」

終「お前が勝つからこんなことになったんだよ。」

柊「今度楓が負けたら許さないわよ。」

巧「分かったよ。」

後藤「楽しかったぞ。キュアマリン。」

えりか「あたしも楽しかったよ。バース。」

なのは「撮ろうよ、マーベラス君♪」

マーベラス「しょうがねえな。」

ジョー「撮るか。」

ルカ「あたしも。」

ハカセ「僕も！」

アイム「私も。」

フェイト「私も撮る。」

ゼロ「じゃあ撮るぞ。1 + 1は？」

全員「2ー！」

カチッ！

コラボとダイスオー（後書き）

ガタツクさん、ユートピアさん、ありがとうございました！間違いがあつたら感想を。

オーズがコンボになる歌が気になる（前書き）

お仕事開始！

オーズがコンボになる歌が気になる

咲「・・・」

舞「どうしたの？咲。」

咲「あのさ、オーズがコンボになる時の歌って・・・」

舞「オーズがコンボになる時の歌がどうしたの？」

咲「めっちゃ笑えるよ！アハハハハ！（笑）」

舞「プクッ！確かに、タトバとガタキリバ、ラトラータ、サゴーズ、タジャドル、シャウタ、プトティラは笑える！（笑）」

咲「あの歌気になるし、笑い過ぎて腹が痛くなるほどおもしろい！（笑）」

アंक「歌を気にしちゃ、ダ・メ♪」↑いきなり出た。

咲「うわっ！アंक？」

アंक「歌を気にしちゃ、ダ・メ・よ♪」↑しかも女性服を着ている。

舞「何かアंक、気持ち悪くなってる。（汗）」

映司「ウフフフ♪」

咲「映司さん、どうしたのですか？」

映司「ウフーン、またあの人に恋をしたい♪」↑ヤミーの洗脳です。

咲&舞「ポーン。」

咲「寒い。」

舞「さて、オーズの歌について説明します。まず最初はタトバから。」

タトバコンボの場合

タカ！トラ！バッタ！タ・ト・バ！タトバタ・ト・バ！

ガタキリバコンボの場合

クワガタ！カマキリ！バッタ！ガ／＼タガタキツリバガッタキリツバ！

ラトラータコンボの場合

ライオン！トラ！チーター！ラタラタ／＼、ラトラーター！

サゴーズコンボの場合

サイーゴリラ！ゾウ！サゴーズ、サゴーズ！

タジャドルコンボの場合

タカ！クジャク！コンドル！タ／＼ジャ／＼ドル／＼！

シャウタコンボの場合

シャチ！ウナギ！タコ！シャシャシャウタ！シャシャウタ！

プトティラコンボの場合

プテラ！トリケラ！ティラノ！プトティラ！ノザウル！ス！

舞「というわけです。」

咲「この歌はめちゃくちゃ笑えるで！」

舞「咲、いつから関西人になったの？」

咲「今の冗談だけど？」

「???」「おりゃあああああああ！」

咲&a m p;舞「「？」」「」

伊達「ふう、間に合った。」

咲&a m p;舞「「伊達さん！」」「」

伊達「お、咲ちゃんに舞ちゃん！どうしたの？」

咲「あの二人、何とかしてくれませんか？」

伊達「ん？」

映司「恋愛コンボ。」

アング「ゆ・る・し・て♪」

伊達「おいおい二人とも！何気持ち悪いことやってんだよ！？やめるー！」

咲「頑張ってください伊達さん。（泣）」

舞「応援してます。（泣）」

結果発表！（前書き）

はつきり言います。票がめちゃくちゃ少ないです！

結果発表！

マーベラス「第1回リリカルキュアライダー学園人気投票・・・」

響「結果発表！」

全員「イエーイ！」

映司「まず最初は0票の皆さんから！」

0票

ひかり

咲

舞

りん

うらら

かれん

くるみ

美希

祈里

いつき

亜樹子

なのは

フェイト

はやて

スバル

ティアナ

シグナム

ヴィータ
シヤマル

「ひかり「どうして、私は0なんですか？SPD、エマージェンシー。」

全員「え？」

キャットレンジャー「どうしてですか？」↑又はデカスワン。

なぎさ「ひかり！デカレンジャーのアメリカ版のパワーレンジャーSPDに出るのは分かってるけど何で変身するの！？」

ほのか「ひかりさん！落ち着いて！」

咲「どうしてなんだろうね？」

舞「うん。」

りん「分かった。私達の出番があんまりないという事だね？」

うらら「きつとそうですよ。」

かれん「うざって。」

くるみ「殺して〜。」

響「やめんかー！」

美希「完璧じゃないね、私達。」

祈里「うん。」

なのは「わーい！私0票だー！」

フェイト「そこ笑う所？」

はやて「なのはちゃんをどうにかしてくれ。」

スバル「何でエリオとキャラがないの？」

ティアナ「おかしいでしょ？」

ヴィータ「いいよな。あんた達は票があつて・・・」

シグナム「どうせ私達なんか・・・」

シャマル「地獄なんか落としちゃうから。」

響「やめろー！」

マーベラス「じゃあ最初は1票目だ！」

1票目

ジョー

ルカ

ハカセ

アイム

アंक

天道

ヒビキ

一真

巧

真司

翔一

雄介

士

海東

夏海

翔太郎

フィリップ

照井

ほのか

こまち

ゆり

奏

ジョー「1票か。」

ルカ「少なっ。」

ハカセ「どうして少ないの？」

アイム「さあ？」

アंक「そんな事は気にするな！」

天道「1票なら早い。」

ヒビキ「いや、早くないよ。」

一真「ウェーイ！」

巧「オンドウルやめろ。」

真司「いや、1票って凄いよね翔一君。」

翔一「そうですね真司さん！」

雄介「何楽しんでんの？」

士「もう出番かよ。」

海東「やったね士。」

夏海「士君や大樹さんと一緒だなんて・・・」

翔太郎「やったなフィリップ！」

フィリップ「ああ。」

照井「すまない所長。俺が1票になってしまつて・・・」

亜樹子「いいんだよ。竜君がいれば関係無いから。」

照井「所長。」

亜樹子「竜君。」

響「はいはい、イチャつかない。」

ほのか「私1票、嬉しい♪」

ガメル「メズール、おめでとう♪」

ほのか「ありがとうガメル♪」

全員「何でガメルがいるんだよ!？」

ハミイ「ハモったニヤ!」

こまち「ケーキに羊羹でも・・・」

全員「いやいや、やめといた方がいいよ。」

ハミイ「またハモったニヤ!」

ゆり「何か嫌な予感が凄くするんだけど・・・」

全員「うん、そう思う。」

奏「ハア、1票か。」

マーベラス「次は2票目だ!」

2票目

映司
渡

響

映司「俺2票目!？」

渡「え?僕？」

響「嘘!？」

マーベラス「次は3票目だ。」

3票目

良太郎

なぎさ

のぞみ

良太郎「ま、僕はこんなもんかな？」

なぎさ「3票目か。」

のぞみ「イエーイ!」

マーベラス「次は4票だ。」

4票目

ラブ

せつな

つぼみ

えりか

エリオ

キャロ

ラブ「やったー！幸せゲットだよ！」

せつな「やったねラブ！」

つぼみ「私とえりかが一緒か。」

えりか「やったねつぼみ！」

エリオ「キャロと一緒にだね！」

キャロ「うん、嬉しい。（嬉し泣き）」

スバル& amp・ティアナ（ずるっ。）

映司「最後は、5票だね。」

響「さて・・・」

奏「この中で、5票獲得したのは・・・この人！」

5票目

マーベラス

マーベラス「よっしゃー！」

ジョー「流石マーベラスだな。」

ルカ「ゴークカイジャーのリーダーが最強だね。」

ハカセ「マーベラス最高！」

アイム「マーベラスさん、1位おめでとうございます！」

マーベラス「フツ、以上！」

???「ちよいと待てー！」

全員「ん？」

???「私を忘れとるぞ！」

全員「え？」

全員は上を振り向くと、巨大化したウルトラマンがいた。ウルトラマン「私は1票地球を愛するウルトラマンだ！」↑スペシウム光線を出す。

全員「うわあ！」↑逃げる。

マーベラス「以上！第1回リリカルキュアライダー学園・・・」

映司「人気投票・・・」

響「結果発表でした！あゝウルトラマンを何とかしてー！」

なのは「学園破壊最高！」

フェイト「最高じゃないよなのはー！」

何処かの学園

「???」フッフッフ、おもしろそうな学園だな。この学園を乗っ取
ってやる！フハハハハハハ！」

結果発表！（後書き）

次回はあの暗黒のウルトラマン登場！

こまちとシャマルの地獄料理（前書き）

暗黒のウルトラマンは・・・打ち切りとなりました。すいません。

こまちとシャマルの地獄料理

セブン「あゝ腹減った。」

ゼロ「おい親父、腹減ってどうすんだよ?」

セブン「しょうがないじゃないか、ゼロ。ウルトラ戦士だって腹減る時はあるじゃないか。」

ゼロ「俺は別に腹なんか減ってねえよ。」

セブン「冷たく言うなよゼロ。たまには食べればいいじゃないか。」

ゼロ「この姿をどうやって食うんだ?」

セブン「それは・・・ん?」

ゼロ「どうした親父?ん?」

机の上には、珍しいケーキがあった。

ゼロ「何だよ?ケーキか。」

セブン「・・・」↑よだれ。

ゼロ「おいバカ親父、そのよだれなんだ?」

セブン「いや、あの・・・」

ゼロ「食いたきゃどうぞ。俺は知らないから。」

セブン「じゃあ私はいただく。」

ゼロ「ハア。」

ヴィータ「ダメー!」

ゼロ「ん?」

りん「セブン先生!そのケーキ食べちゃダメ!」

セブン「え?」

だが一足遅く、セブンはゴックンとなる。

のぞみ「あ、食べちゃった。」

ドスン。

セブンはそのまま倒れる。

セブン「・・・」↑激死。

ゼロ「バカ親父ー!」

シグナム「無念。」

メディカルセンター

セブン「あゝ、危うく死ぬ所だった。」

ゼロ（死ねば良かったのに。）

うらら「セブン先生、どうしてあのケーキ食べたんですか？」

セブン「いや、あれは美味そうなケーキだったから食べようかな、
と。思。っ。て。」

かれん「見た目は美味しいケーキですけど違いますよ。」

セブン「へっ？」

プ。

くるみ「うわっ！臭っ！誰この屁！？」

セブン「あ、すまん。私だ。」

かれん（ウルトラマンに屁って・・・）

ゼロ「なあ、どんなケーキなんだ？」

のぞみ「地獄ケーキ。ケーキの中には羊羹と毒があるんです。」

セブン&ゼロ「何ー！？」「」

ゼロ「誰があのケーキ作ったんだ！？まさかベリアルか！？」

セブン「いや、ベリアル完全に死んでるからこの世にはいないんだよ。」

ヴィータ「あのさ、ぶつ殺していい？」↑アイゼンを持ちながら。

シグナム「やめろドアホ！」

くるみ「あのケーキを作ったのは・・・」

セブンとゼロは緊張にかかる。

セブン「誰・・・だね？」

うらら「こまちさんと・・・」

ヴィータ「シヤマルだ。」

セブン「はい？」

ゼロ「本当なのか？」

シグナム「ああ。実はあの二人の基地に潜入したんだが、セブン先生とゼロ先生も手伝ってくれないか？」

ゼロ「ああ、いいぜ。」

セブン「私も手伝う。」

のぞみ「そうと分ければ、全員で二人の基地を潜入するぞ！ けってーい！」

かれん「ねえ、何かこの学園、静かになってない？」

くるみ「そういえば・・・」

うらら「静か過ぎますね。」

ヴィータ「まさかシャマルとこまちの地獄料理を・・・」

シグナム「全員無事だと信じたいんだが・・・」

りん「とにかく、二人の基地を潜入しよう！」

全員は気付かなかった。こまちとシャマルの地獄料理に他の生徒達と他のウルトラマンが食べてしまった事を・・・

謎の基地

ゼロ「こ、此処が二人の基地か。」↑小声。

りん「はい、あの二人は地獄料理を何個も作ってるんです。」

うらら「このままだと、この学園は全滅になってしまうんです!」

全員「シー!」

うらら「ごめんなさい。」

ヴィータ「あ、いた!」

二人は隠れてこまちとシャマルを見つけた。二人は何と大量の地獄ケーキを作っていた。

シグナム「なな、何て大量だ?(汗)」

ヴィータ「まるであの二人、地獄兄弟というより地獄姉妹だ。」

のぞみ「何個作ってるの?」

セブン「全部で100個だ。」

全員「ひゃ、100個!?」

ゼロ「おい、どうすんだよ!?」

シグナム「し、仕方ない。こうなったら・・・」↑かれんを向く。

かれん「ん？」

シグナム「ちよつといいか？ヒソヒソ・・・」

かれん「あれね。」

シグナム「ああ。」

ヴィータ「なあ、あれって何だ？」

シグナム「ちよつとした作戦だ。ただ、チャンスは一回だ。」↑変身。

アクア「まさかあれを使うとは思わなかったわ。」↑変身。

ゼロ「おい、あれって何だよ？」

のぞみ「何々！？何々！？」

りん「コラコラ、はしゃがない。」

シグナム「魔導陣。」

アクア「次元・・・」

アクア&シグナム「転送開始！」

すると沢山あった地獄ケーキが消えた。

アクア「成功！」

シグナム「やったぜ！」

ゼロ「すげえ。」

セブン「地獄ケーキを全部消えさせるとは。」

アクア「これにて、一件落・・・」

ヴィータ「着じゃねえー！」

シグナム「え？」

何と、冷蔵庫の中から、地獄ケーキが沢山入っていた。

シグナム「そんなバカな！」

アクア「嘘でしょ？」

ゼロ「あんなところにあつたんかよ？」

セブン「どうする？」

りん「仕方ない。こうなったら・・・この基地から逃げるべし！」

ドリーム「けつてーい！」↑変身してからこの基地から逃げる。

ゼロ「だよな！」

セブン「あ、ちょっと！」

メディカルセンター

レモネード「二人の基地に脱出・・・功。」

ルージュ「何であんな・・・に。」

ドリーム「え？」

ヴィータ「嘘・・・だろ？」

ドリーム達の前にはミントとバリアジャケットをつけたシャマルがいた。

シグナム「気付いてたのか？」

シャマル「当たり前じゃない。そんなの誰だって気付くよ。」

ゼロ（何か嫌な予感。）

ミント「あ、このケーキは私とシャルルさんが作っただけど、食べる？」

セブン「いえ、私は・・・」

ドリーム「腹いっぱい食べられません。(汗)」

ヴィータ「ああ、そうだよ。な？(汗)」

アクア「え、ええ。アハハ(汗)」

シャルル「遠慮無しで・・・」

ミント「食べて下さい」

全員「うわあああああ！」

そして全員は、地獄ケーキの餌となってしまうた。と思いきや生き残った人が一人だけいた。

ブロッサム「危なかった、勘弁してよ。」

花咲つぼみことキュアブロッサムだった。

ブロッサム「それじゃ、次回もまた。早く此处から逃げよう。」

こまちとシャマルの地獄料理（後書き）

こまちとシャマルには近付か無い方が良いと思いませんか？

番外編：マーベラスのお仕置き（前書き）

一位をとったマーベラスの話です。

番外編：マーベラスのお仕置き

救世主のブラジラを倒してからのお出来事であった。

ゴーカイイエロー「よっしゃー！」

ゴーカイグリーン「ハートキャッチゴーカイオー、凄かったね！」

ゴーカイピンク「はい。」

Sマリン「これは奇跡だね！」

コフレ「奇跡ですっ！」

Sサンシャイン「ハア、ゴーカイオーって綺麗だね。」

ポプリ「綺麗でしゅ！」

Sムーンライト「これでこの世界を守れたわ。ありがとう、ゴーカイジャー。」

ゴーカイレッド「それ程でもねえぜ。」

Sブロッサム「ゴーカイレッド、何か忘れてありませんか？」

Sブロッサムはブラックスマイルを浮かぶ。

ゴーカイレッド「な、何だよ？」

ゴークイブルー「忘れてるようだな。」

ゴークイイエロー「あゝあ、マーベラス最低。」

ゴークイレッド「何がだよ？」

ゴークイグリーン「マーベラス、あれ。」

ゴークイピンク「地獄の世界でキュアブロッサムさんを投げたじゃないですか？」

ゴークイレッド「あ、そういえばそれ忘れとった。」

シプレ「投げたってどついう事ですう？」

ゴークイイエロー「例えばこついうの・・・」

ブロッサムが復活する前の時間を戻る。

ゴークイピンク「マーベラスさん、何をするのですか？」

ゴークイレッド「ブロッサム、ちょっとそこで動くなよ。」

ブロッサム『え?』

ゴークイブルー「どうする気だ?」

ゴークイエロー「急がないとワームホールが閉じちゃうよ!」

ゴークイグリーン「このままだと、ブロッサムが生き返らなくなるよ!」

ブロッサム『早くして下さい!急がないと・・・』

ゴークイレッド「いいか?俺を・・・信じろー!」

ゴークイオーは何とワームホールに向けてブロッサムを投げる。

ゴークイブルー「おい!」

ゴークイエロー「嘘!?」

ゴークイグリーン「ええええええええ!?」

ゴークイピンク「ちょっとマーベラスさん!」

ブロッサム『うわあああああああ!』

ブロッサムはワームホールの中に入った。

ゴークイレッド「楽勝だぜ。」

ゴーカイイエロー「楽勝じゃない！」

ゴーカイイエローはでかいハリセンでゴーカイレッドを叩く。

ゴーカイレッド「イテッ！何すんだ！？」

ゴーカイイエロー「マーベラス最低！」

ゴーカイグリーン「どうして投げるの！？」

ゴーカイレッド「間に合わねえから投げるしか思い付かなかったんだよ。」

ゴーカイピンク「マーベラスさん、酷過ぎます。」

ゴーカイブルー「後悔した方がいいぞ。」

ゴーカイレッド「それより、あのロボット野郎をぶっ潰すぞ！」

元の時間

ゴーカイイエロー「というわけよ。」

Sマリン「へえ、よっぽど酷い事するんだ。」

ゴーカイレッド「うるせえ！ブロッサムが復活したからいいだろ。」

Sサンシャイン「良くないですよ。ブロッサムを投げるとは良い度胸ですね。」

ゴーカイレッド「ちよつと・・・。」

Sブロッサム「ウフフ」

Sブロッサムの周りには、究極のオーラがあつた。

Sブロッサム「ゴーカイレッド。」

ゴーカイレッド「何だよ？」

Sムーンライト「私達も避難しましよ。」

ゴーカイブルー「マーベラス、御愁傷様だ。」

ゴーカイレッド「おいお前等！」

Sブロッサム「私・・・。」

ゴーカイレッド「やべえ予感。」

Sブロッサム「堪忍袋の緒が切れました」

ゴーカイレッド「うわあああああああ！」

そしてゴーカイレッドは死んだ。

ゴーカイレッド「勝手に殺すなー！」

Sブロッサム「まだ終わってないですよ？ここに来て下さい」
↑ゴーカイレッドを引きずる。

番外編：マーベラスのお仕置き（後書き）

ゴカイレッドファンとブロッサムファンの皆さん、ごめんなさい。

作文では、志村けんの真似をする大バカがいた（前書き）

今回はめちゃくちゃ8時だよ！全員集合の雰囲気とキャラ崩壊が激しいです！

作文では、志村けんの真似をする大バカがいた

ゾフィー「えー、今日の時間は作文用紙を皆の前で読む事だ。皆作文書いて来たか？」

全員「はい！」

ゾフィー「じゃあ手を挙げて！」

全員「はい！」

えりか「ちょー！ゾフィー！」

ゾフィー「はい来海君。」

えりか「はい。」

ゾフィー「英語の1は？」

えりか「は？」

ゾフィー「英語の1が分かんないのか？」

えりか「うー、ワン！」

ゾフィー「はいよく出来ました。」

えりか「え？」

ゾフィー「もう一回手を挙げて。」

全員「はい！」

ゾフィー「火野君。」

映司「はい。」

アंक「映司、くだらん事はやめろよ。」

映司「分かってるよアंक。作文、3年C組火野映司。え、この頃俺は明日の……」

ゾフィー「持てゴラー！」

映司「え？」

ゾフィー「火野君、パンツの事について作文を書いたのか？」

映司「はい。そうですけど……」

ゾフィー「バーカ！パンツについて作文を書く人が何処におるんだ！？」

映司「いや、あの……」

アंक「それがくだらんって言うんだよ映司！」

映司「そんな。」「（泣）」

ゾフィー「火野君には困ったもんだ。次手を挙げて。」

全員「はい！」

えりか「ねえ！ゾフィー君！こっち来て！」

ゾフィー「来海君。」

えりか「はい。」

ゾフィー「英語の1は？」

えりか「うゝ、ワン！」

ゾフィー「はいよく出来ました。」

えりか「・・・（泣）」

アイム「先生。」

ゾフィー「アイム君。」

アイム「はい。作文、3年C組、アイム・ド・ファミーユ。私は地球で散歩をしました。散歩をしている途中、私は・・・」

ルカ「ちょっと持ってアイム！それってアイムが誘拐された作文？」

アイム「はい。そうですが・・・」

ゾフィー「たまにはいいでしょう。アイム君はセンスがいいからね。」

」

アイム「ありがとうございます。」

咲「でも誘拐されたのはザンギャックじゃなくて・・・」

アイム「あ？」↑最強オーラ。

咲「ごめん。ごめんなさい。すいません。申し訳ありません。命だけは・・・」

舞（アイムさん、怖い。）

ゾフィー「手を挙げて。」

全員「はい！」

えりか「ゾフィー兄さん！ちょっと！」

ゾフィー「来海君！」

えりか「はい！」

ゾフィー「英語の2は？」

えりか「うゝ、ワン！ワン！」

ゾフィー「はいよく出来ました。」

えりか「・・・（泣）」

なぎさ「先生！」

ゾフィー「美墨君。」

なぎさ「はい。作文、3年C組美墨なぎさ。来年になると、私はいろはがるたを作ります。」

ゾフィー「ほう？いろはがるたを作るのか？」

なぎさ「はい。」

ほのか（なぎさっているいろはがるた作れっ たっけ？）

ひかり（さあ？）

エリオ「聞かせて下さい！」

なぎさ「はいはい。」

ゾフィー「いろはのいは？」

なぎさ「一度見たらゾオ〜とする犬神家とゾフィー家。」

うすら「上手いですよなぎささん！」

海東「流石だね。」

全員「よし！」

ジヨー（何でよしなのかおかしい。）

ゾフィー「じゃあるは？」

なぎさ「老人みたいだあの顔は。」

全員「よし！」

ゾフィー「は。」

なぎさ「恥ずかしいよあの顔は。」

全員「よし！」

ゾフィー「に。」

なぎさ「人間じゃないよあの顔は。」

全員「よし！」

響「いやいや、ウルトラマンは人間だよ！？」

天道「おばあちゃんが言っていた。ウルトラ銀河伝説では、人間からウルトラマンになった事を・・・」

ゾフィー「ほ。」

なぎさ「ホントはキモいよあの顔は。」

全員「よし！」

響（駄目だ。突っ込む気がなくなった。）

ゾフィー「へ。」

なぎさ「変態丸出し酷い顔。」

全員「よし！」

ゾフィー「と！」

なぎさ「とうとう死んだかゾフィーは。」

ゾフィー「死んでねえだろバカ！」

つぼみ「行くぞーファイト！」

全員「ファイト！」

ゾフィー「何がファイトだバカ！」↑ハリセン。

つぼみ「イテッ！」

ゾフィー「先生が死んでしまっただけ何がファイトだ！？バカ！次、手を挙げて。」

全員「はい！」

えりか「ゾフィーちゃん！」

ゾフィー「来海君。」

えりか「はい。」

ゾフィー「英語の3は？」

えりか「うゝ、ワン！ワン！ワン！」

ゾフィー「はいよく出来ました。」

えりか「・・・（泣）」

のぞみ「はい！」

ゾフィー「夢原君。」

のぞみ「はい。作文、3年C組、夢原のぞみ。私も来年は高校生になる。私の高校生生活は・・・」

のぞみ以外の全員は転ける。

のぞみ「ん？」

ゾフィー「もつとはつきり読めよ。」

のぞみ「私も来年は高校生になる。私の高校生生活は・・・」

またのぞみ以外の全員が転ける。

ゾフィー「お前。読み方が1字多いんだバカ！」

のぞみ「あ、そっか。私の生生活は・・・」

またのぞみ以外の全員は転ける。

ゾフィー「この野郎、何処・・・私の高校生生活は！」

のぞみ「私の高校生生活は、毎日臨月だった。」

またのぞみ以外の全員は転ける。

ゾフィー「何だよ臨月ってよこの野郎！満月って書いて・・・こういう時は満足だろ！」

のぞみ「あ、満足か。毎日満足だった。お母さんから貰った小便で・・・」

またのぞみ以外の全員は転ける。

のぞみ「え？」

ゾフィー「お前ん家しょんべんくれるのか？」

のぞみ「貰った事ないそんなの。」

ゾフィー「しょんべん・・・小遣い！」

のぞみ「小遣いか。お母さんに貰った小遣いで、鳥のウンコを買い・・・」

またのぞみ以外の全員は転ける。

ゾフィー「待てこの野郎！」

のぞみ「鳥のウンコって・・・」

ゾフィー「そんなの売ってんのか！」

のぞみ「売ってないよ。」

ゾフィー「鳥のインコを買い！」

のぞみ「インコか。鳥のインコを買い、クソを与えた。」

またのぞみ以外の全員は転ける。

のぞみ「え？」

ゾフィー「食えるかそんなの！」

のぞみ「何て読むんだろう？」

ゾフィー「餌だろバカ！カタカナ間違えるな！」

のぞみ「餌か。餌を与えた。お父さんもお母さんも、私を変態している。」

またのぞみ以外の全員は転ける。

りん「変態？」

ゾフィー「何でそんな事すんだ？」

のぞみ「いや、あの〜・・・」

ゾフィー「私を期待しているだろ！」

のぞみ「期待か。私を期待している。私が人間として浣腸する時・・・」

またのぞみ以外の全員は転ける。

ヴィータ「浣腸ってお前アホか！」

ゆり「のぞみは元々バカなのよ。」

のぞみ「ゆりさん！」

ゾフィー「浣腸じゃない！完成する時！」

のぞみ「完成か。完成する時、お父さんを改めて妊娠しよう。」

またのぞみ以外の全員は転ける。

のぞみ「ねえねえ！お父さん妊娠しちゃったよ！」

翔太郎「妊娠？」

ラブ「ホント？」

のぞみ「これ何と読む？」

ゾフィー「認識させようだバカ者！」

のぞみ「認識か。認識させよう。私は勃起してふんばる。」

またのぞみ以外の全員は転ける。

ゾフィー「お前はホントにこの野郎！そうじゃない！奮起して・・・」

のぞみ「うるさいな！最後まで読ませてよ！最後まで！」

ゾフィー「じゃあ間違えず読め！」

のぞみ「・・・」

くるみ「のぞみ？」

のぞみ「終わり。」

またのぞみ以外の全員が転ける。

巧「終わりかよ！」

一真「のぞみちゃんの作文って何だったんだ？」

ティアナ「この子、スバルより超バカかも。」

スバル「ティア！それどういう事！？」

ゾフィー「ふざけんなこの野郎。」

全員（あんたに言われたくない。）

ゾフィー「それとフェイト君はどうした？」

なのは「フェイトちゃんなら別の小説に出てったよ。」

ゾフィー「なに〜！？やっちゃったな！」

全員「めっちゃ古っ！」

映司「明日のパンツ・・・（泣）」

えりか「もう英語は嫌だ・・・（泣）」

作文では、志村けんの真似をする大バカがいた（後書き）

皆さんは8時だよ！全員集合は見た事ありますか？

奏の頭って硬い？

鎧「どうもー！俺はゴーカイジャー6人目のゴーカイシルバー、伊狩鎧です！よろしくお願いしまーす！ん？」

奏「・・・」

鎧「どうかしましたか？」

奏「ねえ、私の頭って硬い？」

鎧「え？そうは思いませんが・・・」

奏「だよね。」

鎧「ん？」

ルカ「ちよつと、こつち来て。」↑小聲。

鎧「ルカさん？」

凱はルカの所に行く。

鎧「どうかしたんですかあの子？」

ルカ「あのね、スイートプリキュアって知ってる？」

鎧「知ってるっす！でどうしたんですか？」

ルカ「あの子ね、プリキュアになる前の第1話でどうも響の言葉があれだったのよ。」

スイートプリキュア 第1話

響『じやなきや石頭だ♪』

ルカ「というわけよ。」

鎧「成る程。」

祈里「何ともないけど・・・」

はやて「凄いオーラがたつとるんやで。」

ルカ「どうにかしないと・・・」

鎧「あ、見て下さい！」

奏「ねえ、私の頭って硬いの？」

士「ん？」

士は奏の頭を触ると・・・

士「硬いな。まるで石だな。」

ルカ「あ。」

奏「・・・」

士「どうした？」

奏「私の頭って石なんですか？」

士「は？」

リズム「私は石だ。石頭でキュアリズムだー！」↑変身して必殺技。

士「うわあああああー！」

はやて「門矢さんって酷い。」

祈里「酷過ぎる。」

鎧「何であんな風になったんですか？」

ルカ「ほら！仮面ライダーの１０００話記念でアंकが後藤に言った事分かる？」

仮面ライダー １０００話記念

アंक『お前はそこで石になつてろ。』

鎧「確かにアंकさんも酷いですね。」

つぼみ「何の話してんだ？」↑いきなり出た。

祈里「うわっ！つぼみちゃん！」

ルカ「いきなり出て来ないでよ！」

つぼみ「あ？」

ルカ「ごめんなさい。」

鎧（怖いっす。）

つぼみ「それと次回はアंकは退場するぜ。」

鎧「え！？」

つぼみ「ていうかアंकはもう学園を卒業しちゃったぞ。」

はやて「嘘！？」

祈里「信じられない。」

つぼみ「で、奏は何やってんだ？」

鎧「時間無いから説明するっす！」

早送り。（笑）

鎧「というわけっす！」

つぼみ「ふーん、そうなんだ。」

奏「私は石だ。石頭でキュアリズムだー！」

ルカ「もうどうなってんの？この状況？」

ハカセ「ルカ、何やってんの？」

つぼみ「あ、ドンさん。」

ハカセ「・・・（泣）」

はやて「ちょ待て！ドンさんはないでしょ！ハカセさんでいいじゃん！」

ハカセ「はやてちゃん。（泣）」

祈里「もうこの学園の扱いが酷過ぎて何が何なのか分かんなくなってきた。」

鎧「この学園に入ってよかったのかな？」

ルカ「この学園はいいじゃん！沢山友達作れるからいいじゃん！」

鎧「ルカさん。」

奏「皆、何やってんの？」

奏に見つかってしまった。

全員「うわあ！」

奏「皆、私の頭って硬い？」

つぼみ「硬いに決まってるんだろ。」

全員「それ言ったら駄目だって!」

つぼみ「は?」

奏「やっぱり私の頭って硬いんだね。」

つぼみ「?」

リズム「私は石だ。石頭でキュアリズムだー!」↑また変身してスーパードYNAMITE。

全員「うわああああああ!」

マーベラス「もうわけ分からなくなって来た。」

ジョー「どうしたらいい?」

アイム「そういえばスイートプリキュアに4人目のプリキュアが出来ますね。」

ジョー「何時なんだ？それ。」

アイム「うーん、まだ不明ですね。」

マーベラス「名前は・・・むぐつ！」

ジョー「それを言ったらおもしろくなる！」

アイム「マーベラスさん、ネタバレはいけませんよ。それでは、リカルキュアライダー学園では質問を応募します。」

ジョー「但し、質問をやるのはこの作品だ。」

マーベラス「×切は無しだ。気になる事があつたらこの作品の感想だ。感想をお待ってるぜ。」

ジョー「マーベラス、ネックレスつけていたか？」

マーベラス「ギクツ！」

ジョー「誰だ？」

セイレーン「ちっ！」↑セイレーンになって逃走。

ジョー「待て！」

アイム「本物はマーベラスさんは何処なんでしょう？」

マーベラス「おーい！俺は此処だー！」
↑宇宙にいた。

奏の頭って硬い？（後書き）

質問コーナーをやろうと思いますのでよかったら感想をお願いします！
す！×切は無しです！

転校生現る！（前書き）

今回は転校生現れます！

転校生現る！

ゾフィー「今日は転校生を紹介する。」

くるみ「転校生？」

美希「誰かしら？」

ゾフィー「入って来い。」

ドアが開くと、そこには・・・

マーベラス「あ！」

バスコ「どうも、この学校に転校する事となったバスコです。」

ゴーカイレッド「バスコ！」↑変身。

バスコ「あらマベちゃん。皆も一緒じゃん。」

ゾフィー「やめろ！この学校壊したらどうするつもりだ！？」

マーベラス「チッ。」

バスコ「俺の席は何処？」

ゾフィー「バスコ君の席は・・・夢原君だ。」

のぞみ「はいはい！私は夢原のぞみ、よろしくね！」

バスコ「よろしく。」

ゾフィー「えゝ友達が加わったところで・・・」

のぞみ「ねえねえパスタさん！（バスコの事。）」

バスコ「誰がパスタ？俺バスコだけど・・・」

のぞみ「ごめんなさいパスタさん。」

バスコ「のぞちゃん（のぞみの事）、俺バスコだよ！」

マーベラス「ヘッ、お前の名はパスタか！気に入った！（笑）」

ハカセ「マーベラス、それ言い過ぎじゃ・・・」

マーベラス「まあいいじゃねえか、ドンさん。」

ハカセ「また・・・（泣）」

はやて「ハカセさん、泣かないで下さい！」

ハカセ「はやてちゃん・・・（泣）」

ゾフィー「授業入りたいがいいか？」

全員「どうぞ。」

ゾフィー「今日の時間は英語だ。今日はタロウ先生に勉強して貰う。」

」

タロウ「というわけで授業始めるぞ。」

全員「早っ!」

タロウ「今回は反対の言葉だ。インの反対は何?分かった人手を挙げて!」

全員「はい!」

タロウ「はい pasta 君。」

バスコ「バスコ!ウルトラマンくらい覚えろ!」

タロウ「スマンな。(こいつ気に入らん。)」

バスコ「インの反対はアウトでしょ。」

タロウ「違う、座れ。」

バスコ「はい!?」

なのは「先生」

タロウ「高町君。インの反対は?」

なのは「アウトです」

タロウ「正解だ!流石だ高町君!」

なのは「イエーイ！」

バスコ「今の答えで合ってたじゃん！」

タロウ「・・・」

バスコ「あのな先生・・・」

タロウ「じゃあ次は・・・」

バスコ「聞けよ！」

タロウ「レフトの反対分かる人。」

全員「はい！」

タロウ「夢原君。レフトの反対は？」

のぞみ「クロマティ。」

ドーン！↑のぞみ以外の全員は転ける。

タロウ「何を言っておるんだ君は！？」

のぞみ「レフトはクロマティでしょ？あれ、違うの？」

タロウ「一言言っておく。古過ぎる。」

のぞみ「親父には教えた事ないのに！」

タロウ「アムロがお前は！」

マーベラス（もしアカレッドが・・・）

マーベラスの想像

アカレッド「アムロ、アカレッド、行きまーす！」

終了

マーベラス（それはないな。）

鎧「マーベラスさん、何考えてたんっすか？」

マーベラス「別に。」

咲「あのさのぞみ、レフトの反対はライトだよ。分かる？」

のぞみ「おゝライト〜？」

咲「そうライト〜。」

タロウ「流石だな日向君。」

咲「どうも。」

舞「咲はソフトボールやってましたから。」

咲「今は絶好調です！」

タロウ「そうか。それはよかったな。日向君に拍手！」

皆は拍手した。

タロウ「分かったか？夢原君。」

のぞみ「はい。」

タロウ「フェイト君はまだかい？」

ヴィータ「まだなんだぜ。」

シグナム「帰って来るのは何時なのか、分からん。」

タロウ「そうか。次はこの英語の字だ。分かる人。」

黒板にはCOMEが書いてあった。

全員「はい！」

タロウ「光君。」

夏海「はい。」

タロウ「この英語の字は分かるか？」

夏海「はい。こめですね。」

タロウ「は？もう一度。」

夏海「こめ。」

士「バーカ。」

タロウ「こめ?」

夏海「どうしてこめじゃありませんか!?!」

士「あれは英語じゃないローマ字だろ!こめなんて・・・」

タロウ「こめって言うのは日本語は分かるだろ?」

士「だからナツミカンにはヒロインには向いてないんだよ。」

タロウ「もういいからお前はうるさいな。」

夏海「光家秘伝、笑いのツボ!」

ブスッ!

士「ハハハハハ!お前殺すぞ!」

タロウ「暴力はいけないぞ光君。」

夏海「はい。」

タロウ「この字は分かる人。」

全員「はい!」

タロウ「門矢君、これ分かるか？」

士「ああ、麦だ。」

ドーン！↑士以外の全員は転ける。

夏海「何言ってるんですか!？」

士「麦だろ？あ、あわか？」

タロウ「そうじゃない。」

士「稗。」

タロウ「そうじゃない!」

士「ひえ〜!」

バスコ「何この雰囲気？」

のぞみ「気にしない方がいいよパスタ君。」

バスコ「だから俺はバスコ。のぞちゃんいい加減覚えてよ。」

タロウ「教える。これはカムという字だ。」

ルカ「あ、カムか。」

タロウ「カムの反対分かる人？」

全員「はい！」

タロウ「美墨君。」

なぎさ「はい。」

タロウ「カムの反対。」

なぎさ「噛まない。」

ドーン！↑なぎさ以外の全員は転ける。

タロウ「何を言ってる！英語の時間だろ！噛む噛まないの問題はあるか！」

なぎさ「むゝ。」

タロウ「カムの反対。」

のぞみ「はい。」

タロウ「夢原君。」

のぞみ「飲み込む。」

ドーン！↑のぞみ以外の全員は転ける。

のぞみ「歯がないから飲み込むの。」

タロウ「先生の話が全く分かってない！」

のぞみ「分かってない。」

タロウ「カムの反対！」

のぞみ「はいはい！」

タロウ「夢原君！」

のぞみ「ムカ！」

ドーン！↑またのぞみ以外の全員は転げる。

タロウ「言葉を反対向きにしてどうする！？バカが。」

のぞみ「むゝ。」

バスコ「あらまのぞちゃんおもしろいね。」

タロウ「次はロウの反対分かる人。」

全員「はい！」

タロウ「来海君、君だ。」

えりか「はい。」

タロウ「正解。正解。」

えりか「え？」

タロウ「ロウの反対分かるか？」

えりか「はい。」

タロウ「正解だ。」

えりか「え？どついう事ですか？」

タロウ「だから、ロウの反対は分かるか？」

えりか「ん？」

タロウ「ん？」

えりか「はい。」

タロウ「それが正解だよ！流石だね来海君！」

えりか「何かよく分かんないけど、ありがとうございます。」

タロウ「じゃあ英語の1は？」

えりか「ウゝ、ワン！」

タロウ「はいよく出来ました。」

えりか「・・・（泣）」

タロウ「今日の授業は終わり。休み時間に入る。」

のぞみ「 Pastaさんよろしく！」

マーベラス「よろしくな Pasta。」

バスコ「いや、だから俺は・・・」

つぼみ「てか今回の私の出番少なっ！」

転校生現る！（後書き）

カムの反対は僕は分かんないです。誰かカムの反対は何なのか教えて下さい。

色んなスーパー戦隊に、レッツ豪快チェンジ！

士「おいマーベラス。何やってるんだ？」

マーベラス「見りゃ分かるだろ士。色んなスーパー戦隊に豪快チェンジするんだ。」

雄介「豪快チェンジか。」

映司「とてもいいね。」

りん「で、何で私達まで？」

うらら「そうですよ。特に、何で私達5GOGO組なんですか？」

こまち「でも何か、共通点があるような・・・」

かれん「確かに・・・」

くるみ「あるよね。」

のぞみ「・・・」↑キヨロキヨロ。

マーベラス「どうした？」

のぞみ「あの、マーベラスさん。 Pastaさん此処にいませんでしたか？」

マーベラス「あいつなら休みかどうか知らんぞ。」

のぞみ「そうですか。」

ジョー「マーベラス、準備出来たか？」

マーベラス「準備OKだ。」

ルカ「じゃあやるよ。」

ハカセ「レッツレンジャートライ！」

アイム「ハカセさんのキャラなのかキャラじゃないのか分かんなくなってきました。」

凱「まあやりましょう。」

ゴーカイジャー「豪快チェンジ！」

ゴーカイジャー！

ゴーカイレッド「ゴーカイレッド。」

ゴーカイブルー「ゴーカイブルー。」

ゴーカイイエロー「ゴーカイイエロー。」

ゴーカイグリーン「ゴーカイグリーン。」

ゴーカイピンク「ゴーカイピンク。」

ゴーカイルバー「ゴーカイ・・・シルバー！」

ゴーカイレッド「海賊戦隊・・・」

ゴーカイジャー「ゴーカイジャー！」

のぞみ「かつこ良い！」↑目をキラキラしている。

りん「ゴーカイジャーってかつこつけ過ぎだよね。特にゴーカイレッドが。」

ゴーカイレッド「ん？」↑ゴーカイサーベルを向けて。

りん「ゴメンナサイ。イノチダケハカンベンシテクダサイ。」

うらら「何かマーベラスさん。怖いような怖くないような・・・」

士「で、俺達も豪快チェンジしていいか？」

ゴーカイレッド「いいぜ。ほらよ。」↑モバイレッツとキーを渡す。

士「サンキュ。レッツ豪快チェンジ。」

ディ〜ケイド！

ディケイド「俺は全ての破壊者、ディケイドだ。って、何でディケイドだよ！？スーパー戦隊に豪快チェンジじゃねえのかよ！」

ゴーカイレッド「あ、言い忘れたが、豪快チェンジはライダーやプリキュアに変身する可能性があるから要注意。」

ディケイド「それを早く先に言えよ！」

映司「よし、次は俺だ。レッツ豪快チェンジ。」

ジュウ「レンジャー！」

ティラノレンジャー「あ、出来た。しかもジュウレンジャーに！何で？」

ゴークアイエロー「そりゃ勿論、あんたの体の中に恐竜メダルがあるからいいんじゃないの？」

ティラノレンジャー「まあ、それは分かりますけど。」

ゴークイブブルー「そんな事より早く台詞を言え。」

ティラノレンジャー「あ、台詞ですか？分かりました！よし、ティラノレンジャー！映司！」

ゴークイグリーン「うーん、どうだろう？」

ゴークイピンク「微妙ですね。」

くるみ「次は私ね。レッツ豪快チェンジ。」

ゲキレンジャー！

ゲキバイオレット「何で私ゲキレンジャーなの？」

「ゴーカイシルバー」「勿論貴方が紫じゃないですか？でもそれ男だし。」

「ゲキバイオレット」「女で悪かったね。ゴーオンシルバーにでもなればよかったのに。」

「ゴーカイシルバー」「でもあれ女ですよ！ゴーオンシルバーは流石に・・・」

「ゲキバイオレット」「何よ？じゃあマジレンジャーに豪快チェンジしたゴーカイジャーはどう？マジイエローは男なんだが、ゴーカイイエローの場合はマジイエローは女に。マジブルーは女だけど、ゴーカイブルーの場合はマジブルーが男に変わったのは分かるでしょ？」

「ゴーカイシルバー」「それは分かってますけど・・・」

「ゲキバイオレット」「それにゴーオンウィングスに豪快チェンジしたら、何故かWみたいな事なつてたし。あんた何様なの？」

「ゴーカイシルバー」「俺様のつもりです。」

「ゲキバイオレット」「なめてんのか？ゴラ。」

「ゴーカイレッド」「やめんかー！」↑回し蹴り。

「ゲキバイオレット」「ぐふっ！」

「ゴーカイレッド」「つたく、次。」

「のぞみ」「はいはい！」

うらら「やります!」

りん「しょうがないわね。」

こまち「豪快チェンジオもしろうだし、やって見よつか。」

かれん「そうね。」

のぞみ「一度やって見たかったんだ!こついの、ではレッツ豪快チェンジ!」

ゴーゴーファ〜イブ!

ゴーレッド「やった、出来たどー!」↑りん。

ゴブルー「何でゴーゴーファイブなの?」↑かれん。

ゴーグリーン「さあ?」↑こまち。

ゴイエロー「そういえば、誰かさんが私達に共通点があるって言うてましたよね?」↑うらら。

ゴピンク「ねえねえ、何で私ピンクなの?私リーダーなんだけど・・」↑のぞみ。

ディケイド「何か逆さまにすればいいんじゃないか。」

ゴーレッド「逆さま。あー!」

ゴープンク「どうしたの？りんちゃん。」

ゴーレッド「ゴーゴーとファイブを逆さまにしたらどうなの？」

ゴーブルー「ん？ゴーゴーとファイブを逆さまにすると・・・え？」

ゴーイエロー「こんなのって・・・」

ゴーグリーン「うん。もしかしたら・・・」

ゴープンク「あ！」

ゴーゴーフアイブ「ゴーゴーとファイブ逆さまにしたら5GOGOになるじゃん！」

ゴーブルー「成る程。だから共通点があったんだ。」

ゴープンク「これはいいかも！可愛らしく救助は何かとっても幸せのような感じだ。」

ゴーカイレッド「そんなのは置いて、次。」

バスコ「次は俺だよマベちゃん。」↑服がボロボロ。

ゴープンク「あ、パスタさん見つけた！」

ゴーカイレッド「どうしたバスコ。服がボロボロじゃねえか。」

バスコ「うるさい。俺に豪快チェンジさせろ。」

ゴーカイレッド「しょうがねえな。ほらよ。」

バスコ「サンキュマベちゃん。ではレッツ豪快チェンジ。」

なぐんじゃこりゃー！

バスコ「ん？あ。」↑体に血。

ティラノレンジャー「え？」

バスコ「何じゃこりゃー！」↑そう言つと気絶した。

ゴーピンク「あゝパスタさん！しっかりして下さい！カモン救急車
」！」

ゴーカイレッド「よし、この企画は終了だ。」

ゴーカイピンク「どうしてですか？」

ゴーカイレッド「もうすぐ授業が始まるからだ。」

ゴーカイイエロー「もうこんな時間！？」

ゴーカイブルー「急ぐぞ。」

ゴーカイグリーン「今日は転校生が来るって！」

ゴーカイシルバー「転校生っすか！誰だろう？」

教室

ゾフィー「えゝ今日は転校生が来るそうだ。入って来い。」

ラブ「また転校生？」

せつな「そうみたい。」

ゾフィー「入って来い。」

するとドアから少女がやって来た。

響「あ！」

奏「嘘でしょ！？」

ゾフィー「今日この学校に転校する事になった黒川エレンだ。」

エレン「よろしく。」

ゾフィー「席は・・・凱の隣だ。」

凱「はい！俺此処だよ！」

エレンは凱の隣に席を座った。

凱「俺は伊狩凱！よろしくエレンちゃん！」

エレン「よろしく。」

ゾフィー「では授業始めるぞ。ん？バスコ君はどうした？」

のぞみ「入院しました。」

ゾフィー「そうか。ならいいや。」

全員（いいのかよ！）

第2回人気投票！

マーベラス「第2回！」

映司「リリカルキュアライダー学園！」

響「人気投票ー！」

全員「イエーイ！」

ジョー「またか？」

ルカ「ま、前はマーベラス一位だったから次はあたしが一位だよ。」

ハカセ「いや、次こそは僕だよ！」

アイム「いえ、次は私です。」

エレン「ちなみに今回の投票では、私と凱、そしてパスタが人気投票に参加します。沢山私達に票を下さい！」

バスコ「だから俺はバスコだー！」

凱「何ですか今の声？」

奏「気のせいじゃない？」

アंक「ルールは前回と同じだ。一人一票ずつ。忘れるなよ、これ

も欲望だ。」

映司「てかアंक、卒業したんじゃないの？」

アंक「バーカ。この俺が卒業すると思ったか？あの時俺は風邪引いて学園を休んでただけだ。」

マーベラス「それヒデエだろ。」

アंक「うるさい！」

響「えゝ締め切りは、8月5日までになります。」

奏「前回よりも投票を多くしたいように、皆さん、お願いします。」

響「それでは沢山の応募・・・」

全員「持ってまーす！（ろよ！）」

成立しない戦隊

士「で、何だこの家は？」

家の中は、こたつと机の上はミカンが置いていた。

マーベラス「知るか。」

真司「何で俺達まで？」

一真「知らん。」

翔太郎「夏なのにこたつはおかしくねえか？」

フィリップ「更に暑くなっちゃうタイ。」

全員（何故博多弁？）

シャル「私も何で呼ばれたんだろう？」

ピンポン！

シャル「はい。」

シャルはドアを開けると・・・

????「あ、どうも。」

マーベラス「誰だ!？」

「???」あ、心配しないで下さい。俺襲うつもりはないです。」

真司「じゃあ何で此処に？」

「???」ゾフィーさんから美人さんを襲って下さいと言われましたので。」

全員「美人？」

シャル「え、私？」

全員（あの変態宇宙警備隊大隊長め！）

「???」どうも初めまして、俺はドクロ仮面と申します。」

全員「ドクロ仮面？」

ドクロ仮面「突然ですけど、貴方俺に襲わなきゃいけないんです。」

シャル「嫌です。私、用事ありますから帰ります。さようなら。」

ドクロ仮面「まあそう言わずに・・・。」

シャル「キヤアー！誰か助けてー！」

一真「やめんか！」

翔太郎「やめろドクロ仮面！シャルさんを離せ！」

すると・・・

「????」「持てー!」

士「ん、何だ?」

「アカレンジャイ!」

「アオレンジャイ!」

「ゴモラ!」

「ミドレンジャイ!」

「ゴルザ!」

「五人揃って、ゴレンジャイ!」

真司「ゴレンジャイ?」

マーベラス「ゴレンジャーじゃねえのかよ。」

アカレンジャイ「さあ、今の内に逃げろ!早く逃げるんだ!」

シャマル「ありがとう!」

アカレンジャイ「さあ、来い!」

ドクロ仮面「座れ!座れ!座れ!座れ!」

フィリップ「え？」

ドクロ仮面「ったく、ホントに・・・座れ！」

マーベラス「んだよ、俺達もかよ。」

何故か士達も座った。

ドクロ仮面「お前等噂のゴレンジャイか？お前は？」

アカレンジャイ「アカレンジャイ。」

ドクロ仮面「お前は？」

アオレンジャイ「アオレンジャイ？」

ドクロ仮面「お前は？」

ゴモラ「ゴモラ。」

ドクロ仮面「お前ゴモラおかしいやろ！ゴモラはウルトラマンの怪獣って事は分かってるのか！？」

ゴモラ「いや、あの・・・」

ドクロ仮面「まあ良い。お前は？」

ミドレンジャイ「ミドレンジャイ。」

ドクロ仮面「お前は？」

ゴルザ「ゴルザ。」

ドクロ仮面「これもウルトラマンや！この三人は良いが、何で二人がウルトラマンの怪獣や！反省しろや！」

ゴモラ&ゴルザ「すんません。」

ドクロ仮面「ったく……」

フィリップ「あの……」

ドクロ仮面「ん、何や？」

フィリップ「良かったら、僕達もゴレンジャイをやらせてくれませんか？」

士「フィリップ本気か！？」

マーベラス「俺そっこの……」

ドクロ仮面「あ、調度良かったわ。あんた達もゴレンジャイを参加するのを頼もうとしたで。」

一真「え！？」

真司「え、良いんですか？是非お願いします！」

一真「バカかお前！」

ドクロ仮面「よし！じゃあ準備して。あ、もう一回襲われ役で。」

シャル「また？」

数分後

ドクロ仮面「ハッハッハ。」

シャル「キヤアー！助けてー！」

???「持てー！」

ドクロ仮面「ん？」

龍騎「アカレンジヤイ！」

ブレイド「アオレンジヤイ！」

W「『ミドクロレンジヤイ！』」

ディケイド「モモレンジヤイ！」

ゴークイレッド「アカレンジヤイ。」

「五人揃って、ゴレンジヤイ！」

ドクロ仮面「・・・」

シャル「どうかしたのですか？」

ドクロ仮面「座れ。」

全員「え？」

ドクロ仮面「座れー！」

全員は座る。

ドクロ仮面「これがゴレンジャイか？お前は？」

龍騎「アカレンジャイ。」

ドクロ仮面「お前は？」

ブレイド「アオレンジャイ。」

ドクロ仮面「お前は？」

W「『ミドクロレンジャイ。』」

ドクロ仮面「おかしいやろ！何で右は緑で左は黒なんや！半分やないか！」

W「あ、いやそれは・・・」

ドクロ仮面「もう良い。お前は？」

ディケイド「モモレンジャイ。」

ドクロ仮面「モモじゃないような気がするかまあええや。お前は？」

ゴーカイレッド「アカレンジヤイ。」

ドクロ仮面「赤二人やないか！何やねんお前！」

ゴーカイレッド「うるせえ。」

ドクロ仮面「良し、もう一回やろつ。お前抜け。」

ゴーカイレッド「ああ、俺は抜けさせて貰うぜ。」

ゴーカイレッドは帰った。

シャマル「帰っちゃった。」

デイケイド「まあ良いだろう。」

奏「こんにちわ。ケーキを作りました。」

ドクロ仮面「あ、調度良かった。襲われ役をやってくれませんか？」

奏「はい？」

数分後

ドクロ仮面「ハッハッハ。」

奏「キャアー！誰か助けてー！」

「持てー！」

ドクロ仮面「ん？」

龍騎「アカレンジャイ！」

ブレイド「アオレンジャイ！」

W「『シロクロレンジャイ！』」

ディケイド「モモレンジャイ。」

シャマル「ミドレンジャイ。」

「五人揃って、ゴレンジャイ！」

ドクロ仮面「W帰れやー！」

ゴレンジャイ 完

新しいオリジナルプリキュアについて

のぞみ「何ですか士君？急に呼び出すなんて・・・」

士「何で士君なんだよ？まあ良いが・・・お前等、作者がオリジナルプリキュアについて考えたぞ。」

映司「オリジナルプリキュア？」

ルカ「それって誰？」

士「それは言えない。」

雄介「どうして？」

士「ネタバレになるから。」

のぞみ「ふん。」

士「だが、変身者についてはもう決まってるぞ。」

のぞみ「それ誰よ？」

りん「てかのぞみ興奮しないのかよ!？」

のぞみ「悪い？」

りん「別に・・・」

士「変身者については特別に教える。変身者は・・・お前だ！」

オリジナルプリキュアの変身者、高町なのは

なのは「え、私？」

フワード「ズルッ！」

ヴィータ「何でなのはなんだよ!？」

士「作者についてだと、なのはがプリキュアになったら良いな?と思ったからだ。」

なのは「イエーイ!私プリキュアになるんだ!それ何の作品に登場するの?」

士「今書いてる最中の『海賊戦隊ゴーカイジャーVSプリキュアオールスターズ』だ。」

なのは「楽しみだな〜!楽しみだな〜!」

全員（寒っ!）

フェイト「なのはがプリキュアか。それも良いな。」

キャロ「フェイトさんだってプリキュアになったから良いじゃないですか?」

フェイト「そうだね。一発でメモリブレイクやバルディッシュの力も使えるしね。」

えりか「新しいプリキュアについてはもう決定したよ！」

響「皆々！私達の活躍を・・・」

全員「楽しみにして下さい！」

新しいオリジナルプリキュアについて（後書き）

アイデアまだ募集中なので感想をお願いします！投票も沢山下さい！

ライダー組でかめはめ波と言ってみよう！

ライダー組「やっと出番だー！」

エレン「うるさっ！」

雄介「何で俺達出番なかったんだろう？」

翔一「作者が俺達を出すタイミングが分からなかったからじゃない？」

真司「俺達出たのは嬉しいけど、かめはめ波って何？」

巧「知らん。」

一真「じゃあ誰が知ってるの？」

エレン「私なら知ってるよ。」

ヒビキ「え？」

天道「本当か？」

エレン「うん。かめはめ波とは、昔放送した『ドラゴンボール』に出た必殺技。ちなみに『ドラゴンボール』とは、私が一番ハマったアニメよ。」

良太郎「そうなんだ。」

渡「あの、かめはめ波のやり方分かるんですか？」

エレン「分かるよ。私、毎日見てたから。良い？行くよ！かめめめ・
・あ、変身しないとダメだ。」

巧「変身する必要があるのか！？」

エレン「変身しなきゃあの技出ないんだもん。」

雄介「そうかな？俺は別に生身の方が良いけど・・・」

翔太郎「お、何かやってんな。」

フィリップ「僕も混ぜて貰おうか。」

照井「乗り遅れんなー！」

海東「それガクドリ！」

夏海「あの、お願いします！」

亜樹子「あたしやってみたいけど、やめとく。」

エレン「分かった。分かったから・・・（ライダーに変身する人が
全員でやるんかよ！）」

翔一「お願いします！」

エレン「分かった。今やるから・・・（めんどくせえ。まあ、やつ
ちやおっか。）レッツプレイ！プリキュア、モジュレーション！」

↑変身。

キュ〜アビート！

全員（今ゴージャスなようなもんならなかった？まあ良いや。）

ビート「爪弾くは魂の調べ！キュアビート！」

翔太郎「あゝめちゃくちゃ綺麗だ。」

亜樹子「ドアホー！」↑ハリセン。

翔太郎「わあ。」

亜樹子「ガクッ。この！」

翔太郎「わあ。」

亜樹子「あれ？この！」

翔太郎「あー！」

亜樹子「キャアー！助けて竜君！」

翔太郎「いつもいつもしつこいんだよ亜樹子！何回言わせば気がするんだよ！」

照井「左、俺の妻に手を出すな。」

フィリップ「ま、二人は放つといて、進みまっしょい！」

ビート「は、はぁ・・・」

まず最初はビートから・・・

ビート「よし、行くよ。かめめはめめ波ー！」

真司「凄いね！」

巧「何処かだ？」

ビート「さ、次はクウガからよ。」

雄介「はい！」

次は雄介

クウガ「かめめはめめ波。どうですか？」

ビート「失格。」

次は翔一

アギト「かめめはめめ波ー！どうですか？」

ビート「合格。」

次は真司

龍騎「かめめ波。どうですか？」

ビート「よしかあんたは！？失格！」

次は巧

ファイズ「かめはめ波！どうだ？」

ビート「あんたはダメ。」

次は一真

ブレイド「かめはめウェーイ！どう？」

ビート「アホかお前！？失格じゃー！」

次はヒビキ

響鬼「かゝめゝはゝめゝ波ー！どうだい？」

ビート「凄く良いわヒビキさん！合格よ！」

次は天道

カブト「おばあちゃんが言っていた。」

ビート「それ分かったからやって。」

カブト「この世で大切なのは・・・」

ビート「良いから早くやってー！」

カブト「分かった。かめはめ・・・」

ビート「失格。」

カブト「おい！」

次は良太郎

電王「かめはめ波ー！どうだ？」

ビート「モモタロスがいなければ合格だったよ。」

電王「ガン！」

次は渡

キバ「か、め、は、め、波。どうですか？」

ビート「よし、合格。」

全員（渡以外）「はい！？」

次は士

ディケイド「かめはめ・・・」

ビート「はい失格。」

ディケイド「早っ！」

ビート「これ言うのめんどくさいの?」

ディケイド「めんどくせーだろうがー!」

ビート「後でこっちに来て。」↑ディケイドを引きずりながら。

次は海東

ディエンド「いやいや、土はどうなったんだ!?!」

ビート「あんなの放つとけ。次やって。」

ディエンド「しょうがない。かめはめ波!」

ビート「失格。」

次は夏海

キバーラ（ライダー）「行きます!かめはめ波!」

ビート「合格よ・・・。」↑妄想。

全員（目つき怖っ!）

次は翔太郎とフィリップ。

W「『かめはめ波!』」

W「どうだ?」

ビート「微妙。」

次は照井。

アクセル「かめはめ波ー！」

ビート「微妙過ぎるわー！」

結局、優勝したのは渡と夏海だった。

映司「俺やってないんですけどー！」

結果発表！

メビウス「それでは、リリカルキュアライダー学園の、結果発表です！」

全員「イエーイ！」

響「あれ、メビウス先生。ゾフィー先生は？」

メビウス「あゝゾフィー先生ならハワ・・・出張でいないよ。」

全員（おい！今ハワイって言いかけようとしただろ絶対！）

メビウス「投票の結果だけど、前より票が少し多くなったよ。」

映司「本当ですか？」

メビウス「うん、しかも今回は0票は誰もいないよ。」

ルカ「本当だよね？」

メビウス「勿論。」

全員「よっしゃー！」

メビウス「それでは、まず1票目から・・・」

ヒカリ「メビウス、ちょっと良いか？」

そこに、ウルトラマンヒカリがやって来た。

メビウス「ヒカリ、どうかしたの？」

ヒカリ「実はな、ヒソヒソ・・・」

メビウス「え？分かりました。」

ヒカリ「じゃあ頼むぞ、セニョリータ！」

全員「は？」

咲「ねえメビウス先生。ウルトラマンヒカリを殺して良い？」

メビウス「はい？」

舞「何かウルトラマンヒカリの声を聞くと、昔私達を苦しめた奴の事を思い出してしまうので・・・」

りん「それはやめましょう。で、どうかなさったんですか？」

メビウス「皆さん、まさかの驚きの情報です。」

のぞみ「え？」

アイム「何でしょうか？」

メビウス「0票の方が・・・4人いました。」

・・・

全員「ええええええ！？」

ゆり「よ、四人！？」

マーベラス「それって誰だよ？」

メビウス「0票の方は、こちらです！」

ゴミ（笑）

フォワード4名

0票な4人「……（泣）」

はやて「まさかのフォワードが0票……」

スバル「誰1人私に票くれなかった。」

ティアナ「しょうがないわ。私達出番少ないから……」

エリオ「前は2位だったのに……」

キャロ「最悪な状況だ。」

フェイト（ごめんね皆。仲間外れになっちゃって……）

メビウス「次は1票の方です。どうぞ！」

1票

ヴォルケン

ジョー

アイム

翔一

ヒビキ

総司

夏海

亜樹子

咲

りん

うらら

かれん

くるみ

ラブ

美希

せつな

いつき

ヴォルケン「よっしゃー！1票だ！」

ジョー「うるさい。」

アイム「前回とはあまり変わりませんね。」

翔一「まあ良いじゃないですか。俺だって前とは全然変わらないし。」

ヒビキ「鍛えたかいたが あったぜ。」

総司「おばあちゃんが言っていた。票については関係ない・・・」

夏海「やりました!」

亜樹子「よし!」

咲「ちょっと絶好調。」

りん「危なかった。」

うらら「何とか0票は逃れた。」

かれん「危機一発だった。」

くるみ「これで0票だったら、私はあの世行きだった。」

ラブ「やったー! 幸せゲットだよ!」

美希「完璧ね!」

せつな「頑張つてよかった♪」

いつき「よっしゃー!」

メビウス「次は2票の方、どうぞ!」

2票

雄介
真司

巧

一真

良太郎

渡

士

海東

フィリップ

照井

映司

アंक

マーベラス

ルカ

ハカセ

フェイト

ひかり

こまち

ゆり

雄介「お、前回よりも上がった！」

真司「やったね！」

巧「俺はこんだけあれば十分だ。」

一真「ウェーイ！」

良太郎「僕としては人気があるね。」

渡「よかった。」

士「俺もつ出番だよ。」

海東「良いじゃないか士。また僕と一緒になるのって嬉しくないかい？」

士「黙れこの泥棒ホモが。」

海東「ガーン！」

フィリップ「2票か。僕にしては良い事だ。」

照井「俺はどうせなら亜樹子と一緒に票を入りたかったんだが……」

亜樹子「ふえっ！？」

映司「ハア、アंकと一緒にだよ。」

アंक「悪いか？」

映司「悪いに決まってるだろ。必ずお前を倒し、信吾さんの体を取り戻してやる。」

アंक「やれるもんならやってみろ。」

マーベラス「ゲッ！俺1位じゃねえのかよ！？」

ルカ「しょうがないよマーベラス。あんたは前回1位だったから気になくて良いじゃん。」

ハカセ「そうだよ。細かい事は気にしない。」

フェイト「私はちょっと嬉しいかな？」

ひかり「ちなみに私の声をやっていた声優さんが『パワーレンジャ
ーSPD』のキャット役の声を演じます！」

こまち「皆さん、ありがとうございます。」

ゆり「私は嬉しいけど、何か凄く嫌な予感がするわ。」

全員（うん、その気持ちは分かる。）

メビウス「次は3票の方、どうぞ！」

3票

翔太郎

鎧

バスコ

はやて

舞

響

翔太郎「やっぱり俺はハードボイルドだな。」

鎧「よっしゃー！」

バスコ「俺はマベちゃんよりも票を超えたぜ。」

はやて「やったー！」

舞「超感激だわ♪」

響「私にしては、まあまあかな？」

メビウス「次は4票の方、どうぞ！」

4票

なぎさ

祈里

なぎさ「ありえないーい！こんなに高い票が貰えるなんて・・・」

祈里「皆、ありがとう！」

メビウス「次は5票の方、どうぞ！」

5票

ほのか

のぞみ

ほのか「前よりも凄い票になってる。」

のぞみ「バンザイ！」

メビウス「最後に、1位を発表します。票は何と・・・7票で5人です！」

全員「票が7で5人!？」

のぞみ「誰々!誰々!」

りん「コラコラはしゃがない。」

メビウス「1位の方は、こちらです!」

7票

なのは

つぼみ

えりか

奏

エレン

全員「なぬー!？」

響「奏やエレンに、先こされるなんて・・・」

えりか「え、あたし1位?」

つぼみ「よかつたなえりか!」

えりか「よっしゃー!」

エレン「え、私ってまだ学園に入ってたばかりなのに1位?」

奏「よかつたじゃないエレン!私と一緒に1位なんて!」

なのは「ワイ！私1位だ！大感動！」

0票な4人「なのはさん、1位おめでとございます。」↑地獄才
ーラ

フェイト「うわっ！凄いオーラ！」

つぼみ「やっぱり私は、主役だな。」

メビウス「それでは第2回リリカルキュアライダー学園の結果発表
でした。」

ヒカリ「皆、沢山の票を・・・」

全員「ありがとうございました！」

りんとエレンとルカの恐い物（前書き）

今回は幽霊が・・・

りんとエレンとルカの恐い物

ウルトラ高等学校の真夜中では・・・

エレン「ごめんねルカ。付き合ってくれて・・・」

ルカ「気にしないでよ。たまには人助けをしないとね。」

エレンは家に帰る途中、キュアモジューレを学校に忘れ、学校に着くとルカとりんがおり、二人はエレンの手伝いに付き合っていた。

りん「何で私まで？響と奏を頼めばいいのに何で私を？」

エレン「いやゝ、運動神経抜群のりんなら何とかなるな〜と思って・・・」

りん「運動神経いいからと言って・・・あああああ！」

三人の後ろから、CO₂ガスが発射した。

ルカ「ビックリした！」

エレン「これは危ないよマジで。」

三人はエレベーターに乗り、最上階に行こうとした。すると・・・

ルカ「え、何何何何！？」

エレン「嫌ー！」

りん「あー！ああああああ！」

デカイ鬼太郎がエレベーターに入って来た。

ルカ「デカツ。」

最上階に着き、デカイ鬼太郎は去って行った。

りん「デツカ、鬼太郎ってあんなにデカかったわけ？」

エレン「いや、そもそも私鬼太郎の事知らないし。」

ルカ「じゃあ行こっか。」

三人はビビりながら慎重に進む。すると・・・

???「しんぱういないさー！」

エレン「キャアアアアア！」

りん「うわあー！」

ルカ「え、何！？」

天井から、大西ライオンがいた。危なさそうに頭を出していた。

ルカ「ちょっと危ないよ天井から頭出したら！」

エレン「心配ないって・・・」

大西ライオン「しんぱういないさー！」

りん「心配あるよホントに！」

その頃、職員室では何やら叫んだような声が聞こえた。

ジャック「何だ？何やら騒がしいな。」

エース「おかしいな。今は学校閉まってるはずなのに・・・」

ジャック「様子を見るか？」

エース「いや、せつかくですからおでん食べに行きませんか？」

ジャック「お、おでんか！いいなそれ！でも俺は行かない。」

エース「どうしてです？」

ジャック「俺にはまだ仕事が残ってるからな。」

エース「そうですか。そういえば俺も仕事があった。早く仕事を済ませよう！ジャック兄さん！」

ジャック「よし、やるぞエース！」

また元の場所に戻る。

ルカ「ちよつとどうなってんの？」

りん「もう嫌だ勘弁してよ。」

エレン「あ、着いた。」

三人はようやく教室に着いた。

ルカ「ん？『此处にサインをして下さい。』サイン？何でサインなの？」

エレン「取り敢えずサイン書くよ。」

エレンはボールペンを手に取り、ボタンを押したその時！

エレン「あー！」

エレンは倒れ込む。

ルカ「どうしたの！？」

エレン「痛い。」

りん「え？」

エレン「ビリビリって来た。」

ルカ「ビリビリ？静電気！？」

エレン「サイン書く。」

りん「サインやめとこ。またビリビリ来るから。」

三人は教室に入る。

ルカ「ん？誰がいる。」

教室の中には、謎の男がいた。

エレン「あの、すいません。私のキュアモジューレは何処か分かりますか？」

男の手には、キュアモジューレがあった。

エレン「あ、それです。ありが・・・うわあー！」

エレンは男に近付くと、何と男の首が体まで下がる。

りん「噓噓噓噓！？」

エレン「首が首が首が首が首が！」

ルカ「ちょっと何してんの？あああああ！」

ルカはロッカーを開け、ロッカーの中を見ると、人が入っていた。

りん「うわっ！恐っ！」

エレン「噓。」

ルカ「マジで逃げよう！」

エレン「ありがとう！」

三人は教室を出た。

ルカ「恐かった。」

りん「もうこりこり。」

エレン「疲れた〜。今何時だろう？」

そして、三人は家に帰った。その頃、職員室にいる二人は・・・

ジャック「スウ〜・・・」

エース「ムニヤムニヤ・・・」

寝ていた。

背が伸びたい！

ヴィータ「ハア・・・」

ヴィータは何故か溜め息をした。

シグナム「どうしたヴィータ？溜め息をするなんて・・・」

シャマル「何かあったの？」

ヴィータ「あのさ二人とも、ちょっと言っていないか？」

シグナム「何だ？」

ヴィータ「何で・・・何であたしの背だけ変わらないんだよ！？あたしは大人なのに！」

シグナム「それは私に聞かれても知らん。」

ヴィータ「10年何だぞ！10年経ったら背は伸びるだろ！なのはとフェイトとはやては9才だから背が伸びるけど、何であたしだけ背が伸びないんだよ！？まるであたし仲間外れじゃん！」

シャマル「ヴィータちゃん。プリキュアオールスターズの中で一番背が低いのはえりかちゃんことキュアマリンだよ。ヴィータちゃんと同じだから良いんじゃない？仲間外れじゃないからね。」

ヴィータ「良くねえよ！だいたいえりかは背が低いのは当たり前だけど、何であたしがえりかなんかと一緒にしなきゃなんねえんだよ

「ゴラ！」

シグナム「口悪過ぎ。」

シャマル「子供なのに態度酷過ぎ。」

ヴィータ「うるせえ！あ、そうだ！ほのかに頼めばあたしは背が伸びるかもしれねえ！」

シャマル「何でほのかちゃん？」

ヴィータ「だってあいつ実験は完璧何だろ？だったら背が伸びる実験なら完璧かもしれねえ！あたし頼みに行く。」

シグナム「ちよつと待て。背が伸びるくらいで何故雪城が必要だ？背が伸びるくらいならせめてカルシウムをとらなきゃ・・・っておい！」

シャマル「ヴィータちゃん！ほのかちゃんに頼ってちゃダメよ！」

ヴィータ「うるせえ！何しようがあたしの勝手だ！」

シグナム「それはいかん！」

シャマル「ヴィータちゃん、何があっても絶対にダメ！」

ヴィータ「うるせえって言うってんだろー！」↑アイゼンで二人を吹っ飛ばす。

シグナム「うわあー！」

シャル「キャー！」

二人は星となった。

数分後

ヴィータ「という訳だからあたしの背を伸びたいんだ。お願い。」

ほのか「うん、そうね。せっかくだから私と先生が作ったあれ飲む？」

ヴィータ「ああ！何があっても・・・ん、先生？」

ほのか「うん、今日の深夜に私と先生が背伸び出来る薬を作ったから一緒に行く？」

ヴィータ「勿論！」

ほのか「じゃあ行きましょう。」

理科室

ほのか「失礼します。」

ヴィータ「え？」

80「ん？おお、雪城君にヴィータ君も。どうしたんだい？」

ほのか「ヴィータがね、背伸び出来る薬を飲みたいんだって・・・」

80「お、そうか。中々子供がいなかったからちょっと困ってた。よければこの薬を飲んでいいぞ。」

ヴィータ「ホントか！？ありがとな先生！」

ほのか「あ、ヴィータその薬・・・」

ヴィータ「よっしゃー！あたしは大人になれるぞー！」

ヴィータは薬を飲む。

ほのか「あ、飲んじやった・・・」

80「あ、しまった。」

すると、ボロボロとなったシグナムとシャルがやって来た。

ほのか「あ、二人とも。どうしたんですか？」

シグナム「雪城。お前まさか、背伸び出来るヴィータを薬に・・・」

ほのか「あ、今気付いたんだけどあの薬違ったのよ。」

シグナム& amp; シャマル「はい？」

ヴィータ「この薬が違っつてどういう事だよ？なあ、おい。」

すると、ヴィータの体がどんどん小さくなって来た。

シグナム& amp; シヤマル「小つちや。」

ヴィータ「小つちやいってあー！おい、何だよこれ！？」

ほのか「実はあの薬、体が縮む薬なんだ。」

80「すまんヴィータ君。てっきりあの薬を渡してしまった。申し訳ない！」

ヴィータ「なあ、元に戻る方法はないのかよ！」

ほのか「ごめんねヴィータ。元に戻る薬、まだ作ってないの。今作るからね。」

ヴィータ「時間はどれだけかかる？」

ほのか「うーん、一週間。」

ヴィータ「長っ！」

シグナム「感謝するぞ雪城。これでヴィータを痛い目を付く事が出来る。」

ほのか「え？」

シヤマル「さっきはよくもやってくれたわね。」

二人は笑っているが、目が笑っていない。

ヴィータ「二人とも？」

シグナム& a m p・シヤマル「覚悟しろよ。」

ヴィータ「ごめんなさい！」↑逃げた。

シグナム& a m p・シヤマル「待てー！」↑追いかける。

ほのか「どうしますか？」

80「暫くそつとした方が身のためだ。さあ、薬を作るぞ！」

ほのか「はい。」

ヴィータ「誰か助けてー！」

もっと熱くなれよ！（前書き）

今回平成オールライダーはカオスとなっています。（笑）

もつと熱くなれよ！

クウガ「燃えて来たぜー！」

アギト「よーし、やってやるぞー！」

龍騎「ライダーの底力を見せてやる！」

ファイズ「学園を壊す奴なんか倒してやる！」

ゆり「あんた等冷静にならんか！」

何故平成オールライダーがこんな事になったのか2時間前にさかのぼる。

一真「何故俺達の出番が少ないんだ？」

ヒビキ「まあ俺は出番少ないとか多いとかそう言うのはどうでもいいけど。」

総司「ん？」

良太郎「何あの紫の波動？」

すると空から紫のような波動が現れ、平成オールライダーは紫の波動に体の中に入る。

士「何だ今の？」

海東「何か、体が熱くなってきた。」

すると平成オールライダーの目から炎を出す。

翔太郎「よし、俺達で勝負するのはどうだ？誰が最強のライダーか決めてやるぜ！」

フィリップ「燃えて来たぜよ！」

照井「熱血仮面ライダーアクセルが一番強いに決まってるだろ！」

映司「俺が最強だー！変身！」

そう。これが起きた原因だった。

フェイト「皆何やってんの！？」

うらら「平成オールライダーの皆さん、頑張ってください！」

フェイト「うらら！応援してどうすんの！？」

くるみ「このままだと学園が破壊されちゃうじゃん！」

アルティメットクウガ「俺が最強のライダーだ！」

シャイニングアギト「いや、俺が最強のライダーだ！」

サバイブ龍騎「学園壊しても構わん！このままライダーをぶっ殺してやる！」

ブラスターファイズ「学園もろともまとめて始末してやる！」

鎧「皆さん、どうします？」

つぼみ「あんなの放つとけば？暫くすれば止まるし。」

ラブ「だよね。」

せつな「皆、平成オールライダーなんか放つといて教室に戻りましょう。授業が始まっちゃうから。」

ジョー「ああ。」

マーベラス「よし、教室に戻るぞ。」

咲「いいのかな？こんな事って・・・あれ、舞？」

舞「咲、見ましようよ。」

咲「舞？」

舞「咲。」

咲（どうしよう？逃げられない。）

エレン「私ちよつと見ておくよ。」

ゆり「私も・・・。」

つぼみ「好きにどうぞ。」

キングブレイド「ウーイ！ライダー最高！」

装甲響鬼「もつと鍛えるべき！」

ハイパーカブト「俺こそが最強だ！」

ライナー電王「イマジンの仇を取ってやる！」

電王イマジンス「死んでねえよ！」

エンペラーキバ「負けるかー！」

コンプリートディケイド「俺の熱いハートが心を轟き叫ぶ！」

コンプリートディエンド「僕がライダー大戦に参加出来なかった恨みを、晴らしてやる！」

エクストリームW（翔太郎）「ハハハ！俺が最強の仮面ライダー、Wだ！」

エクストリームW^{フィリップ}「ハハハ！翔太郎、それを言うなら僕達ぜよ！僕も最強ぜよ！ハハハ！」

ブースターアクセル「燃えて来たぞ！このまま振り切るぜ！」

プティラオーズ「このプティラこそが最強フォーム！俺が最強だー！」

フェイト「皆やめてよー！せつかくの学園がー！」

すると平成オールライダーが体が燃え尽きると灰になり、平成オールライダーが一気に倒れる。

エレン「え？」

咲「止まったけど、何が起こったの？」

フェイト「早く救急車を呼んで早く救急車をー！」

ゆり「お願いね。」

フェイト「電話掛けるの早っ！」

すると空からウルトラマンパワードがやって来た。

咲「あ、パワード先生。」

パワード「どうしたのかね？」

ゆり「パワード、お願いがあるけど平成オールライダーをメディカルセンターまで送って頂戴。」

パワード「了解した。」

パワードは平成オールライダーをメディカルセンターまで運びに行った。

咲「これで一件落着・・・かな？」

エレン「さあ？」

フェイト「ゆりって何処で先生の電話番号を手に入れたんだろう？」

咲「謎過ぎるよね？」

ゆり「戻りましょ。」

舞「咲ー！」

フェイト「うるさいよー！」

もっと熱くなれよ！（後書き）

皆さんは平成オールライダーがあんな事になったのは誰の仕業か分かりますか？ウルトラマンマックスで登場した宇宙人です。（笑）

転校生続出！

ラブ「また転校生？」

はやて「せや。何人来るかは分からへんけど。」

海東「今日の転校生、多いよ。」

夏海「多いんですか？」

咲「うん。確か、１７人くらいだよ。」

亜樹子「そんなに！？あたし聞いてない！」

うらら「転校生は誰が来るのか凄く楽しみです！」

りん「変な人だったらお断り。」

スバル「あんた等いいよな〜出番あって・・・」

ティアナ「どうせ私達なんか・・・」

エリオ「出番少ないフォワードなんだよね。」

キャロ「エリオ君。今そつちに・・・」

くるみ「何かフォワードメンバーって奴等ひねくれキャラになってない！？」

ってねえよ！」

シャル「あ、そうなの？可哀想に・・・」

ヴィータ「何が可哀想だよ！？」

ほのか「ヴィータ、いつからミクロ化から元の姿に戻ったの？てつきりシグナムさんとシャルさんに踏み潰されたかと思って・・・」

ヴィータ「だから勝手に殺すんじゃない！」

美希「はい、ヴィータはツツコミと確定。」

フェイト「決めるの早っ！」

ひかり「それにフォワードメンバーの皆さん・・・」

こまち「もう地獄兄弟の仲間入りになってもいいんじゃない？」

かれん「私もそう思うわ。」

キンコンカンコン

ゆり「チャイムが鳴ったわね。」

つぼみ「誰が来るんだろうな。」

するとドアからゾフィーがやって来た。

ゾフィー「諸君、おはよう。今日は転校生が来るという事は知って

るかい？」

マーベラス「もちろんだ。」

ゾフィー「では、転校生を紹介する。人数は１７人だ。」

するとドアから１７人の転校生がやって来た。

翔一「あ！」

真司「嘘だろ？」

巧「マジかよ。」

一真「え〜。」

天道「うざい奴来たか。」

良太郎「これだけは勘弁して。」

渡「どうしてだろう？」

アंक「あいつ何で此処に？」

スバル「あ、この学校に転校したんだね。」

なのは「ウツホホーイ！」

フェイト「なのはいい加減にして。」

咲「へえ、二人も此処に。」

舞「ちよつと驚き。」

ゾフィー「転校生はライダー組、リリカルキャラ達だ。」

誠「氷川誠です。」

涼「芦原涼だ。」

蓮「俺は秋山蓮だ。」

北岡「俺は弁護士、北岡秀一だよ。」

草加「俺は草加雅人。」

三原「三原修二です。」

橘「俺は橘朔也。」

始「相川始だ。」

陸月「上城陸月です。」

加賀美「俺は加賀美新だ！」

優人「俺は桜井侑斗だ。」

太牙「俺は紅太牙だ。」

後藤「俺は後藤慎太郎。」

ギンガ「ギンガ・ナカジマです。」

ヴィヴィオ「高町ヴィヴィオです。」

満「私は霧生満よ。」

薫「私は霧生薫。」

誠「津上さん、この学園に入ってたのですね！」

翔一「氷川さんに芦原さん！」

芦原「久し振りだな。」

真司「何であんたが・・・」

蓮「悪いか？」

真司「いや、そういう訳じゃ・・・」

巧「草加、お前死んだんじゃないのかよ？」

草加「甘いな乾。それはファイズ本編の話だ。ファイズの最終決戦まで俺が生き残った設定になってるぞ。」

三原「え、そうなの？」

草加「お前酷ないか？」

橘「どうだ剣崎？学園の調子は？」

一真「まあまあですよ。」

陸月「そうですか。」

始「だがお前出番が少ないって先生が・・・」

一真「言っな！」

加賀美「天道ホントに久し振りだな！」

天道「お前うざい。」

侑斗「お前まだ背はそのままか？」

良太郎「うん。」

太牙「渡、頑張ってるか？」

渡「はい！」

えりか「・・・」↑後藤を見る。

後藤「何だ？」

えりか「こいつ、あたしの知ってる後藤ちゃんじゃないな。」

後藤「？」

ギンガ「スバル、何か凄いオーラたってない？」

スバル「気のせいだよギン姉。」

ギンガ「そう？ならいいけど・・・」

ヴィヴィオ「なのはママのキャラ、凄く痛くない？」

フェイト「・・・」

満「咲、調子はどう？」

咲「絶好調だよ！多分。」

薫「どうしたの？」

舞「いや、何でもないです。」

ゾフィー「それでは、仲良くやってくれよ。」

全員「はい。」

ゾフィー「国語の授業をやる。今回はこれを読む。」

ゾフィーは『石橋を叩いて渡る』を書く。

ゾフィー「それでは、私が読んでから、後について読んでくれ。石橋を叩いて渡る。さんはい！」

全員「石橋を叩いて渡る。『ゾフィーを叩いて殺せ。』」

注意、のぞみは『』だと思って下さい。

ゾフィー「声がバラバラだぞ。声を揃えるんだぞ。石橋を叩いて渡る。さんはい！」

全員「ゾフィーを、叩いて殺せ。」

ゾフィー「何だこの野郎！」↑M87光線。

全員「うわあー！」

この後、学園はめちゃくちゃとなった。

ギンガ「この学園嫌！」

キャラ紹介（前書き）

今回はリリキュラに登場したキャラと登場予定のキャラを紹介します。

キャラ紹介

ウルトラマンシリーズ

ウルトラの父

ウルトラの母

ゾフィー

ウルトラマン

ウルトラセブン

ウルトラマンジャック

ウルトラマンエース

ウルトラマンタロウ

ウルトラマンレオ

アストラ

ウルトラマンジョーニアス

ウルトラマン80

ユリアン

ウルトラマンスコット

ウルトラウーマンベス

ウルトラマンチャック

ウルトラマングレート

ウルトラマンパワード

ウルトラマンゼアス

ウルトラマンティガ

ウルトラマンダイナ

ウルトラマンガイア

ウルトラマンアグル

ウルトラマンナイス

ウルトラマンネオス

ウルトラセブン21
ウルトラマンコスモス
ウルトラマンジャスティス
ウルトラマンレジェンド
ウルトラマン・ザ・ネクスト
ウルトラマンネクサス
ウルトラマンノア
ウルトラマンマックス
ウルトラマンゼノン
ウルトラマンメビウス
ウルトラマンヒカリ
ウルトラセブンX
ウルトラマンゼロ
ミラーナイト
グレンファイアー
ジャンボット
ジャンキラー
ウルトラマンサーガ？

仮面ライダーシリーズ

五代雄介／仮面ライダークウガ

津上翔一／仮面ライダーアギト
氷川誠／仮面ライダーG3／仮面ライダーG3-X
芦原涼／仮面ライダーギルス
城戸真司／仮面ライダー龍騎
秋山蓮／仮面ライダーナイト
北岡秀一／仮面ライダーゾルダ
乾巧／仮面ライダーファイズ／ウルフルフェノク
草加雅人／仮面ライダーカイザ
三原修二／仮面ライダーデルタ
剣崎一真／仮面ライダーブレイド
橘朔也／仮面ライダーギヤレン
相川始／仮面ライダーカリス／ジョーカー
上城陸月／仮面ライダーレンゲル
ヒビキ／仮面ライダー響鬼
イブキ／仮面ライダー伊吹鬼
トドロキ／仮面ライダー轟鬼
天道総司／仮面ライダーカブト
加賀美新／仮面ライダーガタック
野上良太郎／仮面ライダー電王
桜井侑斗／仮面ライダーゼロノス
野上幸太郎／仮面ライダーNEW電王
紅渡／仮面ライダーキバ
名護啓介／仮面ライダーイクサ
紅太牙／仮面ライダーサガ／仮面ライダーダークキバ
門矢士／仮面ライダーディケイド
海東大樹／仮面ライダーディエンド
光夏海／仮面ライダーキバラー
左翔太郎／仮面ライダーW／仮面ライダージョーカー
フィリップ／仮面ライダーW
照井竜／仮面ライダーアクセル

照井亜樹子（旧名：鳴海）

鳴海壮吉／仮面ライダースカル

火野映司／仮面ライダーオーズ

アंक

泉比奈

後藤慎太郎／仮面ライダーバース

伊達明／仮面ライダーバース

如月弦太郎／仮面ライダーフォーゼ

歌星賢吾

城島ユウキ

プリキュアシリーズ

美墨なぎさ／キュアブラック

雪城ほのか／キュアホワイト

九条ひかり／シャイニールミナス

日向咲／キュアブルーム／キュアブライト

美翔舞／キュアイーグレット／キュアウィンディ

霧生満／キュアブライト

霧生薫／キュアウィンディ

夢原のぞみ／キュアドリーム

夏木りん／キュアルージュ

春日野うらら／キュアレモネード
秋元こまち／キュアミント
水無月かれん／キュアアクア
美々野くるみ／ミルキイローズ
ダークドリーム
ダークルージュ
ダークレモネード
ダークミント
ダークアクア
桃園ラブ／キュアピーチ
蒼乃美希／キュアベリー
山吹祈里／キュアパイン
東せつな／キュアパッションノイース
花咲つぼみ／キュアブロッサム
来海えりか／キュアマリン
明堂院いつき／キュアサンシャイン
月影ゆり／キュアムーンライト
ダークプリキュア
北条響／キュアメロディ
南野奏／キュアリズム
黒川エレン／キュアビート調辺アコ／キュアミューズ

海賊戦隊ゴーカイジャー

キャプテン・マーベラス

ノゴークイレッド

ジョー・ギブケンノゴークイブルー

ルカ・ミルフィノゴークイエロー

ドン・ドッコイヤー（ハカセ）ノゴークイグリーン

アーム・ド・ファミーユノゴークイピンク

伊狩鎧ノゴークイシルバー

バスコ・タ・ジョロキア

リリカルなのはシリーズ

高町なのは

フェイト・T・ハラオウン

八神はやて

ヴィータ

シグナム

シャマル

スバル・ナカジマ

ティアナ・ランスタール

エリオ・モンディアル

キャロ・ル・ルシエ
ギンガ・ナカジマ
高町ヴィヴィオ
ユーノ・スクライアン
クロノ・ハラオウン

こち亀

両津「ほげー！皆、俺の事分かるか？俺は両津勘吉！こちら葛飾区亀有公園前派出所の主人公だ！」

ルカ「あ、両さん！」

両津「おールカ！久しぶりだな！」

ルカ「久しぶりだね。どうやって光の国に？」

両津「ネオマキシマドライブで来たのさ！」

ルカ「流石両さん！男前じゃん！」

両津「サンキュ。あ、そうだルカ。この学園、上手くやってるか？」

ルカ「うゝん、まあまあかな？両さんの方は？」

両津「勿論やってるぜ！」

ルカ「嘘なのは完全に分かってるよ。変な事をやったり、部長に怒られたり、金や食べ物、そしてプラモを買う事しか考えてないよね？」

両津「うつ、分かってたんだ。（汗）」

ルカ「まあね。」

両津「よっぽど部長はしつこくてうざい部長なんだよ。俺はそういう部長はいらないからね。」

ルカ「ふうん、両さんはよっぽど部長の事嫌いだね。あ、そういえば両さんってマリアと結婚したの？」

両津「ああ勿論・・・って何でマリアが出て来るんだよ！？しかも結婚なんかする訳ねえだろ！」

ルカ「どうしてよ？結構可愛い女の子じゃん。」

両津「確かにマリアの見た目は可愛いけど、あいつは女じゃねえ！あいつは男だ！」

ルカ「あれ？マリアちゃんって男だっけ？」

両津「知らねえフリすんな！」

ルカ「あ、ごめん両さん。別の授業があるからまた今度！」

両津「逃げんなこの女海賊！」

????「両津・・・」

????「先輩。」

????「両ちゃん。」

????「両様・・・」

両津「ギクッ！」

部長「こんな所で何をしている？それにしつこくてうざい部長で悪かったな。（激怒）」

中川「ネオマキシマドライブ代、今日こそ払って貰います。」

麗子「両ちゃん。今日という今日は許さないよ。」

マリア「両様、酷過ぎます。どうしてマリアと結婚しないのですか？（泣）」

両津「（厄介な事になったな。）あ、あれは何だ？」

部長「ん？」

両津「隙あり！」↑逃げた。

麗子「あ、両ちゃん！」

部長「待たんか両津ー！」

中川「先輩！逃がしませんよー！」

マリア「両様！待って下さいー！」

両津「待つ奴が何処にいるんじゃないー！」

ルカ「暫く放つとく事にしよ。」

その後、両津は宇宙に放り投げされました。
(笑)

こち亀（後書き）

ル力役をやっていた人はこち亀の劇場版に出ています。

あいつが来たー！

ラブ「また転校生！？」

うすら「そうですよ！しかも今回の転校生は不良です！」

士「不良だと？そんな奴なんか俺が相手してやるぜ。」

夏海「それはダメです！」

つぼみ「誰なんだろうな。早くダチにしたいぜ。」

えりか「そうだね。」

後藤「だが気を付けた方がいい。例え転校生が不良だからといって友達になるのは・・・」

えりか「おい、あんたは黙れ。」

後藤「・・・」

映司「アंक・・・」

ギンガ「アंकがいなくなって寂しいの？」

映司「ちよつとね。でも、タカメダルが此処にある限り、俺は大丈夫だよ。」

ギンガ「そっか。」

鎧「誰なんでしょうかね？」

キンコーンカーンコーン

「ソフィー、やあ諸君、おはよう。今日も転校生がやって来るそうだ。」

奏（も、物凄い緊張が・・・）

響（一体、誰なの？）

ゾフィー「入って来て。」

するとドアが開くと、男が現れる。

マーベラス「あ、あいつは！」

凱「よお！初めまして、俺は結……」

「あ、間違えた。君死人だから天国に帰っていいよ。」

凱「は！？ちよつ・・・」
↑天国に帰った。

全員「ええええええ！？」

なぎさ「ありえない……」

フェイト「それウルトラ戦士に対して言う事!？」

シャマル「さあ？」

ゾフィー「さっきのはなかった事にする。改めて転校生を紹介する。入って来い。」

するとドアが開くと、チンピラのような男が現れた。男はチョークで自分の名前をデカイ字を書く。

エレン「あれが、不良？」

のぞみ「全然そう思わない。」

咲「カッコイイ・・・」

弦太郎「俺はこの学園に転校する事となった如月弦太郎だ。俺の夢はこのクラス全員友達になる事だ。宜しくな！」

ゾフィー「席は、桃園君の所だ。」

弦太郎「はいよ。」

弦太郎はラブの隣に座る。

ラブ「私は桃園ラブ。宜しくね、弦太郎君！」

弦太郎「宜しくな！」

昼休み

ラブ「フォーゼ？」

弦太朗「ああ。今日から始まった新しい仮面ライダー、フォーゼという事は知ってるか？」

ラブ「知ってるよ、確か仮面ライダー生誕40周年を迎えた記念作品だっけ？」

弦太朗「ああ。所であんたのダチは？」

ラブ「あ、あそこ。」

弦太朗「ん？」

なのは「待つてよ土ー！私と遊ぼうよー！」

土「嫌に決まってるだろ！」

フェイト「なのは！これ以上皆を傷付くのはダメー！」

弦太朗「な、何てカオスだ？（汗）」

ラブ「この学園の扱いが酷くて色々とかオスになってるの。だから弦太朗君、気にしない方がいいよ。」

弦太朗「あ、ああ・・・（俺この学園に入ってよかったか？）」

天国

凱「結局俺は一体何をしに来たんだ!？」

新しい仮面ライダー、フォーゼを調べよう！

校長室

ウルトラの父「うーん、今日はいいい天気だ。さてと、今日は何をしようかな？」

ラブ「弦太朗君。仮面ライダーフォーゼに変身して！」

弦太朗「え？」

ラブ「いいから早く変身して！」

弦太朗「お、おう。」

そう言うとき弦太朗はフォーゼドライバーを腰につけてから右から左までスイッチを押す。

3！

2！

1！

弦太朗「変身！」

弦太朗はフォーゼドライバーのレバーを引いてから右腕を上にあげると、弦太朗は仮面ライダーフォーゼの姿に変身した。

ラブ「うっはは、かつこいい・・・」↑目がキラキラと輝く。

フォーゼ「サンキュ。」

ラブ「もつと他にない？」

フォーゼ「あるよ。見せてやるか。」

フォーゼは右にセットしているアストロスイッチをオンすると・・・

ロケット、オン

フォーゼの右腕からロケットが現れた。

ラブ「すっごーい！」

フォーゼはアストロスイッチをオフすると、ロケットは消えた。

フォーゼ「次は・・・」

次に右の二番目のアストロスイッチをオンにすると・・・

ランチャー、オン

フォーゼの右脚からランチャーが現れた。

フォーゼ「凄いだろ？」

ラブ「うん、凄い。」

フォーゼは右脚を降ろすとミサイルが発射する。ミサイルは学園の周りに直撃した。

ウルトラの父「ん？何だ今のは？それにしても、やる事はないよな。」

フォーゼ「渋ったぜ。」

ラブ「凄い・・・」

右の二番目のスイッチをオフにすると、ランチャーは消えた。次に左にセットしているアストロスイッチをオンすると・・・

ドリル、オン

フォーゼの左脚からドリルが現れた。

ラブ「今度はドリルだ。」

フォーゼは左にセットしているアストロスイッチをオフにするとドリルは消えた。最後に一番左にセットしているアストロスイッチをオンにすると・・・

リーダー、オン

左腕からリーダーが現れた。

ラブ「左腕からリーダーが・・・」

フォーゼ「後、通信も出来るぜ。」

ラブ「通信も！」

フォーゼ「おう。」

フォーゼは全てのスイッチをオフにすると、変身は解除する。

弦太朗「俺の世界では仮面ライダーは都市伝説と呼ばれてるそうだ。」

ラブ「へえ、都市伝説か。何か凄い。」

弦太朗「でも、お前プリキュアに変身してるよな？」

ラブ「う、うん。そうだけど、どうかしたの？」

弦太朗「プリキュアってめちゃくちゃ可愛くねえか？」

ラブ「え？」

弦太朗「あの姿はとても可愛過ぎてホントにいいよな。お前のキュアピーチよりキュアムーンライトの方が美人過ぎるわ・・・」

ラブ「ゆりさんの方？でも弦太郎君。全員友達になるって言うってたけど本当に全員友達になるの？」

弦太郎「勿論。」

ラブ「でもこの学園の扱いが酷過ぎて中々友達作るのが難しいけど大丈夫？」

弦太郎「大丈夫だ。例えこの学園の扱いが酷くても、俺は全員友達になってみせる。」

ラブ「ホントに大丈夫か？」

校長室

ウルトラの父「ハア、暇だな。最近私の出番はないし、やる事は全然ない。どうしたらいいのやら・・・」

ベリアル「ケン。」

ウルトラの父「ベリアル。どうかしたのか？」

ベリアル「いや、何というかさ、リ・イマジの奴等も勝手な事ばかりやってるから困ってるんだよ。」

ウルトラの父「そうかいな。お前も酷い目に会ってるようだな。」

ベリアル「そうだよ。全く困ったもんだ。」

ウルトラの父「ふむ。」

何かベリアルのキャラ、変わってない？

新しい仮面ライダー、フォーゼを調べよう！（後書き）

次回はコラボ・・・かも？

やっぱり似た者同士だね（前書き）

今回はゼロディ阿斯さんとコラボです。

やっぱ似た者同士だね

弦太朗「今日はコラボだそうだぜ。」

つぼみ「何か久しぶりのコラボだよな。」

響「誰が来るんだろう?」

なのは「アッハー!」

フェイト「いい加減にしてよなのは。こっちはマジ困ってるからさ・
・・」

なのは「いいじゃん楽しんだ方がいいみたいだし!」

はやて「なのはちゃん、あんただんだけ痛いキャラやねん。」

弦太朗「あ、そうだ。今日から新しい部活の名前が決まったぜ。新しい部活の名は仮面ライダー部だ!」

全員「仮面ライダー部?」

弦太朗「よお平成仮面ライダーの皆、俺の部に入らねえか?」

平成ライダー「お断りします。」

全員「早っ!」

アंक?「そんなバカな部活に入る訳ないだろ。」

映司「やっぱアंकの言う通りだな。ん？」

アंक？「ん？」

・・・・・・・・・・・・・・・・

映司「ア、アंक！？」

アंक？「お前誰だ？何故俺の名前を知ってる？」

えりか「死んだんじゃないの？」

アंक？「お前バカか！勝手に俺を殺すな！」

映司「アंक、よかったー！」

アंक？「な、何だこいつ！？おい光、こいつを何とかしろ！」

光「・・・」

つぼみ「あ、風上さん。」

光「あ、つぼみさんどうも。」

Ｚアंक「おい無視すんな！」

映司「アंक！アंकー！」

後藤「火野、冷静になれ！確かにこいつはアंकだが、このアंक

は俺達知ってるアंकでは・・・ぐふっ!」

えりか「こっちの後藤ちゃんなんかめちゃくちや嫌いだわ!」

いつき（よっぽどえりかってこっちの後藤の事嫌いなのか?）

ケンタ「コウガ、せっかく平成ライダー組がいるから仮面ライダー部に入ろうぜ!」

コウガ「僕は嫌です!」

なぎさ「ちよっと!人が嫌がってる事はやめなさいよ!」

ケンタ「え?」

コウガ「ケンタ?」

ケンタ「もしかして、貴方はまさか・・・」

なぎさ「何よ?」

ケンタ「俺の仮面ライダー部に入ってくれないか?」

なぎさ「は!?!何でさ!?!つつか私仮面ライダーじゃないし!」

ケンタ「そうだけども、あんた仮面ライダーBLACKに出てたじゃない。」

なぎさ「あれはまだ子供だったから・・・ってそれ私の声やってる人でしょ!」

ケンタ「仮面ライダー部に入ろうぜ！美墨なぎさちゃん！」

なぎさ「あゝもう、ありえなゝい！」

コウガ「・・・」

Zアंक「おい光、助けてくれ・・・」

映司「アंक・・・」

後藤「火野、こいつはアंकじゃ・・・ぐふっ！」

えりか「黙れって言うてんだろっが。」

つぼみ「あ、風上さん。フェイトさんからの頼みだよ。」

光「え？何か呼んだ？」

フェイト「あ、風上さん。実は私、突っ込みには向いてないですよ。」

光「え？」

フェイト「私では突っ込み不足。これじゃあなのはを止める事は出来ないよ。私は突っ込みをやめるべきどうか分からない。風上さん、こんな時どうしたらいいの？」

光「それは、自分に勇気がないからじゃない？」

フエイト「え？」

光「こういう時って、人を頼んで頼りにする事はあんまりよくないと思うよ。突っ込みを何度も続けられれば疲れるのは分かるでしょ？」

フエイト「それは分かるよ。でも・・・」

光「突っ込みをやめたい時はやめればいい。もしボケがあったら突っ込みのを我慢して体を休んだ方が大事だよ。自分を信じて、とにかくやってみる。」

フエイト「ありがとう風上さん。私、元気が出て来た。風上さん、そっちの私とお幸せに・・・」

光「はい？僕まだフエイトとは・・・」

フエイト「え、結婚してないの！？」

光「けっ結婚！？」

Zアंक「いい加減離れろ！」

Zアंकは映司と逃れる。しかし、近くにエレンに遭遇すると、エレンの顔が真っ青になり、そして・・・

エレン「キャアアア！お化けー！」

Zアंक「誰がお化けじゃー！」

オーズジャドル「アंकー！」↑Zアंकを追いかける。

Zアंक「こいつしつこ過ぎるぞ!」

ケンタ「なぎさちゃん!仮面ライダー部に入ってよ!」

なぎさ「嫌だー!」

コウガ「これだからケンタは・・・」

弦太朗「おいお前!仮面ライダー部に入らないか?」

ゆり「嫌よ。」

コウガ「ノーコメント。」

つぼみ「ハァ、ケンタと弦太朗はやっぱり Trash だな。」

弦太朗 & a m p ; ケンタ「仮面ライダー部に、入ってくれ!」

やっぱり似た者同士だね（後書き）

ゼロディアスさん、コラボありがとうございました！何か間違いがありましたら感想を！

魂と幸せ（前書き）

今回のゴージャスはライブマンだったので今回はエレンとせつなのメインにしてみました。

魂と幸せ

エレン「・・・」

今日のエレンは元気がなかった。

エレン（何でだろう？私が今まで壊して来た事を忘れたいのに忘れられない。どうしてなの、あの日を忘れたいのに・・・）

???「エレン、どうしたの？こんな所一人で・・・」

そこに、せつながやって来た。

エレン「せつな。あの時の事思い出してしまつて・・・」

せつな「あの時つて最初に会つた時の事ね。まだ思い出してたんだ。」

エレン「うん。私はプリキュアの敵だったけど、今の私はプリキュアの仲間として、皆と一緒にいる。」

せつな「エレン・・・」

エレン「私は皆に迷惑をかけてしまった。響や奏、そして貴方も・・・」

時はさかのぼる。エレンは最初、マイナーランドの歌姫、セイレーンとして人々を不幸の幸福メロディを流し、人々を不幸のどん底に着き落としていた。

セイレーン「行け、ネガトーン！不幸の幸福^{メロディ}で人々を悲しませるのだ！」

そこに、メロディとリズム、そして町にやって来たパッションが現れた。

パッション「メロディとリズムはネガトーンをお願い。」

リズム「分かった。パッションは？」

パッション「私は、あの子をやるわ。」

メロディ「分かった。気を付けてね。」

メロディとリズムはネガトーンに向かっていき、パッションはセイレーンと相手になる。

セイレーン「あんた、何者なの？」

パッション「真っ赤なハートは幸せの証！熟れたてフレッシュ、キュアパッション！」

セイレーン「まだプリキュアがいたの？まあいいわ。私が相手になるよ！」

セイレーンはエレンの姿に変わる。

パッション「貴方、どうしてこんな事をするの！？」

エレン「私の目的はただ一つ、不幸の幸福^{メロディ}で人々を不幸のどん底に落とすのさ。」

パッション「貴方、それでもいいの？」

エレン「ん？」

パッション「とても幸せな町、加音町がどうなってもいいの？皆の喜びを、ぶっ壊すつもりなの！？そんなの間違ってるわ！」

エレン「黙れ！貴方に何が解るの！？」

二人の戦いは始まった。だがパッションの方が上だった。

エレン「くっ、強い・・・」

エレンはパンチをするが、パッションは片手で止める。

エレン「何で、何で勝てない！」

パッション「貴方、私と同じようだね。」

エレン「同じ？どういう事よ？」

パッション「貴方も私と同じ皆を不幸にしようとしたの。私は、幸せなんか無くなってしまえと思った。でも、私の友達が心を鬼にして、死んでも私を救おうとした。でも、私の寿命が尽きて一度は死んだ。その時、アカルンが私をプリキュアにさせ、蘇った。私はプリキュアとして生まれ変わった。だから、貴方も生まれ変わるはずよ！いつかきつと！ハアッ！」

パッションはパンチでエレンを吹き飛ばす。

エレン「ああああああ！」

丁度その頃、メロディとリズムはネガトーンを倒した。

エレン「くっ、覚えてなさい。」

エレンは消えた。

メロディ「パッション、大丈夫？」

パッション「ええ。」

リズム「ごめんなさい。せっかく遊んでたのに・・・」

パッション「気にしてなんかいいわ。助けるのは当たり前でしょ。」

メロディ「だよね。じゃあ帰ろっか。」

リズム「うん。」

パッション「ええ。」

パッションはエレンの事考えていた。

パッション（あのエレンって子、何とかならないの？）

その後、響と奏とエレンは和解し、エレンはキュアビートとして生

まれ変わった。そしてエレンは他のプリキュアを紹介した時、せつなとエレンは再び会った。

せつな「貴方だったのね。新しいプリキュアは・・・」

エレン「えつと、何て言ったらいいのか・・・」

せつな「よかったね。貴方がプリキュアで・・・」

せつなは優しい表情で浮かぶ。

エレン「どうして怒らないの？酷い事すれば怒るのは当たり前ですよ！」

せつな「そうかもね。でも、今の貴方と昔の貴方とは違うよ。貴方が壊してきた物を守る事なんか、私は怒らないわ。」

エレン「何で、そこまで私を？」

せつな「だって、貴方は私に似てるから。」

エレン「ねえ、この前も似てるって言ってたけどどういう事なの？」

せつなはエレンにこの事を話した。せつなが話したのは、かつてせつなはラビリンズの幹部、イースとして人々の幸せを奪ってきた。だが、ラブ達が出会い、そしてラブとせつなは和解し、キュアパッションとして生まれ変わった。

エレン「貴方もプリキュアの敵だったんだ。」

せつな「ええ。でも今は違う。私はプリキュアとして、皆と会えて、私は凄く嬉しかった。今の私は、プリキュアの仲間。貴方も私と同じよ。本当によかった・・・」

エレンは涙を流す。

エレン「ありがとう。えっと確か・・・」

せつな「名前まだだったね？私は東せつな、よろしくエレン。」

エレン「せつな、こちらこそよろしくね！」

・・・

エレン「せつな、あの時はありがとう。私、嬉しかったわ。」

せつな「そう・・・」

その頃、遠くから二人を見ていたジョーは・・・

ジョー（俺もいつか、シド先輩の魂だけでも、俺は必ずシド先輩の魂を助け出す！）

魂と幸せ（後書き）

あくまでもこれは真面目です。

嘘だろ？一人だけリ・イマジ、いなかったんだぜ？

ユウスケ「变身！」

ショウイチ「变身！」

シンジ「变身！」

タクミ「变身！」

カズマ「变身！」

アスム「变身！」

ソウジ「变身！」

ワタル「变身！」

平成ライダー組「お……」

最近出番が少ないライダー組は『仮面ライダーディケイド』を見ていた。

翔一「いやー俺達のリ・イマジって本当にいいですね。」

巧「ああ。俺達の世界とは違うが、こいつ等は中々いいな。」

良太郎「……」

真司「良太郎、どうかしたの？」

良太郎「皆いいよな。リ・イマジが存在して・・・」

一真「良太郎君？」

良太郎「僕なんてな！『仮面ライダーディケイド』でクウガ〜キバまでのリ・イマジが存在してるのに僕の電王だけリ・イマジが存在しなかったんだぞ！何故だー！？」

『ライナーフォーム』

電王「何故だー！？」↑デングメンソードを振り回す。

ヒビキ「とにかく良太郎落ち着けー！」

数分後

サンシャイン「ハア、ハア、何とか落ち着いたね。」↑学園に帰る途中に電王が暴れた事で必殺技で落ち着かせた。

マリン「ちよつと何の騒ぎなの？」↑同じく。

良太郎「リ・イマジ。僕のリ・イマジ・・・」

ブロッサム「リ・イマジ？リ・イマジがどうかしたのか？」↑同じく。

ムーンライト「天道さんによると、『仮面ライダーディケイド』に電王だけリ・イマジが存在しなかった事が原因らしいわ。」↑同じ

く。

ブロッサム「成る程。」

良太郎「僕のリ・イマジが欲しい！リ・イマジが欲しいよー！」

サンシャイン「どうする？」

士「そつとした方がいいだろ？」

海東「困ったな。良太郎君だけ仲間外れになるとは・・・」

士「よし、こうなったら『仮面ライダーディケイド』に登場したり・イマジを紹介するか。」

渡「でも何か嫌な予感がするけど大丈夫？」

ブロッサム「大丈夫だろ、多分。」

マリン「多分かい！」

良太郎「皆、僕以外のリ・イマジを紹介する気なんだ。」

全員「あ。」

良太郎「どうせ僕なんか仲間外れだ。リ・イマジなんか消えればいいんだよ！」

真司「良太郎、とにかく落ち着け！」

良太郎「どうせ僕なんか！」

ブロッサム「ちょっと待った！」

マリン「ん？どうかしたのブロッサム。」

ブロッサム「いるんじゃないのか？電王のリ・イマジ。」

渡「ホントに？」

ブロッサム「ああ。良太郎、お前のリ・イマジが存在したんだぞ！」

良太郎「ホントに？」

ブロッサム「ああ！その実際の映像があるんだ！これを見てくれ。」

全員は『仮面ライダーディケイド』を真剣に見る。

Mユウスケ『イチチチ、ワリイな、傷付けちまって・・・』↑リ・イマジ電王。

良太郎「・・・」

ブロッサム「どうした良太郎。これがリ・イマジ電王だぞ。嬉しくないのか？」

マリン「それ、リ・イマジって言える？」

ブロッサム「え？」

良太郎「・・・か。」

一真「ゲツ。」

ヒビキ「これは不味いね。」

『超クライマックスフォーム』

超・電王「全然違うじゃねえか！これは僕のリ・イマジなんかじゃない！モモタロスが勝手に取り憑いたり・イマジクウガだろうがー！」

ブロッサム「え、違うの？これ見たらリ・イマジ電王でしょ。」

ムーンライト「ブロッサム、明らかと言って違うから。」

超・電王「リ・イマジクウガなんか消えてしまえー！」↑超ボイス
ターズキック。

雄介「・・・」

全員「雄介ー！（さーん！）」

ドーン！↑大爆発。

サンシャイン「ゆ、雄介さん！」

超・電王「な、何？」

ライジングアルティメットクウガ（レッドアイズ）「・・・」↑片

手で受け止めた。

マリン「む、むごい・・・」

RUクウガ（レッドアイズ）「良太郎。小野寺君をバカにしたね？」

超・電王「え？」

RUクウガ（レッドアイズ）「あれ、言ってなかったっけ？小野寺君をバカにした奴は、俺が許さない。今からお前を血祭りにしてやるぜ。」↑ダークオーラ。

全員「恐っ！」

超・電王「やめろ！やめてくれー！」

RUクウガ「ハハハ、大丈夫だよ。もっと凄い事を教えるだけだから大丈夫だよ。」↑超・電王を引きずって。

ブロッサム「誰のせいであんな風になったのかな？」

全員「あんたのせいだろ！」

ブロッサム「うつ・・・」

ムーンライト「ブロッサム、ちょっと来なさい。」↑ブロッサムを引きずって・・・

ブロッサム「嫌だー！死にたくない！」↑死

マリン「ブロッサム、ドンマイ。」

サンシャイン「あ、もうすぐ授業が始まっちゃう！皆急ごう！」

翔「あ、はい！」

一真「いやいや、良太郎とつばみちゃんはどうなった！？」

巧「放つときや大丈夫だろ？さっさと行くぞ！」

真司「やっぱ転校しようかな？」

嘘だろ？一人だけリ・イマジ、いなかったんだぜ？（後書き）

二人はどうなったのか皆さんのご想像にお任せします。（笑）

チヨコ！赤で運氣は完全独走？（前書き）

君だけのライダー48っぽくやりました。

チョコ！赤で運氣は完全独走？

昼休み、咲はこっそり家庭科室に入った。

咲「チョコだよチョコ。チョコチョコチョコ。」

咲は冷蔵庫を開けてからチョコの袋を出す、中身は入ってなかった。

咲「ガン！一つも入ってない・・・あゝ運氣は最悪だー！」

するとキバットが出て来た。

キバット三世「そんな君の、ラッキーカラーは？」

.....

キバット三世「赤で、運氣アップ！赤のクウガ、マイティフォームはバランスに優れた基本形態で、マイティキックを放つ。バイクを乗りこなす万能戦士だ。皆の信頼が熱い学級委員だね。」

咲「チョコチョコチョコ。」

咲は何時の間にか赤いマフラーをつけていた。

キバット三世「そうそう赤！いいねゝって咲ちゃんプリキュアになった時赤だけだね。」

咲は冷蔵庫を開けると、チョコの袋から写真が入っていた。

咲「ん、写真？」

咲は写真を中身を見ると、知世子さんの写真だった。

咲「知世子さんだ。いや、知世子さんっていいね。ん、知世子？
ちよこ・・・チヨコ・・・チヨコ？あ、チヨコ！ってふざけんな！」

咲は写真を破った後、咲は教室に戻った。

咲「て今回の小説に出たのは私だけかい！」

静聴！中二なのに背が低いなんて言われたくない！（前書き）

今回も君だけのライダー 48っぽくやりました。

静聴！中二なのに背が低いなんて言われたくない！

パンパン！↑花火のような音。

第一回、全国仮面ライダー主張！次の主張者は、キュアマリン！↑
ジークの声。

マリン「海風に揺れる一輪の花、キュアマリン！マリンファンの皆、
元気〜？」

ショッカー戦闘員「イー！」

マリン「お〜元気がー！それはよかったね！元気って良いよね〜！」

ショッカー戦闘員「イーイー。」

マリン「ん？ライダーじゃないのに何で出てるのって？いや〜その
人風邪で休みだったから代わりに私がやる事になったんだよ。どう
皆、嬉しい？」

ショッカー戦闘員「イー！」

マリン「そうかそうか、それは良かったね！実はね、私が此处に来
た理由は分かる？」

ショッカー戦闘員「イ？」

マリン「分からないよね。よし、教えてあげるよ。私が此处に来た
理由は、私の背よー！」

シヨツカー戦闘員「イ？」

マリン「私はつぼみやいつきと同じ中二のはずなのに何故か私の背が低い！私の背ってどうして低い！？私なんてひかりとうらはは年下なのに何故か私の背が低い！シグナムとシャルはヴィータの背と同じだって言われるし！これどう思う！？」

シヨツカー戦闘員「イ……」

マリン「私の背が伸びたい！ゆりさんや美希よりももっと背が伸びたい！だいたい皆なんか……」

ブラック「はいはいはいやめましようね」。↑マリンを止める為にやって来た。

ブルーム「さあさあ、帰る帰る。」↑同じく。

ドリーム「皆待ってるよ。」↑同じく。

マリン「ちょっと！私の話まだ終わってないよ！」↑ブラック達に連れてかれる。

ピーチ「もう背の事なんか諦めよ。」↑同じく。

メロディ「そうそう。成長すれば背は伸びるよ。」↑同じく。

Blossam「シヨツカー戦闘員の皆さん、この事はなかった事で」↑同じく。

シヨツカー戦闘員「イー♪」↑ブロッサム笑顔を見ると嬉しそうな顔だった。

マリン「私の背ー！」↑どっか去った。

シヨツカー戦闘員「イー♪」

この後シヨツカー戦闘員はマリンファンからブロッサムファンとなりました。めでたしめでたし。

弦太朗「何故昔話？」

ゴーカイシルバーって何かパクってない？

ひかり&amp;咲&amp;舞&amp;のぞみ&amp;りん
&amp;うらら&amp;こまち&amp;かれん&amp;く
るみ&amp;ラブ&amp;美希&amp;祈里&amp;せつ
な「「「久しぶりの出番だー！」「」」

のぞみ「でも、何で私達の出番がなかったんだろう？」

せつな「作者が私達を出す機会がなかったのよ。」

美希「おかげで誰かさんに影薄いって言われるし。」

くるみ「私達の影なんか、薄くないからね！」

ラブ「またツンデレ・・・」

かれん「ツンデレ過ぎるわね。ってか此処何処よ！？」

こまち「会議室よ。私達何か士さんや翔太郎さんに呼ばれた事知らないの？」

うらら「あ、そういえば大事な話があるって言ったような・・・」

りん「どうせくだらん事でしょうね？」

咲「何で私達が呼ばれたの？」

舞「さあ？」

コンコン

ひかり「あ、来ます。」

全員「ゴクッ。」↑喉を飲む

マグマ星人「あはー！どうも、俺は・・・」

全員「キャアー！」↑プリキュアに変身してからマグマ星人を蹴り続ける

マグマ星人「あがつ！もがつ！ちよつ、やめろー！」

ゴーカイシルバー「そこまでー！マグマ星人！」↑やって来た

マグマ星人「あ、貴様は！」

パッション「鎧！」

ゴーカイシルバー「俺に任せて下さい！豪快チェンジ！」

ゴーオンウィングス！

ゴーオンウィングス「ジェットダガー！」↑フルスピードでマグマ星人を切り裂く

マグマ星人「ぐへっ！」

ゴーカイシルバー「これで止めだ！豪快チェンジ！」↑ゴーカイ

シルバーに戻ってからゴールドアンカーキーをゴークイセルラーに
さす

ゴークイシルバー！ゴールドモード！

ゴークイシルバーG「ゴークイシルバー、ゴールドモード！」

フアゝイナルウェイブ！↑いきなり必殺技

ゴークイシルバーG「ゴークイ、レジェンドリーム！」

マグマ星人「何か俺の扱いが・・・酷ーい！」↑大爆発

ゴークイシルバー「どんなもんだい！」

ベリー「完璧ね。」

ピーチ「何かゴークイシルバーがっこいい！でも金色のフォーゼが
一番がっこいい！」

コンコン

パイン「ん、誰かしら？」

ディケイド「よあ。」

ジョーカー「待たせたな。」

ドリーム「土君に翔ちゃん！」

ブルーム「何なの話って？早く帰りたいけど。」

ジョーカー「その話は・・・」

ディケイド&ジョーカー「セーの、ゴークイシルバーだ
！」

全員「え？」

ゴークイシルバー「え、俺？」

イーグレット「質問ですけど、何で鎧君ですか？」

ディケイド「さっきから気になった。こいつ、俺と翔太郎とフィリップのパクリしてる。」

ミント「え、パクリ？」

ゴークイシルバー「いえ、パクってなんかないですよ！何で俺が三人のパクリなんか・・・」

ジョーカー「いや、あれパクってる。右半身がゴークオンゴールドで左半身がゴークオンシルバー。あれパクってるだろ！」

ゴークイシルバー「いや、あれはパクってなんか・・・」

ディケイド「ゴールドモードになった時、あれは俺の最強フォーム、コンプリートを完全にパクってるぞ！」

ゴークイシルバー「いや、だから・・・」

ディケイド& a m p・ジョーカー「パクってるだろ！」

ゴークイシルバー！ゴールドモード！

ゴークイシルバーG「パクってねえって言うてるだろうが！俺の話
を聞きやがれピンク野郎とブラックをパクってる奴！」

ディケイド「ディケイドはマゼンダだ！ピンクじゃない！」

ジョーカー「俺なんか仮面ライダーブラックをパクってねえ！」

ルミナス「いい加減にして下さい！」↑必殺技

ディケイド& a m p・ジョーカー& a m p・ゴークイシルバーG「
ぐつ、動けん！」

レモネード「どうします？」

ルージュ「放つとけば？」

アクア「そうね。暫くすればこの術とけるし。」

ローズ「じゃあ行こ。」

ルミナス「ごめんなさい。」

理科室

ほか「ハア」、コアメモリが全然完成しない。早くしないと仮面ライダーコアに処刑されちゃう。一日中終わらせよ。」↑コアメモリを作っていた

霧彦の部屋、セカンドリベンジ

生徒会長室

霧彦「やあ、僕の事覚えてるか？僕は園崎家自慢の園崎霧彦だよ。」

ミューズ「で、何であんたがこの学園に来たの？」

霧彦「実はね、この学園に興味があつて此処に来た。勿論この学園に入るって事は先生の許可を取つてあるよ。」

ミューズ「フーン。」

霧彦「ま、その話は置いて、今日のゲストは……この方です！」

今回のゲストは……海賊戦隊ゴーカイジャーのゴーカイイエローことルカ・ミルフイ。

ルカ「どうも、あたしはゴーカイイエローのルカです。あんたが霧彦？よっぽどあの世でもイケメンになったじゃない。」

霧彦「そうか？それはありがたい。」

ミューズ「所で、ルカに何の用なの？」

ルカ「そうそう、あたしを呼んだ理由は何？」

霧彦「そうだな、今日のゴークアイジャーについて話したかったんだ。」

ルカ「は？」

ミューズ「どういう事？」

霧彦「これを見たまえ。」

『海賊戦隊ゴークアイジャー』

第34話：夢を叶えて

『ルカ、君を迎えに来たよ。』

『いや、それは本当だよ。』

『綺麗になったね、ルカ。』

.....

ルカ「あ、カインだ。」

霧彦「おい、何だこれは？」

ミューズ「ん？」

ルカ「何だってどう見てもカインだけど？」

霧彦「そうじゃない！僕が言いたいの、あの顔だ！何だあの顔は何だ！？僕の顔にそっくりじゃないか！あれはどういう事だよ！？」

ルカ「あ、ホントだ。霧彦とカインそっくり。」

霧彦「言いたい事はまだ他にある！あいつはナスカになってないし！何時の間にかゼンギヤツクに捕まるし！僕の様子が変だし！しかもあの大金は何だ！？そんな金、僕は持ってないぞ！」

ルカ「あ、そ。」

霧彦「どうしてくれるんだ！？僕の出番あれで終わっただし！僕の活躍が台無しになったじゃないか！あんな・・・」

ルカ「あいつどうすんの？」

ミューズ「暫く関わらない方がいいわ。どうせあの人、猫の餌になるし・・・」

ルカ「それもそうだね。早く教室にもどろつ。」↑教室に戻る

ミューズ「もうすぐ授業になるから暫く貴方は此处で猫の餌よ。」↑同じく

霧彦「ちょっと、猫の餌ってどういう事？貴様等！僕から逃げようとでも・・・」

スミロドン！

霧彦「ん？あ・・・」

スミロドン「シャッ。」↑窓から出て来た。

霧彦「み、ミック！？ど、どうしたんだいミック？僕に会いに来たの？それとも出番が欲しいの？残念だけどもうWは・・・」

スミロドン「シャッ！」

霧彦「うわぁー！」

この後霧彦は、スミロドンに再びボコられた。

スミロドン「ニャプゥ、大成功だニャ♪」

スミロドンになったのはハミィです。（笑）

ルカ「というか何時からこの学園に転校したの？」

ミューズ「昨日よ。」

第3回人気投票！

エレン「またまた始めましたリリキュラ学園第3回人気投票！」

ジョー「またか？」

鎧「はい、またですよ。」

ルカ「第1回の1位はマーベラスで第2回の1位はなのは、つばみえりか、奏、エレンの5人ね。」

ハカセ「あんな痛いキャラが1位なのがありえないわ。」

アイム「ちなみに今回の投票はアコちゃん、サブライダー、如月さん、まだこの小説に出てない伊達さんや比奈さんや歌星さん、そしてユウキさんが参加します。」

奏「ですが、今回の投票にはウルトラマン達は対象外なので注意して下さい♪」

響「また、アイデアやコラボはまだ募集中だよ。」

マーベラス「コラボしたい奴は感想、又はメッセージにコラボの内容を送ってくれ。」

弦太朗「閉め切りは後1ヶ月で作者の誕生日、11月9日だ！皆、沢山の応募・・・」

全員「待つてまーす！（待つてるぞー！）」

キモい、ウザイ、オタクバカ（前書き）

バスコ「マベちゃん、何時から俺の出番が来るんだよ？」

マーベラス「知るか！文句言っならこの作者に言え！」

書き忘れましたが、ヴィヴィオとギンガは投票に参加しますので
よろしく願います。

キモい、ウザイ、オタクバカ

響「という訳で！」

奏「キュアミューズの正体が判明しました！」

エレン「その正体は・・・この子！」

アコ「・・・」

響「音吉さんの孫、アコちゃんです！」

全員「お〜！」

奏「ゆっくり楽しんで下さい」

弦太郎「早速だがアコちゃん！仮面ライダー部に・・・」

平成ライダー組「このアホー！」↑オールライダーキック

弦太郎「ぐへっ！」

ジョー「驚いたな、まさか小学生がプリキュアだとは。」

ハカセ「プリキュアシリーズ初の小学生プリキュアだよね？」

アイム「はい。wikiで調べたらあの子こそが小学生プリキュアなんです」

ルカ「小学生か。」

鎧「あ！」

ハカセ「どうかした？」

鎧「皆さん、スーパー戦隊にも小学生が変身する人いましたよ。」

マーベラス「ホントか？」

鎧「はい、アコちゃんにも見せてあげるから。」

アコ「・・・」↑興味なさそうな顔

鎧「では、小学生戦隊に豪快チェンジ！」

ダイレンジャー！

キバレンジャー「吼新星、キバレンジャー！」

ルカ「鎧、何でキバレンジャーに？」

キバレンジャー「皆さん知らないんですか？スーパー戦隊シリーズに初めて小学生戦隊が登場したのは五星戦隊ダイレンジャーのキバレンジャーですよ。」

ルカ「え、そうなの？」

鎧「はい。どうだったアコちゃん？」↑変身解除

アコ「・・・」

鎧「あれ、どうかしたの？具合が悪い？」

エレン「アハハ、アコちゃんはまだ学園入ってきたばかりだからあんまり慣れてないの。（汗）」

奏「そうなの。だから・・・」

アコ「ねえ・・・」

鎧「ん？」

アコ「・・・」↑ジロジロ

鎧「な、何？」

アコ「伊狩鎧かしら？貴方に最初からハッキリ言っよ・・・ウザイ。」

鎧「え？」

響&奏&エレン（出た。アコちゃんの毒舌・・・）

アコ「アンタ、スーパー戦隊に憧れてるけど、それ大人としてどうなの？」

鎧「それは・・・」

アコ「ゴーオンウィングスの時も二つで一つのゴーオンウィングスっておかしくない？普通ゴーオンゴールドになるかゴーオンシルバ

「になるかそんなに悩まなくてもいいんじゃない？見た時はWパクってたわ。」

鎧「・・・」

アコ「それにゴールドモードがおかし過ぎる。あれ見た時はキモいしお面屋のような感じだったわ。」

鎧「・・・さい。」

アコ「アンタ、スーパー戦隊だけじゃなくて仮面ライダーやプリキュアに憧れてるそうだね。ハッキリ言っけどアンタ幼稚園児？」

鎧「・・・るさい。」

マーベラス「ヤベツ。」

ジョー「鎧の奴、本気でキレるぞ。」

ルカ「やばいやばい！」

エレン「え、何が？」

ハカセ「あいつキレ出すと容赦なく相手が子供でもやるんだ！」

響「は、何それ！？」

奏「アコちゃん、もうやめて！」

アコ「自重したらどうなの？オタクバカ。」

ゴーカイシルバー！ゴールドモード！

ゴーカイシルバーG「うるせえんだよゴラ！オタクバカとかキモいとかウザ過ぎて悪かったな！何ならお前は何だよ！？今まで仮面で正体を隠しやがってあんた何様のつもりだ！？」

アトム「鎧さん！落ち着いて下さい！」

なのは「ワイー！アコちゃんが鎧君を怒らせちゃった！」

奏「喜んでる場合か！」

エレン「とにかくあいつを止めさせよう！」

アコ「私がやるわ。ドドリー。」

ドドリー「分かったドド。あれ、私の出番これだけドド？」

アコ「うん、これだけ。」

ドドリー「ガン。」

アコ「レッツプレイ！プリキュア、モジュレーション！」

ゴーカイシルバーG「フン、そう来たか。」

ルカ「もうあいつのキャラじゃなくなってる！」

ミューズ「さあ、行くよ。」

ゴークシルバーG「なあ、戦う前に一言言っていいいか？」

ミューズ「好きにどうぞ。」

ゴークシルバーG「何故名乗らない？」

ミューズ「・・・」

ゴークシルバーG「名乗りがあるだろ。例えば爪弾くは何かの調べとかあるだろ？もしかして恥ずかしくて言えないのか？」

ミューズ「そうじゃない。ただ・・・本編にはまだ私の名乗りが出てないから言えないだけ。」

全員「あ。」

響「そういえばまだだったね。」

奏「うん、明日でアコちゃんの名乗りが判明するわ。」

エレン「どんな名乗りだろう？」

ハカセ「というか鎧が凄くやる気満々だけど！」

マーベラス「どっちが強い？」

ゴークシルバーG「ギンギンに行くぜ！」

ミューズ「フン。」

此処からはグロくなってしまうので省略します。↑スンマセン

鎧「・・・」↑死

全員「ミューズつえー!」

ミューズ「こいつ、弱っち。」

マーベラス「スゲエな。」

エレン「ヤバイ。キュアミューズ、超ヤバス!」

響&奏「エレン、それ中の人!」

ジョー「ハモった。」

この後鎧は、メディカルルームに入院しました。

キモい、ウザイ、オタクバカ（後書き）

賢吾「次回は俺達が登場だ。」

ユウキ「勿論私も！」

比奈「私も出ます！」

伊達「次回は俺が出るぞ！よろしくな！」

ユウスケ「何で俺は出られないんだー！？」

あくまでもユウスケは別クラスなのでユウスケを出す予定はありません。

転校生がまた・・・

つぼみ「ハアゝ・・・」

えりか「どしたのつぼみ？そんな大きな溜め息なんかしちゃって・・・」

つぼみ「いや、最近私の出番が増えてるような減ってるような・・・」

太牙「気にしないでいいだろ？誰だって出番が少ないのは当たり前だ。」

ゆり「そうよ。だから気にしない方がいいわ。」

いつき「あんた等に言われたないわ！」

アコ「・・・」

エレン「姫様、この学園どうですか？」

アコ「・・・」

エレン「姫様？」

アコ「スウゝ・・・」

エレン「寝てるんかい！」

響「エレン、今日はアコちゃん頑張ったんだよ。」

奏「そうよ。だから今日の疲れで眠ったそうなの。」

エレン「あ、そっか。姫様、よっぽど疲れてたんだ。おや・・・」

アコ「起きてるけど？」

響& a m p ;奏& a m p ;エレン「」「起きとるんかい!」「」

キンコーンカーンコーン

氷川「あ、皆さん今日も転校生が来るそうです。」

芦原「人数がハンパないぞ。」

翔一「え、またですか!？」

満「またって？」

咲「最近この学園、転校生が多いんだ。」

舞「生徒が多過ぎて困ってるというか何というか・・・」

薫「別に困らないだろ。」

なぎさ「誰が来んの？」

弦太郎「なぎさちゃん、仮面ライダー部に入ろっぜ!」

なぎさ「だから私仮面ライダーじゃないですけど!」

ひかり「何言ってるんですかなぎささん。なぎささんは仮面ライダーBLACKの娘なんだからしつかり・・・」

なぎさ「違う!私はBLACKの娘じゃない!あんな奴と一緒にするな!」

ひかり「え、違うの?」

なぎさ「違うわ!」

映司「おいアंक、何処だ?」

アंकは暫く12月まで休みとなっております。

コスモス「諸君、おはよう。今日からこのクラスの担当になる事になったウルトラマンコスモスです。」

全員「・・・」↑啞然

コスモス「どうしたんだい?」

シャマル「あのコスモス先生、ゾフィー先生は?」

コスモス「・・・」

シグナム「先生、ゾフィー先生は?」

コスモス「・・・」

りん「先生？」

コスモス「では、転校生を紹介します。」

全員「おい！」

するとドアから10人くらい男女がいた。

映司「あ！」

後藤「・・・」

弦太郎「ゲツ、あいつ等もかよ？」

渡「えゝ、勘弁してよ・・・」

良太郎「ハアゝ・・・」

ヒビキ「お、二人もか？」

のぞみ「う、嘘？」

りん「な、何で？」

うらら「どうして・・・」

こまち「皆が・・・」

かれん「驚きね。」

ゆり「……」

フェイト「え、え……」

なのは「うっはっ！」

はやて「なのはちゃん、ホンマに黙っというて。」

賢吾「今日からこの学園に転校する事になった歌星賢吾だ。」

ユウキ「城島ユウキです！」

伊達「俺は伊達明。よろしく！」

比奈「泉比奈です。」

名護「やあ、私は名護啓介。よろしく。」

幸太郎「俺は野上幸太郎だ。」

イブキ「僕はイブキです。」

トドロキ「トドロキっす！」

ダークドリーム「私はダークドリームよ。」

ダークルージュ「私はダークルージュ。」

ダークレモネード「ダークレモネード。」

ダークミント「ダークミント。」

ダークアクア「ダークアクア。」

ダークプリキュア「ダークプリキュアだ。」

ユーノ「ユーノです。」

クロノ「僕はクロノだ。」

コスモス「ではゆっくり楽しんでくれたまえ。」

弦太郎「よお賢吾、ユウキ。」

ユウキ「弦ちゃん!」

賢吾「名前で呼ぶな。」

後藤「伊達さ・・・ぶへっ!」

えりか「お前ウザイ。」

伊達「後藤ちゃん!」

比奈「映司君、アंकは?」

映司「それが、あいつ何処にもいないんだ。」

比奈「あ、そ。」

渡「名護さん、何で来たんですか？」

名護「いや、最近渡の出番が少ないと先生から聞いてたからこの学園に来たんだけ？」

幸太郎「じいちゃん、調子は……」

良太郎「うるせえよ僕の主役を盗んだ孫が。」

幸太郎「……（泣）」

イブキ「ヒビキさん。」

ヒビキ「& a m p・響」「ん？」「」

イブキ「いや君じゃないからね。ヒビキさん、どうですか？」

ヒビキ「まあまあかな？」「」

トドロキ「でも出番が少ないって……」

ヒビキ「それは言わんくていい！」

ダークドリーム「キュアドリーム、お久しぶり。」

のぞみ「ダークドリーム、どうして？」

ダークドリーム「どうやって蘇ったのか知らないけど、またこうしてキュアドリームと会えるなんて嬉しいよ。」

ダークルージュ「あの時はあんな事言っちゃってごめんな。」

りん「いいよ。気にしてないから。」

ダークレモネード「私もキュアレモネードにも悪い事してしまったでアル。」

うらら（何で中の人ネタ？）

ダークミント「キュアミント。」

こまち「分かってる。もう一度貴方の事守りたいわ。」

ダークアクア「何時かは決着をつけよう、キュアアクア。」

かれん「ええ、ダークアクア。」

ダークプリキュア「姉さん、ごめんなさい。」

ゆり「あの時の事なんかもう気にしてないわ。ダークプリキュアと戦えてホントに嬉しかったわ。」

ダークプリキュア「姉さん。」

なのは「うは〜ユーノ君お久し振り〜!」

ユーノ「なのは、頭壊れた?」

フェイト「兄さん、どうして?」

クロノ「フェイトの事がどうも気になってね。だから僕は此処に来た。フェイト、よく頑張ってるじゃないか。」

フェイト「兄さん。」

コスモス「では仲良くするよつにやるんだぞ。」

全員「はい！」

アコ「転校生を合わせて生徒達と合わせると全員で何人なのかな？」

転校生がまた・・・（後書き）

???「ブレイド、勝負だ！」

一真「誰？」

???「なのはさんのあのキャラ、凄く痛い。」

なのは「イエーイ！」

???「・・・」

エレン「ねえ、何か喋ってよ！あんだどんだけ無表情なの！？」

つぼみ「死人キター。」

???「つぼみさん、死人って言わないで下さい。（泣）」

今回はユートピアさんとボッスンさんのコラボになります。

対決！ブレイドVSリュウケンドー！（前書き）

今回はボッスンさんとの初コラボとなります。ユートピアさん、コラボしようかと思いましたが先にボッスンさんからコラボをやります。ごめんなさい。

対決！ブレイドVSリユウケンドー！

その頃、学園の門に灰色のカーテンから少年と少女がやって来た。

「???」へえ、此処がリリキュラ学園ね。」

「???」色々カオスになってるだけしか聞いてない。」

「???」でも行ってみよ。ケンジは剣崎さんという人と戦う為に此処に来たんでしょ?」

ケンジ「そうだよ。美柑はどうして此処に来たいと思ったの?」

美柑「教えないよ。」

ケンジ「あ、そう。取り敢えず学園に入ろうか?」

美柑「OK。」

二人は学園に入った。

教室

一真「いや、何か俺の出番久し振りじゃね？」

朔也「そついえばそうだな。」

陸月「何話から俺達の出番はなかったっけ？」

始「『転校生続出！』以来だな。」

エレン「またキャラクターが増えたら私達の出番が急激に減っちゃうじゃん。」

アコ「私は出番多いとか少ないというのは関係無いけど。」

エレン「姫様、どうしてそんな事を・・・」

すると教室のドアが『ドン！』と開くと、ケンジと美柑がやって来た。

エレン「ん？」

ケンジは一真に近付く。

美柑「ちよつとケンジ。」

一真「な、何？」

ケンジ「剣崎一真さん・・・ですよね？」

一真「そ、そうだけど・・・お前は？」

ケンジ「初めまして、僕は高町ケンジです。」

始「高町？」

陸月「それって、なのはちゃんと同じ名前・・・」

なのは「アハ―！誰か高町って呼んだ？」↑いきなりやって来た

美柑「あ、なのはちゃん。」

エレン（うわゝ、変なのキター。）

美柑「ん、どうかしたの？」

なのは「イエー！君が美柑ちゃん？初めましてー！私は高町なのはです！」

美柑（な、何よなのはちゃんのキャラ！？）

フェイト「なのはー！お前この状況を考えろー！」

なのは「あ、ごめんフェイトちゃん！」

ケンジ（何かこのなのはちゃん、スゲエムカつく。）

はやて「ごめんな。せつかくのゲストなのに・・・」

美柑「いえ、別に気にしてなんかありませんよ。アハハ・・・」

アコ（あの人、確か『TOLLOVEる』のキャラクター、結城美柑だよな？どうしてこんな所に？）

一真「所で、俺に何の用だ？」

ケンジ「あ、実は剣崎さんに言っておきたい事があるんです。」

一真「何だ？」

ケンジ「僕と戦って下さい！」

一真「え？」

省略

美柑「という訳でブレイドVSリウケンドーとの戦いが始まるそうです。」

ヴィータ「いやいや、話の展開飛ばし過ぎだろ！」

なのは「大丈夫だって。問題ないから。」

はやて「問題大有りや！どんだけスピード展開やねん！？」

なのは「いやゝ余り長い事書くのが無理だって作者が・・・」

フェイト「作者の都合かよ！どんだけ無計画なのよ！？」

エレン（もうこっちも突っ込みたいわ。）

アコ「それよりも始まるよ。戦いが・・・」

一真「リュウケンドーという番組、見た事がある。魔弾キーを使って獣王を召喚、必殺技発動、変身する為にキーを使う事は覚えてるぞ。」

ケンジ「そうですか。なら光栄ですね。」

一真「俺も一回だけリュウケンドーと戦って見たかった。でも鳴神剣二じゃないのが意外だけど。」

ケンジ「え？」

一真「ま、いつか。行くぞ！」

ケンジ「はい！ゲキリュウケン！リュウケンキー、発動！」

チェンジ、リュウケンドー！

一真「変身！」

ターンアップ！

ケンジ「撃龍変身！」

二人は変身した。

リュウケンドー「リュウケンドー、ライジン！」

陸月「あれがリュウケンドーか。」

朔也「剣崎と少し似てるな。」

始「だがブレイド、油断は禁物だ。」

ブレイド「分かってるって。じゃあ・・・やるか。」

リュウケンドー「よし。」

ブレイド「ていうかお前左利きか？」

リュウケンドー「あ、はい。」

ブレイド「何だよ右利きかと思つたよ。」

リュウケンドー「何かよく分からないけどごめんなさい。」

ブレイド「別にいい。戦いを始めるぞ。」

リュウケンドー「はい!」

ビート「ていうか何でラブギターロッドを弾いてから戦いがスタートなのよ!？これおかしいでしょ!」

美柑「まあそう気になさらず・・・」

ビート「気にするわ!」

.....

ブレイド「・・・」

リュウケンドー「・・・」

ビート「いい？勝負、始め！」

ブォーン！↑ギターを弾く音

リュウケンドー「うおおおお！」

ブレイド「ウエーイ！」

陸月「剣崎さん、頑張って！」

朔也「剣崎、負けるな！」

始「・・・」

ビート「さあ始めましたブレイドVSリュウケンドー！果たして勝つのはどっちでしょうか！」

アコ「全く、付き合ってらんない。」↑帰った

ビート「姫様、そう言わずに二人の戦いを見て下さい。」

アコ「・・・」

スラッシュ！

ブレイド「ウェイ！」

リュウケンドー「おっと！」

ビート「ブレイドはスラッシュで攻撃！だがリュウケンドーが一足避けたー！」

美柑「雑談するだけなのに・・・」

フェイト「何故かエレン、司会をやってる。」

なのは「まあいいんじゃない？そういうとこ、嫌いじゃないわ！」

はやて「なのはちゃん、お前ええ加減にせえ。」

美柑「ねえ、こっちなのはちゃん何か凄くム力つくんだけど。」

ヴィータ「気にしん方がいいだろ。あいつは元々そういうキャラだから。」

美柑「あ、そう・・・」

リュウケンドー「ナックルキー、召喚！」

マダンナツクル

リュウケンドー「出でよ、マダンナツクル！」

ビート「リュウケンドーはマダンナツクルを召喚した！さあどうするブレイド！」

ブレイド（「うういう時は・・・よし、このカードで行くか。」）

陸月「剣崎さん、リュウケンドーに勝てるのかな？」

朔也「剣崎を信じる陸月。あいつは絶対に勝つ。」

始「そうだ。今のあいつならリュウケンドーを倒す。必ず・・・」

陸月「剣崎さん・・・」

リュウケンドー「うおおおおお！」

メタル！

リュウケンドー「うおっ！効かない！何で！？」

ブレイド「甘いな。俺はメタルのカードを使ったのさ。」

ビート「何とブレイドはメタルのカードを使ってリュウケンドーの攻撃を完全に防いだー！」

美柑「凄い。あれがブレイドなんだ。」

フェイト「うん。ブレイド達はこれまでのアンデッドを全て封印したの。」

ヴィータ「ブレイドこそが最強のライダーだ。」

なのは「リュウケンドー！負けないでー！」

美柑（ムカつく！）

リュウケンドー「やりますね。でもこの戦い、僕が勝ちます！サンダーキー、発動！」

チェンジ、サンダーリュウケンドー！

リュウケンドー「雷電武装！」

ビート「リュウケンドーはサンダーキーを使うとリュウケンドーからサンダーリュウケンドーに変わったー！」

サンダーリュウケンドー「サンダーリュウケンドー、ライジン！」

ブレイド（サンダーリュウケンドーに変身した。一体何をするつもりだ？）

サンダーリュウケンドー「イーグルキー、召喚！」

サンダーイーグル

サンダーリュウケンドー「出でよ、サンダーイーグル！」

サンダーイーグル『キー！』

ブレイド「何！？」

ビート「おおっと！サンダーリュウケンドーはサンダーイーグルを召喚したー！」

サンダーリュウケンドー「剣崎さん、今度は空中戦で勝負ですよ！
サンダーイーグル！」

サンダーイーグル『キー！』

ビート「サンダーリュウケンドーとサンダーイーグルを合体した！
その名も・・・」

サンダーウィングリュウケンドー「サンダーウィングリュウケンドー、ライジン！」

ビート「出ましたー！サンダーウィングリュウケンドー！」

美柑「雑談したいのに・・・何で試合のようになってるのかしら？」

はやて「アカン、突っ込みたい所いっぱいあるわ。」

ヴィータ「まあ応援するしかないか。」

フェイト「それもそうだね。」

ブレイド「空中戦か。おもしろい！ではこっちも・・・」

フュージョンジャック！

ビート「ブレイドはジャックフォームに変身！翼を広げるとブレイドは飛んだ！」

ブレイド」「ウェイ！」

サンダーウィングリュウケンドー「ハアッ！」

その頃、教室では・・・

コスモス「何で誰もいない？」

また場所は変わる。

ビート「凄い！サンダーウィングリュウケンドーとブレイドジャックフォーム！どれも激しい戦いが繰り広げてます！」

美柑「ん？」

はやて「美柑ちゃん、どないしたん？」

美柑「いえ、何でもないわ。（ビートの声って何処かで聞いたような気が・・・）」

サンダーウィングリュウケンドー「貰った！」

サンダー、スラッシュ

サンダーウィングリュウケンドー「え？」

ライトニングスラッシュ

ブレイド」「うおおおおおー！」

サンダーウィングリュウケンドー「（ダメだ、間に合わない！）う

わあああああ！」

美柑「ケンジ！」

ドーン！↑サンダーウィングリュウケンドーが落ちた音

全員「・・・」

リュウケンドー「フゝ、参った。」

ビート「リュウケンドーダウン！よって勝者は仮面ライダーブレイド！」

陸月「やったー！」

朔也「あいつ、やりやがったな。」

始「フツ。」

ブレイド「大丈夫か？」

リュウケンドー「あ、はい。ん？」

ブレイド「いい戦いだった。またよろうぜ、リュウケンドー。」

リュウケンドー「はい、ブレイド。」

二人は握手をした。

数分後

ケンジ「サインありがとうございます！」↑ゴークアイジャーとライダー達にサインして貰った

美柑「ありがとう。」↑同じく

マーベラス「気にすんな。」

一真「困った時はいつでも此処に来い。」

ケンジ「はい。」

一真「あ、それと・・・俺もケンジ達の世界へ行きたいな。」

ケンジ「そうですか。なら楽しみにしてます。剣崎さん、学園頑張ってください。」

一真「ああ。」

なのは「美柑ちゃん！また遊びに来てね〜！」

美柑「う、うん。（誰が二度とこんな所に行くか！）」

ケンジ「さようなら！剣崎さん！」

二人はサインを貰った後に帰った。

陸月「リュウケンドー、かっこよかったですね。」

一真「ああ。」

バスコ「何で俺だけサインがないんだ？」

対決！ブレイドVSリュウケンドー！（後書き）

ボッスンさん、ありがとうございました。

豪快にハロウィン祭りだー！

響「奏、エレン。今日は何の日か知ってる？」

奏「勿論。」

エレン「何たって今日は……」

響&奏&エレン「ハロウィン祭りだー！」

響「いや、光の国にもハロウィンがあるんだ。」

奏「ちょっと驚いたけど何かいい感じだね。」

エレン「加音町でもハロウィン！光の国でもハロウィン！今日で二連続ハロウィン！」

響「さうてハロウィンやりましょうかー！」

マーベラス「おい。」

響「ん？」

マーベラス「何で俺達ゴークイジャーがハロウィンに参加しなきゃいけないんだよ？」

弦太郎「何で俺も？」

響「分かってないな」マーベラス君。海賊にもハロウィンがあるの。海賊であるマーベラス君達には何か似合うかな？と思って」

ジョー「何でマーベラスの服を着てる？」

ルカ「そういえばあんたマーベラスの格好してたっけ？」

マーベラス「俺の服パクったか？」

響「パクってないよ！」

奏「まあまあ。所で弦太郎さん」

弦太郎「な、何だ？」

奏「魔女の話しますか？この話、おもしろいですよ」呪われるようにね。」

弦太郎「うわああああ！呪われるのは嫌だー！」↑逃げた

奏「あゝあ、行っちゃった。」

全員（軽っ！）

ハカセ「それにしてもエレンちゃんの格好が何で黒猫？」

エレン「私は序盤までは黒猫の姿だったのよ♪だから今でも黒猫なのよ」

ルカ「へえ、あれ？所でアイムは？」

鎧「あれ？さっきまでいましたのに・・・」

エレン「あ、アイムならトイレよ。」

ルカ「フーン。」

奏「どうします皆さん？ハロウィンを楽しめるかアイムさんを待つかどっちにする？」

鎧「あ、アイムさんが来るまで待ちますか？」

マーベラス「仕方ない。アイムが来るまで待つか。」

響「はいけっとい。」

5分後

全員「・・・」

10分後

全員「・・・」

15分後

ルカ「何かアイルムのトイレ長くない？」

ジョー「嘘ついたのか？」

響「そんな訳ないですよ。もう少ししたら絶対に来ますから」

20分後

ハカセ「帰りたい。」

25分後

響「あれ？おかしいな？もう少ししたら来るはずなのに・・・」

マーベラス「もう待てん。」

エレン「もう少しだけ、お待ち下さい」

30分後

アイルム「あ、あの・・・」↑やっと来た

ルカ「アイルム遅いよ。あれ？何で顔だけしか出てないの？」

アイルム「いや、あの・・・」

アコ「・・・」

鎧「あ、毒舌小学生だ。」

アコ「悪かったね毒舌で！」

アイム「入ってもいいですか？」

マーベラス「ああ、いいぜ。」

アイム「では、参ります。」

響&奏&エレン（ウシシシ！）

全員「・・・」

アイム「どう・・・ですか？／／／」↑姫様の衣装姿と顔にメイクアップ

アコ「・・・／／／」↑姫様の衣装姿

マーベラス「な、何だこの感じ？」

ジョー「二人を見てると胸が苦しくなつてく。」

ルカ「は？」↑こいつだけ平気

ハカセ「ハアゝ二人とも素敵。」

鎧「アイムさんは素敵ですけど、毒舌小学生には興味ないわ。」

アコ「な、何ですって!？」

ハカセ「これ以上言うな。皆でハロウインを楽しめようか？」

マーベラス「ああ。派手にハロウインだ。」

ルカ「おい。マーベラス。ジョー。ハカセ。が。い。ねえ、これって一体・・・っていないし！」↑響達を見失った

響&奏&エレン「せーの、ハロウイン作戦大成功！」

全員の男性陣はアイムとアコの姫様の衣装によってメロメロになってしまった。しかし、メロメロになっていないのが一人だけいた。

弦太郎「呪われるのは嫌だ。」

ひかり「大丈夫？」

なぎさ「ハロウインか。」

親バカには気を付けた方がいいかも？

K76星

アコ「ハア〜・・・」

ゼロ「ハア〜・・・」

アコ「ゼロ先生、どうしたんですか？私より溜め息をするなんて・・・」

ゼロ「アコちゃんこそ、溜め息をしてるじゃないか。どうかしたのか？」

アコ「うん、実は・・・」

教室

ティガ『え〜っと、次の勉強はゾフィー先生の代わりに僕が国語の授業を担当します。今日は授業参観なので静かにやって下さいね。』

全員『はい。』

メフィスト（頑張れアコ！パパは応援してるぞ！）

ティガは『幽霊』を書いた。

ティガ『これ、分かる人。』

全員『はい！』

ティガ『アコちゃん。』

アコ『あ、はい。』

ティガ『これ分かるか？』

アコ『えつと・・・』

響（頑張れアコちゃん！）

奏（あの漢字なら分かるはずよ！）

アコ『えつと・・・』

メフィスト『アコー！あの漢字なら分かるはずだぞー！大丈夫だ！可愛いアコなら出来るはずだ！』

アコ『・・・／／／』

全員『・・・』

ティガ『すみませんがその人、授業中なので静かにして下さい。
他の迷惑になりますので・・・』

メフィスト『あ、すいません。』

全員『ハハハハハ！』

アコ（もう、パパったら！／＼／）

アコ『というわけよ。』

ゼロ『あゝそんな事があつたんだ。』

アコ『で、ゼロ先生も？』

ゼロ『ああ、親父のせいで俺はもう不愉快になってしまったんだよ。
』

ゼロは宇宙パトロールをし終わり、ゼロはウルトラサインを出した。

ゼロ『こちらウルトラマンゼロ。以上はなし。すぐ光の国に……。』

セブン『おゝい、ゼロ！』

ゼロ『お、親父！？』

セブン『無事だったか。』

ゼロ『何の用だ！？』

セブン『いや、最近ゼロ一人で出掛けてるからたまには連いて行くかと……。』

ゼロ『連いて来んくていいわ！それに俺はもう一人で行けるから心配する必要ねえだろ！』

セブン『そういう訳にはいかん。たまには私と一緒にパトロールを……。』

ゼロ『したくねえわ！このバカ親父！』

セブン『バカ親父はないだろ！愛しい息子が私の事がバカ親父って……。』

ゼロ『うるさい！』↑逃げた

セブン『おい！待ってくれゼロー！』↑追いかけた

ゼロ「もう酷い事沢山だよ。」

アコ「あーやっぱり。」

ゼロ「俺とアコちゃんは、似た者同士だな。」

アコ「うん。」

ゼロ「俺の親父もアコちゃんの親父には気を付けた方がいいな。」

アコ「うん。」

ゼロ「さ、光の国に帰るとするか。皆心配してるかもな。」

ミューズ「うん。」↑変身

二人は光の国に帰った。

親バカには気を付けた方がいいかも？（後書き）

次回、誕生日記念！

作者の誕生日（前書き）

今回は短いですしコラボです。ですがユートピアさん、ごめんなさい。二人の出番がめっちゃ少ないです。（汗）これだけは勘弁して下さい。

作者の誕生日

校門

作者「全く、何だよこんな時に僕を呼ぶなんて・・・」

作者は廊下を通り回ってから教室に入った。

作者「何の用なの？僕はこれから・・・」

パンパンパン！↑クラツカーの音

全員「作者^{さん}！誕生日おめでとうー！」

作者「え？」

士「知らないのか？明日は作者の誕生日だぞ？」

作者「あ！」

海東「だから作者の為に誕生日パーティーを用意したのさ！」

作者「あ、ありがとう。でこのケーキは？」

鎧「実はゲストの方と一緒にケーキを作ったんです！」

作者「ゲスト？」

鎧「はい！ゲストカモン！」

楓「あ、こんにちわ。」

雪「・・・」

作者「楓って確か前も来たよな？」

楓「はい！」

巧「おかげで俺は酷い目に会ったからな。」

草加「それはお前のせいだろ。」

エレン「雪は初めてだそうです。」

作者「そうか。」

雪「私、このケーキの味見をしたの。そしたら美味しかったわ。」

つぼみ「まさかあの死人がクッキーを作れるとは、ちょっと見損な
ったわ。」

楓「それ私の事ですか？」

つぼみ「お前以外に誰がいる？」

楓「つぼみさん、酷い。（泣）」

雪「パーティーで盛り上がりましょ。」

えりか「そうだね！よし、いっぱい食べるぞー！」

全員「おー！」

作者（皆、ありがとう。）
（

作者の誕生日（後書き）

明日から僕は16歳になります。今後僕の小説をよろしく願います！

見学忍者！

教室

えりか「あゝ暇。久し振りの出番なのに暇過ぎる。」

いつき「確かに。そういえばつぼみは？」

ゆり「風邪で休みよ。」

えりか「そっか。あゝあ、つぼみがいたらファッション部の仕事をしていたのにな。」

いつき「まあしょうがないよ。風邪は誰だつて引くから。」

???「今日はつぼみさんがいないですか・・・残念ですね。」

ゆり「そうね。今日は・・・ん？」

えりか& a m p : いつき「ん？」

???「ん？」

.....

???「あ、こんにちわ。」

えりか& a m p : いつき& a m p : ゆり「「「あんた誰!？」」」

えりか「あ、何だ見学者か。てっきり不審者かと・・・」

???「何処かです!？」

いつき「えりか。」

えりか「ごめんねごめんねー!」

ゆり「古過ぎ。」

えりか「え?」

ゆり「で、コスモス先生が光の国まで送ってくれたのね?」

???「はい。」

えりか「名前は?」

???「初めまして、日向ヒナタです。つばみさんに頼まれて此処に来ました。」

いつき「つばみから?」

ヒナタ「つばみさん風邪ですか？」

ゆり「ええ。」

ヒナタ「そうですか・・・」

えりか「ヒナタさん落ち込まない。で、つばみに何て頼まれたの？」

ヒナタ「実は・・・『リリキュラ学園はおもしろい学園だから私達の学園に来て見学してから入学したらどう？』とか頼まれました。」

いつき「いいですかヒナタさん？この学園何もおもしろないしキャラ崩壊が多いですよ。」

ヒナタ「え、どういう事ですか？」

ゆり「例えばこれ。」

ヒナタ「？」

なのは「ワッハハ！このカオス学園最高！おもしろいくらいこの学園最高！」

フィリップ「この学園はいい感じ」

ヒナタ「酷い。色々と酷い。」

えりか「でも学園は酷いだけじゃない。いい所もあるんだよ。」

ヒナタ「え、何処ですか!？」

いつき「連いて来て。」

体育館

マーベラス「おりゃ!」↑バスケをやっていた

ヒナタ「バスケ・・・ですか?」

ゆり「ええ。マーベラス君を見なさい。めんどくさがりだけどたまにはやる時があるのよ。」

ヒナタ「・・・」

えりか「じゃあ次!」

図書室

ハカセ「いい？これをね・・・」

ラブ「おゝ成る程。」

のぞみ「ありがとうハカセさん！」

いつき「あ、ピンクチームは図書室で勉強か。というかハカセさんに教えてるし。」

ヒナタ「ホントにいい所なんですね。」

ゆり「まあね。私も大学に向けて頑張ってるわよ。」

ヒナタ「そうなんですか？」

えりか「では次！」

理科室

ほのか「・・・」↑色んなガイアメモリを作っている

ウルトラマン80「どうだ雪城君？何とか出来そうか？」

ほのか「ええ、まあ・・・」

いつき「よし、別の場所へ行こう。」

ヒナタ「え、もうですか？」

ゆり「あんな怪しい所見る訳ないでしょ？」

ヒナタ「あ、確かに・・・」

家庭科室

奏「天道さん、どうすれば一番美味しいケーキを作れるのですか？」

総司「おばあちゃんが言っていた。一番大切なのは・・・笑顔だ。」

奏「笑顔・・・ですね。」

えりか「いやゝ今日の天道さんはかっこいい。」

ヒナタ「素晴らしい香りですね。」

いつき「見学が終わってからケーキを食べようか。」

ヒナタ「はい。」

ゆり「では次。」

音楽室

エレン&mp・アコ「~~~~~」

ヒナタ「いい歌声ですね。」

えりか「うんうん！いい感じだね！」

いつき「まだまだ行くよ！」

グラウンド

ウルトラマンダイナ「本当の戦いは・・・ここからだぜー！」↑ピ
ツチャー

ゴークイブルー「フン、来い。」↑バッター

咲&舞「ジョーさん頑張れー！」

満&薫「先生負けないでー！」

ウルトラマンダイナ「行くぜー！」↑ウルトラフォーク

ゴークイブルー「フッ！」↑打った

ウルトラマンダイナ「何っ!？」

ゴークイブルー「フッ。」

その時、不思議な事が起こった！ゴークイブルーが打ったボールが
黒くなり、ボールは宇宙まで飛んで行き、何処からの惑星に激突す
ると、惑星は碎け散った！

ウルトラマンダイナ「・・・」↑啞然

咲&a m p ; 舞&a m p ; 満&a m p ; 薫「「「「・・・」」」」
↑茫然

ゴ―カイブルー「何だ今のは？」

えりか&a m p ; いつき「「・・・」」↑啞然

ヒナタ「アハハハ・・・（汗）」

ゆり「一応見学は終了ね。」

教室

えりか「ヒナタさん。この学園はどう？」

ヒナタ「おもしろくなかったのですが、とても楽しかったです！」

いつき「そっか。でもつばみがいなかったのは残念だったね。」

ゆり「ええ、花が咲いたつぼみちゃん♪何ちゃって」

つぼみ「お前等いい加減にしろー！」↑ドアを突き破った

えりか「つ、つぼみ!？」

ヒナタ「つぼみさん!？」

いつき「まさかラストの所まで出て来るとは・・・」

ゆり「まだ熱があるじゃない。メディカルセンターから抜け出して来たの?」

つぼみ「当ったり前だ!皆美味しい所を持っていきやがって!ヒナタさんに迷惑だろうが!」

えりか「いや迷惑かけてないから。」

ヒナタ「つぼみさん、今回は許してやって下さい。」

つぼみ「ヒナタさん?」

ヒナタ「私は最初にこの学園に来た時、色々酷かったけど・・・えりかさん達はいい所へ案内してくれました。私、嬉しいんです。この学園が大好きです。でも入学はやめます。私には待っている人がいるんです。だからこの学園の入学はやめます。」

つぼみ「・・・」

えりか「ヒナタさん・・・」

つぼみ「フン、合格だよ。ヒナタさん。」

ヒナタ「え？」

つぼみ「ヒナタさんならそう言うと思ったよ。私はね、ヒナタさんはこの学園をどう思っのか試してた。でもその結果、私の負けだよ。」

ヒナタ「つぼみさん・・・所でいいんですか？そろそろ逃げなくても？」

つぼみ「え？うわっ！」↑縄に縛られた

えりか& a m p・いつき& a m p・ゆり「」「！」」「」

カミィラ「見つけたわ」

つぼみ「ギエッ！」

カミィラ「さあ、おいで。」

つぼみ「うわあー！」↑連れてかれた

えりか& a m p・いつき& a m p・ゆり「」「」・・・「」「」

ヒナタ「ウフフ」

見学忍者！（後書き）

次回、待ちに待った結果発表？

背が伸びたい！PART 2

ヴィータ「絶対に背伸びしてやるぞー！」

シグナム「あ、そう。」

シャマル「頑張ってね。」

ヴィータ「おいおい二人とも冷た過ぎるぞー！」

シグナム「前回の雪城の薬を飲んでミクロのように小っちゃくなっただろ？」

シャマル「そうぞ、あの時私達酷い目に遭ったんだからね。」

ヴィータ「いやいや、あたしも酷い目に遭ったんだぞー！」

シグナム「は？そんなもん知らん。来海の間になればいいだろ？」

ヴィータ「それどどういう事だよ！？それに、あんな背の低い奴なんかにすんな！」

シャマル「そんなに背伸びたいならほのかちゃんの所に行けば？そうすれば背が伸びるわよ。」

ヴィータ「もう二度とあんな所へ行かんわ！」

シグナム「だったらどうする？」

ヴィータ「フン、決まってる。響の所へ行く！あいつだったら絶対に何とかなる！よし、二人とも行くぞ」

シャル「結局私達も行くんだね。」

シグナム「ハア……」

響の家

ヴィータ「という訳なんだが……」

響「成る程な、だいたい分かった。」

ヴィータ「あんたデイケイドか!？」

シャル「どうなの?」

響「うーん、考えたけどやっぱり運動と栄養バランスの食事、規則正しい生活だよ。」

ヴィータ「えゝそれがよ?」

響「ベルカであるあんたが弱音をはいてどうする！？早速運動をやるよ！」

ヴィータ「運動からかよ？」

運動

響「じゃあ先ずはランニングを行うよ。」↑ジャージ

ヴィータ「はい。」↑ジャージ

響「やめてもいいよ？あんたはずっと子供のままになるから。」

ヴィータ「いや、やる！」

響「よろしい。いい？ランニングは訓練と同じだよ。」

ヴィータ「訓練と同じ・・・」

響「やる気満々だね。それでいいよ、先ずは世界一周するよ。」

ヴィータ「世界一周！？いやいや待て待て！世界一周ってお前正気

か！？何年かかると思ってたんだよ！」

響「大丈夫。私は世界一周してるからね。走りで・・・」

ヴィータ「スゲーなおい！」

シャル「大丈夫かな？こんなん・・・」

シグナム「見るしかないだろ。」

2年後

ヴィータ「・・・」↑轢死

響「大丈夫？」↑年が変わってない

シグナム&シャル「・・・」

食事

響「私じゃどうにもならないから助っ人呼んで来たよ。」

ヴィータ「そうか。」

こまち「こんにちわ♪」

シャル「あ、こまちちゃん♪」

こまち「シャルさんお久し振りです♪」

ヴィータ「それはいいから早く始めて。」

こまち「はいはい♪」

数分後

こまち「どう?」

ヴィータ「スゲー!」

響「豪華だな。」

ヴィータ「いただきます!」

シグナム「美味そうだな。」

シャル「だよね。私も食べて・・・」

ドサツ! ↑ヴィータが倒れる音

ヴィータ「・・・」 ↑死

響「ええええええええええ！？」

シグナム「ま、まさか・・・」

こまち「実は一品だけ羊羹入れたの♪」

シャマル「流石こまちちゃん♪」

シグナム「喜んでる場合か。」

生活態度

響「そういえば機動六課の生活って何なの？」

シグナム「真夜中では任務又は訓練を行っている。寝る時間は遅いかな。」

響「へえ・・・」

ヴィータ「で、あたしが規則正しい生活をしなくちゃいけないって事かよ！？」

響「当たり前。ゆりさんの言う通り、『寝る子は育つ』だよ。」
ヴィータ「うう、くそ……」

そして……

ヴィータ「フン。」↑デバイス姿

響「すいません伊達さん。屑ヤミーのプログラムを持って来ちゃって……」

伊達「いや、気にしてないよ。あの子はどれだけ成長したのか俺も見えたかったから。」

ヴィータ「来い。屑ヤミー共!」

屑ヤミー達「うううううう!」↑プログラム

ヴィータ「行けー!」↑ビー玉をハンマーで打つ

ドン!↑大爆発

ヴィータ「よし!」

ポーン！↑ビー玉が木に当てると跳ね返った

チーン！↑ヴィータの腹部に直撃

ヴィータ「お、こおおおおお！」

響「ええええええええ！？」

ヴィータ「ちょ、ちよつとどうな・・・」

ドーン！↑上からおけが降って来るとヴィータの頭に当たった

ヴィータ「あ、あゝ・・・」↑気絶

シグナム「ハァ、油断大敵だな。」↑帰った

シャマル「もう、付き合ってもらえないわ。」↑同じく

伊達「あ、俺用事思い出した。じゃあ後よろしくね。」↑同じく

響「あ、ちょ・・・どうしよう？」

ヴィータ「ハア、酷い目に遭った。」↑頭に包帯

響「もう諦めたら？」

ヴィータ「諦めろんぞ！絶対に諦めろんぞー！」

響「ハア……」

何故黒が一人だけ？

なぎさ「ん……」

ひかり「ん？どうかしたのですかなぎささん？」

なぎさ「何で……何で黒プリキュアは私だけなのよー！」

ほのか「文句言っならキャラを作った人に言ったらどう？」

なぎさ「言えるかー！だいたい黒プリキュアなのは私一人だけって
どっという事！？私だけ仲間外れじゃん！」

ひかり「確かに、今までプリキュアシリーズで黒プリキュアはなぎ
ささんだけです。どうしてなんでしょう？」

ほのか「だからキャラを作った人に文句言ったら？」

なぎさ「だから言えるかー！黒プリキュア……」

ひかり「なぎささん。あれ？でも黒プリキュアいますよ。例えばダ
ークドリームとかダークプリキュアとか……」

ほのか「確かにそう言われれば黒だよ。ね。」

なぎさ「あれ違うじゃん。というかあの人達主人公じゃな……」

↑ダークドリームアタックとダークフォルテウェイブ

ほのか「なぎさー！」

ひかり「言っではいけない事を言うからこんな事になりますよ。」

ダークドリーム「フン！」

ダークプリキュア「バーカ。」

なぎさ「くぅ・・・」

???「甘いぞキュアブラック！」

なぎさ「ん、この声は!？」

???「俺達がいるぞ！」

なぎさ「もしかしたら！」

BLACK「仮面ライダー・・・BLACK！」

BLACK RX「俺は太陽の子、仮面ライダーBLACK RX
！」

なぎさ「よし帰れ。」

BLACK&BLACK RX「え？」

なぎさ「帰れー！」↑二人同時にコブラツイスト

BLACK&BLACK RX「ギャアアアア！」

ほのか「凄い。」

なぎさ「早速だが黒プリキュアを探す為に旅へ！」

ほのか「いやいや、ディケイドじゃないから！」

ひかり「なぎささん。あれ・・・」↑ひかりは指を差す

なぎさ「ん？」↑ひかりが差した方向へ向く

りん「・・・（泣）」↑オレンジプリキュア一人だけ

こまち「・・・（泣）」↑緑プリキュア一人だけ

くるみ「・・・（泣）」↑紫プリキュア一人だけ

ゆり「・・・（泣）」↑銀色プリキュア一人だけ

ひかり「誰だって仲間外れはいます。なぎささん、これ見てどう思います？」

なぎさ「そうだね。やっぱり私、こういうの間違ってたかな？」

ほのか「なぎさ、何時だって黒プリキュアは必ず登場する。『スマイルプリキュア！』に黒プリキュアが現れるかどうかは分からない。だからなぎさ、黒プリキュア登場するまで待ちましょ。」

なぎさ「ほのか・・・」

ほのか「なぎさ・・・という訳でガイアメモリの実験台でお願いね

♪
」

なぎさ「えっ!?!」

ほのか「Let's メモリトライ!」 ↑なぎさの腕にガイアメモリをさす

オーシャン!

なぎさ「ギアアアアア!」

数分後

なぎさ「あれ?どうなったの私?」

ほのか「実験成功ね♪」

なぎさ「ん?ぎゃああああ何じゃこりゃああああ!?!」 ↑体全体が水

ほのか「これでなぎさを飲めるわ♪」

なぎさ「やめてー!」

ひかり「ほのかさん、なぎささんと友達じゃなかったんですかね?」

オンドウルは意味が分からないのでやめましょう

一真「橘さん、ちょっといいですか？」

朔也「何だ？」

一真「橘さん、フォーゼ本編でソリヤナイレシヨ！？」

朔也「は？」

一真「ソリヤナイレシヨ！？」

朔也「おい剣崎、言ってる事が分からんぞ。」

一真「だからソリヤナイレシヨ！？」

朔也「すまん剣崎、お前の言葉が理解出来ない。」

一真「ダディヤナザン！」

エレン「あゝうるさい！」

スバル「集中出来ないんだけど！」

ギンガ「私達久々の出番だね♪」

ティアナ「そうよこのバカ作者。」

すみません。（汗）

スバル「一真さん。うるさいでどっか行って下さい。」

一真「はい。」↑落ち込む

ジョー「・・・」

一真「ダディヤナザンがゾディアーツなんて、ウゾダドンドコドーン！」

アंक「おい映司、そこにいるさい奴がおるぞ。」↑復活

映司「あゝ気にしない。」

伊達「一真ちゃんのオンドウル語、意味不明だわ。」

後藤「そうですね。一応あいつには・・・」

えりか「黙れつつってんだろ。」

後藤「orz」

伊達「えりかちゃん。これ以上後藤ちゃんには傷付くのはやめてくれ。な？」

えりか「はい」

一真「キィダッダンゼシヨ！？」

えりか「黙れ！」

一真「ウエーイ・・・（泣）」

一真「ヘシン！」

一真はブレイドに変身した。

照井「おい、普通に言え。」

アクセル！

照井「変・・・身！」

照井はアクセルに変身した。

アクセル「行くぞ！」

ブレイド「ウェーイ！」

アクセル「お前の言葉が意味不明だからお前と戦うのやめた。」

ブレイド「ガン！」

照井「普通の言葉が喋らないお前とは友達になる事は出来ない。」
↑帰った

一真「俺は今、ウシロニハラガタツテイル。アンダニルラギラレタ
ギブンダアツ！」

全員「うるさい！」

一真「ウェーイ……（泣）」

始「オンドウルはやめておこう。」

結論、喋る時は普通の言葉で便利！

プリキュアではないのに何故プリキュアと呼ばれる？（前書き）

何かこのネタが適当過ぎる件について。

プリキュアではないのに何故プリキュアと呼ばれる？

ひかり「・・・」

くるみ「話って何？今忙しいんだけど？」

ひかり「あの、くるみさん。さっきから気になる事がありますが言
っていいですか？」

くるみ「いいけど、何？」

ひかり「どうして・・・どうして私とくるみさんはプリキュアって
呼ばれてるのですか？」

くるみ「え？」

ひかり「だって私とくるみさんは『キュア』付いてないからプリキ
ュアとは言わないじゃないですか。それなのに何故私とくるみさん
はプリキュア呼ばわりされるのですか？」

くるみ「いや知らないから！私そついうの知らないから！」

ひかり「そうですか。なら誰に言えばいいのですか？」

くるみ「そこまで誰かに言う！？いや、のぞみ達に聞いても何も知
らないから！というかというかというかそれ文句だとやめて！？」

ひかり「うーん、ならどうすればいいのでしょうか？」

くるみ「もう付き合ってたらない、私帰るから。」

ひかり「あ！いい事思いつきました！」

くるみ「ん、今度は何よ？」

ひかり「これでどうでしょうか？」

ひかりの思い付き

『輝く命、キュアシャイニールミナス！光の心と光の意思、全てを一つにする為に！』

『青い薔薇は秘密の印、キュアミルキローズ！』

思い付き終了

くるみ「・・・」

ひかり「どうでしょうか？」

くるみ「ドアホ。よく考えて見て？確かにのぞみ達はキュアを付けてるけど、私とひかりの場合キュアを付けたら名前が言いづらくなっちゃうの。それだけではない、よく題名を見てご覧？『ふたり』と『5』の数字があるからそれ以上プリキュアのキャラクターを増やさなかった問題があるの。でもオールスターズではプリキュアメンバーとしてカウントしてるの。だから・・・ん？」

ルミナス「よし、行こう。」↑何故か変身

くるみ「ちょいちょいちょい！何処行くの！？」

ルミナス「決まってるじゃないですか。私とくるみさんの名前をキュアにしていくようにする事を言いに来ます。」

くるみ「駄目駄目駄目！私キュアなんか付ける必要ないから！だいたいキュアを付けて欲しいという事を考えてるのはあんなだけでしょ！？」

ルミナス「行つて来ます。」

ローズ「行くなー！」↑変身そして必殺技

ルミナス「フ。ーザガード。」

フ。ーザ「な、何故！？ギヤアアアア！」

ローズ「何か変な人が来て変な人を盾にしたー！」

ルミナス「行こ。」

ローズ「もうやめてー！」

ジャンボット「お前リリキュラ学園に出るのか？」

ジャンキラー「ああ、何かよく分かんないが・・・」

平成ライダーの中でライダーキックが無い人がいた

「「「新年あけましておめでとございます!」「」」

オーズ「今更過ぎるかもしれませんがどうか『リリカルキュアライダー学園』をよろしくお願いします!」

フォーゼ「もう溜まんねえー!」

カブト「うるさい。」

W「あれ?ヒビキさんは?」

デイケイド「あれだよあれ。」

キバ「ん?」

響鬼「orz」

龍騎「あれ?ヒビキさん、どうかしたのですか?」

響鬼「何で・・・何で俺だけライダーキックがないの?」

全員「「「・・・」」」

響鬼「皆つてさ、ライダーキックしてるよね?それなのに何故俺だけライダーキックなしってどういう事?」

ブレイド「確かに平成ライダー主人公の中でライダーキックなしな

のは響鬼さんだけですな。」

アギト「そうですね、皆ライダーキック持ってるし。」

響鬼「でも電王はどうよ？ライダーキック持ってなさそうだし・・・」

電王「いや、でもよ。俺『超電王&デイクイド』でライダーキック的なもん持ってるから。」

響鬼「あれライダーキックじゃないし。ただのキックじゃないの？」

電王「バカ野郎！これはな、ただのキックには見えるが、ライダーキックと一緒になんだよ！」

全員「え、そうなの！？」

電王「何だよその反応！？」

響鬼「なあ、誰でもいいからライダーキックの修行をさせてくれ！」

クウガ「これは困ったな。」

アギト「うーん、あれ？でも響鬼さん、主人公ライダーでもライダーキックしていないライダーいますよ。例えば仮面ライダー・真とか・・・」

響鬼「あれどう見たってライダーじゃないじゃん。だって・・・だってあれバケモン・・・」↑真の必殺技に喰らった

ブレイド「響鬼さん!」

カブト（これは言っではいけない事を言うからだよ・・・）

真「・・・」↑主人公ライダーでもライダーキックなし一号

響鬼「・・・」↑同じく二号

ファイズ（何か俺の喋ってる所がない件について。）

平成ライダーの中でライダーキックが無い人がいた（後書き）

ユウスケ「俺を出させろよ。」（泣）

作者「嫌だ。」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2551t/>

リリカルキュアライダー学園！

2012年1月5日23時50分発行